静岡市文化財保存活用地域計画(計画案)

静岡市 観光交流文化局 文化財課

静岡市文化財保存活用地域計画 目次

序章	第5章 文化財の保存と活用に関する
I 計画作成の背景と目的…2	課題、方針、措置125
2 計画期間と進捗管理4	Ⅰ 保存、活用の考え方126
3 本計画の位置付け5	2 静岡市の文化財に共通する保存
4 本計画の対象10	と活用129
	3 歴史文化の特徴ごとの保存・活
第 章 静岡市の概要	用…138
I 自然的・地理的環境······Ⅰ2	
2 社会的環境17	第6章 総合的な文化財の保存活用の
4 歴史的環境28	取組…150
	I 文化財保存活用区域···I5I
第2章 静岡市の文化財の概要と現況	
···57	第7章 文化財の防災・防犯…157
I 指定等文化財······58	Ⅰ 災害史の概要158
2 世界遺産、日本遺産等…69	2 文化財の防災・防犯に関する
3 未指定文化財の件数72	現状⋯⋯⋯⋯ 63
4 文化財の特徴73	3 文化財の防災・防犯の課題と
5 文化財に関する調査の現状…92	方針、措置⋯⋯⋯⋯170
6 文化財を対象とした取組の紹介	
98	第8章 文化財の保存活用の推進体制
	Ⅰ 静岡市の体制173
第3章 静岡市の歴史文化の特徴	2 推進体制175
108	
I 川が作り出した静岡・清水平野	
に広がる豊かな暮らし	
2 連綿と続く政治と文化の中心地	
109	
3 街道の往来と人々の交流…115	
4 平野部と丘陵部で育まれた信仰	
と文化…117	
5 オクシズに息づく伝統文化	
19	
6 海と共存する歴史文化 2	
第4章 文化財の保存と活用に関する	
将来像・基本的な方向性	
···123	

序章

- ・本計画は、市内それぞれの地域性を大切にしながら、市の歴史文化の特徴を明確にし、地域で大切にされている身近な文化財までを含めて、その価値を明確にし、市民の財産として未来への継承を実現することを目的とする。
- ・本計画は、令和7年度(2025)から令和12年度(2030)の6年間を計画期間とする。
- ・本計画は、文化財保護法にもとづく計画であり、静岡県文化財保護活用大綱に整合するものであり、上位計画である第4次静岡市総合計画を踏まえ、関連する分野別計画との連携・整合を図る。
- ・本計画では、文化財保護法の指定の有無に関わらず、市域に広がる歴史的・文化的・自然 的遺産を広義の文化財とする。未指定でも静岡市にとって特徴的なものや市民に身近なも のを含めた幅広い遺産を歴史文化の特徴として取り上げる。
- ・本計画では、「文化財」と、周囲の景観や人々の活動や施設、産業等の「文化財を取り巻 く周辺環境」との密接な関連や統一により生み出される総体を「歴史文化」と定義する。

Ⅰ 計画作成の背景と目的

計画作成の背景

静岡市では先史時代から人々の暮らしが始まり、弥生時代の稲作の伝来とともに人々の生活の場が平野部に定着した。奈良時代には駿河国の国府が置かれ、平安時代から鎌倉時代には駿河湾北部全体に南家藤原氏が展開した。室町時代から戦国時代には今川氏が駿河国守護となり駿河国の発展をもたらし、それを礎に、徳川家康により駿府城下町が形成された。家康は駿府城で大御所政治を行い、その後も、現在に至るまで、各時代で中枢都市として位置づけられてきた歴史を有している。また、市域を東西に貫く東海道や戦国時代から発展した清水港により、陸路、海路の要衝として、人やものの往来とともに歴史文化が築かれてきた。

市域は、北は標高 3,000 メートルを超える南アルプスの嶺に接し、南は駿河湾に至る。南アルプスの嶺を源流とする安倍川の作用で形成された、扇状地に静岡平野・清水平野が広がる。平野では古来多くの人々が生活しており、現在は、生活や経済、文化の中心である県庁所在地としての都市の側面も持っている。一方、豊かな自然環境に恵まれ、農業や漁業、伝統工芸など、自然と共生する暮らしの中で静岡市の特徴ある歴史文化が育まれてきた。

令和6年4月現在、静岡市には 331 件の指定・登録文化財が所在し、市の歴史文化を伝える資源として受け継がれている。特に、特別史跡登呂遺跡や国宝久能山東照宮本殿、石の間、拝殿、世界文化遺産富士山の構成資産である名勝三保松原、重要文化財の社殿を 26 棟持つ静岡浅間神社など、価値の高い文化財を有している。

計画を作成する目的

現在、文化財の置かれている現状をみると、少子高齢化などの社会情勢の変化による保存継承の担い手不足等により、維持管理が困難な状況である。有形文化財のみならず地域の祭礼や伝統行事のような無形民俗文化財の休止など、行政や所有者だけで保存、継承することは困難である。

静岡市は、平成 15 年 (2003) に旧静岡市と旧清水市が合併し、平成 18 年 (2006) に 蒲原町、平成 20 年 (2008) に由比町が編入され、現在の市域となった。市域の面積は約 1,400 kmにもおよび、自然環境や歴史的背景から、豊かな地域性を持つ市である。

合併以前は、旧市町単位で文化財の保存活用に取り組んでいた。そのため、旧行政単位での取組の差は、現在の静岡市が抱える課題となっている。また、保存活用の取組も個々の文化財単位に留まり、民間関係団体との連携の不足も課題となっている。

本計画は、それぞれの地域性を大切にしながら市の歴史文化の特徴を明確にし、市民の財産として未来への継承を実現することを目的とする。

目的達成のため、まずは、市民の皆さんの文化財に対する興味、関心を高め、多くの市民が保存、活用に関わる機会を広げたい。

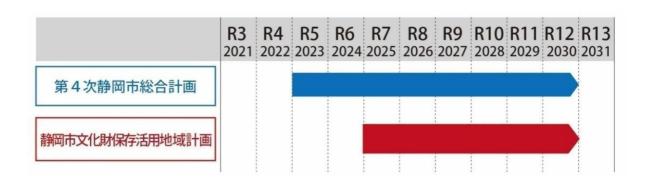
そのため、本計画では、市民が文化財を身近なものとして感じられるよう、法令に基づく指定文化財だけではなく、それぞれの地域で大切にされている未指定文化財も保存活用の対象に含める。また、文化財が市民の財産として未来に継承されるために、これまで文化財の保存活用に携わってきた人々に加え、行政や市民・民間団体との連携体制の構築を目指すものである。

2 計画期間と進捗管理

本計画の計画期間は、第4次静岡市総合計画の計画期間にあわせ、令和7年度から令和12年度までの6年間とする。本計画の着実な実行のために、進捗状況は市文化財課が管理し、その内容を適宜静岡市文化財保護審議会に報告する。なお、進捗状況については、HP等で公開し、市民との共有を図ることとする。

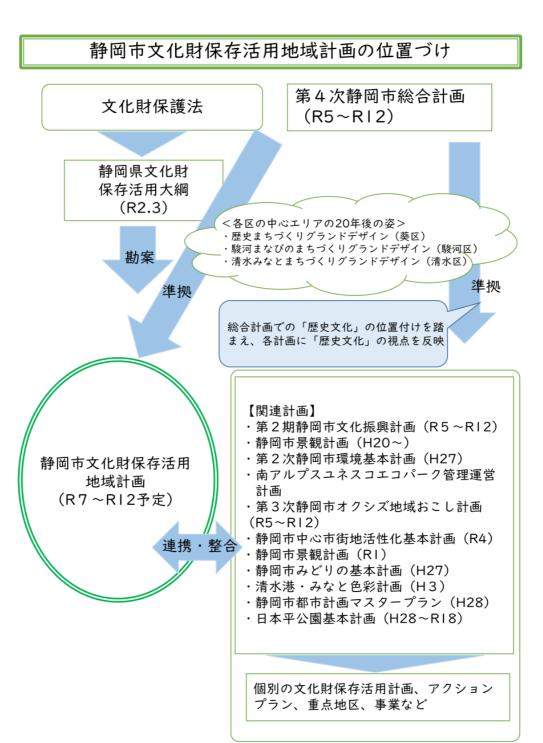
進捗検証の結果、計画期間中において、事業計画の見直しが必要になった場合は、適宜計画の見直しを行い、変更の内容が軽微な場合には、当該変更の内容について、静岡県及び文化庁へ情報提供を行うが、「①計画期間の変更」、「②区域内に所在する文化財の保存に影響を及ぼす恐れのある変更」、「③地域計画の実施に支障が生じる恐れのある変更」に該当する場合は、文化財保護法第 183 条の3及び文部科学省令に基づき、改めて文化庁長官に変更の認定を申請する。

計画期間が終了する際には、事前に自己評価を行い、その結果を反映した次期地域計画を 文化庁長官に申請する。



3 本計画の位置づけ

本計画は、文化財保護法第 183 条の3に基づく計画である。本市における上位計画の第 4次静岡市総合計画では、「歴史文化の地域づくり」が5大重点政策の一つに位置付けられており、本計画はこの政策に則したものである。また、本計画の推進にあたっては、関連する政策分野の計画との連携・整合を図る。なお、本計画の作成にあたっては、静岡県文化財保存活用大綱(令和2年3月策定)を勘案した。



関連する政策分野の計画

計画名	計画期間	歴史文化に関する記述内容	該当 ページ	対象地区
第4次静岡市総合計画	令和5年度 ~令和 I2 年度	静岡市ゆかりの徳川家康をはじめとした本市の様々な歴史に着目し、「政策3 城下町の歴史文化を守り抜くまちの推進」として5大重点政策に位置づけ、「世界に輝く静岡」の実現を図る。 また、総合計画における基本計画では、分野別計画において観光資源としての"歴史"や保存活用するための"歴史"など様々な角度からの歴史の活用を図るよう位置付けた。	P47-54 P77-78 P84	全域
葵歴史のまちづく りグランドデザイ ン	令和3年度 ~令和20 年度	静岡都心において、「歴史文化」「都心再生」の2つのテーマに重点を置き、およそ20年後の「目指すまちの姿」を示すもの。グランドデザインは、総合計画や都市計画マスタープランの参考となるとともに、「静岡市文化財保存活用地域計画」、「(仮称)静岡都心地区まちなか再生指針」、「中心市街地活性化基本計画」などを中心に具体的な取組として進められる。	ほぼ全ページ	葵区
静岡市観光基本計画	令和6年度 ~令和12 年度	計画に登載する予定の「個別戦略」のうち、「国内戦略」「重点テーマ・エリア戦略」の中で、観光資源として"歴史"や東海道宿場町などの活用を図ることを記載する予定。(令和5~6年度にかけて現計画を見直し、改定予定)		全域

静岡市文化振興計画	令和5年度 ~令度	「しずおか文化」の保存・継承・発信を図ることで、以下2つの目指す姿の実現を図る。 ①静岡市における文化資源、伝統文化、景観を保存・継承し、活用している。 ②静岡のができまれている。 ②静岡のができまって、できまれている。 ②静岡のができまって、ででは、でによって、といるのでは、では、でには、での、大人を整ったがでは、では、大力を表え、というでは、大力を感じるように、大力を感じるように、大力を感じるように、大力を感じるように、でいく、というを感じるように、でいくのでは、大力を感じるように、では、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きのでは、大きに、大きのでは、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに、大きに	P20	全域
静岡市景観計画	平成 20 年 度~終期未 定	歴史的・文化的に価値の高い景観資源を次代に確実に継承するとともに、失われつつある歴史的資源や埋もれている資源などを再発見しながら、創意・工夫によってこれらの資源が息づき、落ち着きややすらぎ、うるおいが感じられる景観形成を目指す。	P2、P3	全域
静岡市みどりの基 本計画	令和6年度 ~令和25 年度	静岡市のみどりの保全と緑化の推進を実現するために4つの基本方針を定めていますが、基本方針3として、「都市拠点・地域拠点のみどりの拡充と静岡らしい歴史とみどりの拠点の創出を図ります」を定めており、具体的な取組として駿府城公園および日本平公園の再整備の推進、羽衣公園や小島陣屋跡、片山廃寺跡の整備・保存等を位置づけている。		全域
清水港・みなと色彩計画	平成3年度	世界遺産富士山、三保松原、駿河湾の自然景 観と進化する港湾景観との調和を目指し、港湾 事業者、行政、市民の共創による取組により、 主体的な景観まちづくり活動を行う。	P2	清水区
静岡市中心市街地 活性化基本計画 (静岡地区)	令和 4 年度 ~令和 8 年 度	静岡地区の中心市街地活性化基本計画では、 目指す中心市街地の都市像の実現のため、目標 を定めている。静岡地区の中心市街地は歴史 的・文化的役割が大きく、具体的事業において も静岡市歴史博物館建設事業を始め、駿府城天 守台発掘調査事業や駿府城公園「桜の名所づく り」事業等の記述がある。	P51、P81、 P92、P96 他	葵区

静岡市中心市街地 活性化基本計画 (清水地区)	令和4年度~令和8年度	清水地区の中心市街地活性化基本計画では、海 洋文化資源を活かしたまちづくりを目標として いる。計画の具体的事業に次郎長生家運営事業 の記述がある。また、清水港湾博物館「フェル ケール博物館」運営事業等の歴史に係る事業の 記述がある。	P87 P95 P109 P113 他	清水区
南アルプスユネス コエコパーク管理 運営計画(静岡市 域版)	平成 27 年 度~令和 6 年度 (令和 7 年度以 更新中)	井川の地域資源の歴史的な価値や魅力を保存するため、重要な歴史的資料を把握・記録し、 伝統文化や食文化の継承につなげる。同時に、 井川地域の歴史資料や文化財等の情報を集約 し、エコツーリズム等へ活用するなどして、広 く一般に情報発信する。 本文中で焼畑農業、割田原遺跡などの井川地 域の史跡、伝統行事、信仰、食文化等、伝統工 芸品、在来作物の紹介をしている。		葵区
日本平公園基本計画	平成22年 度~令和 I 8年度	名勝日本平において、観光文化交流拠点となる 日本平公園を、「風景美術館=日本平」を基本 テーマに日本一の観富公園を目指し整備するた めの計画である(令和6~7年度にかけて現計 画を見直し、改定予定)		清水区
第3次静岡市オクシズ地域おこし計画	令和5年度 ~令和12 年度	【3-5 オクシズ振興の方針に基づく施策 方針Ⅲ 内と外からの活性化】 3オクシズに伝わる文化の承継 神楽や盆踊り、在来作物など世代を超えて受け継がれてきた伝統文化が継承されている。それら伝統文化を今に活かしながら後世に伝えるための人材の育成と承継の仕組みづくりをすすめる。	P26	葵区、 清水区
都市計画マスタープラン	平成 28 年 度~令和 17 年度	静岡市の現状と課題の整理として、「静岡市の成り立ち」を<江戸時代以前><江戸時代><明示~大正><昭和~平成>に区分し、示している	PIO-II	全域
第3次静岡市環境 基本計画	令和5年度 ~令和12 年度	住み良さを実感できる生活環境をつくることを 取組の方針として、歴史文化遺産や三保松原を 保全・活用することで、歴史・文化とふれあう 機会の充実を図る。	P57	全域

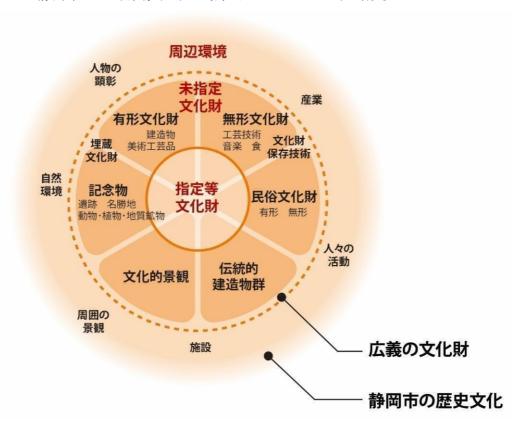
4 本計画の対象

文化財保護法においては、文化財として、有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物、 文化的景観、伝統的建造物群の6類型を定め、その他、埋蔵文化財、文化財の保存技術を保 護の対象としている。

これら文化財の内、歴史上、芸術上、または学術上の価値が明確になっているものは、法令に基づく指定等文化財として重点的に保護が行われている。一方で、市内には、指定等文化財だけでなく、地域の人々が大切に守り育んできた、地域の歴史や文化、自然を物語るものが数多く存在している。本計画では、文化財保護法で定める6類型のうち、静岡市にとって特徴的なものや市民が身近なものとしている文化財は、未指定であっても対象とする。

また、文化財は、文化財を支える人々の活動や施設、地場産業等と一体となってこそ、その価値を高めることができる。そこで、本計画では、文化財保護法で定められる文化財は、指定等の有無にかかわらず「文化財」として対象とし、文化財を支える人々の活動、施設、産業等の「文化財を取り巻く周辺環境」についても対象とし、その総体を「歴史文化」と定義する。

~静岡市文化財保存活用地域計画における文化財の概念~



第|章

静岡市の概要

自然的・地理的環境

- ・本州太平洋側のほぼ中央、東京と大阪のほぼ中間に位置し、静岡県の中でも中心に位置する。
- ・北は標高 3,000m を超える南アルプスの山々を有し、南は最深部 2,500m の駿河湾に接して、日本国内屈指の高低差を持った類い稀な自然地形を有している。

社会的環境

- ・人口は、平成 2 年(1990)をピークに減少しており、令和 6 年(2024) 5 月時点で 675,797 人である。
- ・産業別人口では、第三次産業が最も多い。第一次産業として、茶、果樹などの農業、シラスやサクラエビなどの漁業、中山間地の林業が行われている。第二次産業は、製造業が多く、伝統的な地場産業等も継承されている。
- ・令和4年(2022)度の観光入込客数は、21,368 千人であり、日本 平・登呂、江尻・日の出地区、静岡駅周辺などに多くの観光客が訪れている。

歴史的環境

- ・市域では、I 万 7 千年前から人々の活動が確認されており、縄文・弥生時代に暮らしの場が広がり、定着した。
- ・古代には国府が置かれ、中世には今川義元の城下町として、江戸時代には徳川家康ゆかり の城下町として発展し、また東海道などの街道の往来が盛んになり宿場町も発展した。
- ・清水港は明治 32 年(1899) に開港場に指定され、以降、国際貿易港としての役割を担った。
- ・静岡市は、明治 22 年(1889)に市制を施行し、周辺の町・村を編入し市域を広げてきた。近年では、平成 15 年(2003)に清水市と合併し政令指定都市となり、平成 18 年(2006)に蒲原町、平成 20 年(2008)に由比町と合併し、現在の市域となった。

自然的・地理的環境

(1)位置・面積

静岡市は、本州の太平洋側のほぼ中央、東京と大阪のほぼ中間に位置し、静岡県の中でも中心に位置している。面積は 1411.93 kmであり、東西に 50.62km、南北に 83.10 kmとなっている。



(2) 地形・地質

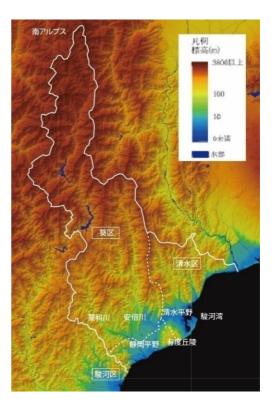
(概観)

静岡市は、北は標高 3,000m を越える南アルプスの山々となっている。南は最深部 2,500m の日本一深い湾である駿河湾に接しており、日本国内屈指の高低差を持った類い稀な自然地形を有している。また、市域の 76%を山林が占めている。

本市の地形は、山間部・丘陵部・平野部に分かれ、それぞれ森林、農地、宅地が中心的な土地利用となっている。

(安倍川、藁科川、巴川と平野の形成)

静岡市中西部を流れる安倍川の源流は葵区梅ヶ島の標高約 2,000m 地点にある大谷嶺である。河口までの長さは約 50km しかない典型的な急流河川で、下流では最大の支流である藁科川と合流し駿河湾へ注ぐ。安倍川源流域には大谷崩などの崩壊地が多いため、安倍川は氾濫を繰り返すたびに大量の礫、砂、泥などを下流に運び、谷津山、八幡山、有度丘陵との間を埋めて



静岡市の標高(国土地理院電子地図国 Web、デジタル表構図「静岡県」より

扇状地を形成した。この扇状地は静岡平野と言われ、標高 171m の賤機山の南端を要としており、東側には麻機湿地がある。そこから東流する流域面積約 94 kmの巴川は、流路延長約 17 km、高低差 7 m と高低差が小さく、氾濫を繰り返しながら、清水平野の形成に関わった。 静岡平野と清水平野を合わせ静清平野と呼ぶこともある。

(糸魚川 - 静岡構造線)

静岡市は、新潟県の糸魚川で日本海に達する I 50km に及ぶ断層「糸魚川・静岡構造線」の南の端に位置する。

(大谷崩)

大谷崩は、瀬戸川層群の砂岩・頁岩の互層が重なってできた大谷嶺の南面に生じた地形で、現在もなお活発に崩壊を続けている。大崩壊の原因としては、フォッサマグナ地帯で激しい変容作用を受けたため、岩石が細かく破砕されていること、高地の南斜面にあることから寒暖の差が大きく、特に氷河時代には凍結・融解作用の影響を強く受け、岩石の風化・破砕が進んだこと、さらにこの地域の年間雨量が多いことなどが挙げられる。

(由比地区の地すべり地)

由比地区は、フォッサマグナの西縁である糸魚川-静岡構造線にあることから西山寺地区(和瀬川流域)・舟場地区(由比川流域)等の、滑落崖をもつ新旧様々の地すべり地を有している。さらに、由比川沿いの谷底低地は段丘や扇状地性緩斜面が広がり、入山断層が走っている。

入山断層は、清水区由比の由比川沿いをほぼ南北に併走し、当該断層より西部にはシルト、砂岩及び礫岩等からなる浜石岳層群、東部にはロームや溶岩類からなる 洪積層が分布している。

(大崩海岸)

大崩海岸は、駿河区用宗から焼津市浜当目までの高さ 100-200m の急な崖が海 食崖となって連続する。

(有度丘陵)

有度丘陵は、最下位のシルト等を主とする根古屋累層とそれを覆っている厚い礫岩層からできている丘陵で今も隆起し続けている。山頂部は日本平と呼ばれている。

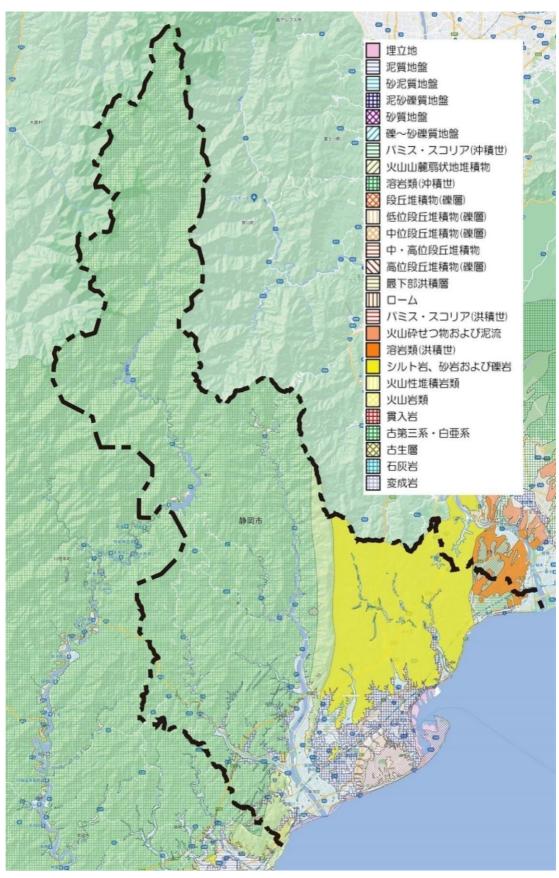
日本平の南側には久能山が急な崖を作っているが、上記の大崩海岸と同じく、海食によってできた 6,000 年ほど前の海食崖である。その後、海面が低下したために海岸線との間に平野がつくられた。

(三保半島)

大崩海岸や安倍川河口からの砂礫と、有度丘陵の海食崖で削られた多量の砂礫は波で東 へ運ばれ、三保半島を形成している。

(蒲原地区)

蒲原地区は、東を富士川、西を由比地区に接し、南に駿河湾を臨んでいる。地質は、駿河湾沿岸部の沖積層、東名高速道路から標高 200 メートル以下の丘陵部に位置する細かい礫を主体とする洪積層(蒲原累層)、中山断層より南に位置する溶岩類に区分される。



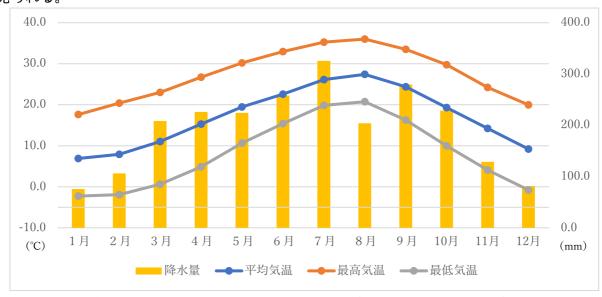
地質図(静岡県オープンデータより)

(3) 気候

静岡市は温暖多雨の太平洋側気候に属する。市街地の年平均気温は 17.0℃であり、全国的にも温暖な地域である。月平均気温は8月が最も高く 27.4℃、1月が最も低く 6.9℃とである。降水量は、梅雨時の6~7月、台風シーズンの9月に多くなる。

夏は高温多湿で、冬場は雨量が少なく乾燥した日が続く。平野部では、雪はほとんど降らないがオクシズと呼ばれる山間地など標高の高い地域では、積雪も見られるなど、地域によって気候に違いがみられる。

静岡市域は、県西部や伊豆北西部と異なり、冬季における季節風の影響が少ない。 山間地では寒暖差が大きく、霧も発生し、茶の栽培に適した気象である。冬季には降雪も 見られる。



静岡市の月別降水量および平均気温の推移(1993~2023 年の平均) 気象庁HPより(観測地点:静岡)

※オクシズとは:静岡市は南北 83.1 km に渡る広大な面積を有しているが、市街地の面積は 20%程度に過ぎず、80%は、豊かな自然の残る山間地域である。この豊かな自然環境は、清流や良質な農作物、木材を産み出すとともに、治山治水の面からも都市の生活基盤を支えている。静岡市では、この地域に愛着をもってもらうために、愛称として「オクシズ」と呼んでいる。

(4) 植生

静岡市は、山間地域から沿岸部まで標高差により植生に違いがある。標高の高い山間地域では、ブナ林などの人の手があまり加わっていない自然林が見られる。平野部の植生については、温暖な気候を反映し、常緑広葉樹林がよく発達している。海岸線には、砂浜に生えるハマヒルガオのほか、海岸に自生する松が広がっている。

(大谷崩の植生)

大谷崩の植生は、崩壊地を好むフジアザミやタラノキなどのほか、多種のカエデ類、ブナ、 ミズナラ、コナラなどの大木も多い。

(有度丘陵の植生)

上層部には、スダジイ、タブノキなどの常常緑樹林、その下にはモッコク、サカキ、アオキ、イズセンリョウ、カクレミノ、ヤブツバキなどの常緑樹林が残されている。

(三保松原)

三保半島の砂浜側には、約5㎞、約30,000本のクロマツ林が広がっている。

2 社会的環境

(1)人口

本市の人口は令和6年(2024)5月現在 675,797 人である。平成2年(1990)の 73 万 9,300 人をピークに人口減少に転じている。国立社会保障・人口問題研究所の平成 30 年将来人口推計によると、令和27年(2045)には57万人まで減少することが予測されている。

年少人口、生産年齢人口の減少と老年人口の増加により、少子高齢化が進行している。令和4年(2020)時点で65歳以上の高齢者が総人口の3割を超えている。令和27年(2045)には、総人口の4割近くが65歳以上の高齢者となることが予測されているため、「人口活力の向上」を位置付け、「定住人口」の減少を抑えるとともに、本市を訪れる「交流人口」の拡大や、本市と多様な形で関わりを持つ「関係人口」の創出に取り組んでいる。なお、市の北部に広がる中山間地は、長期的に人口減少傾向が続いている。

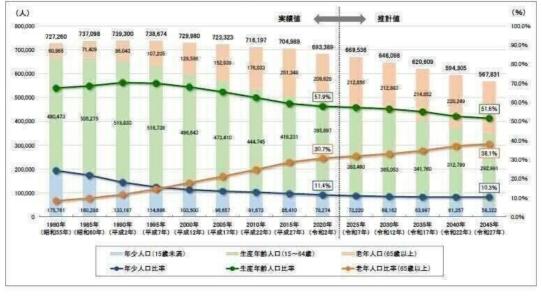


図1-12. 将来人口シミュレーション

人口の推移(国勢調査)と将来人口シミュレーション (「第4次静岡市総合計画の策定に向けたデータ調査及び分析」)

(2) 産業

産業別の従業者数は、第三次産業が7割を占めている。第一次産業、第二次産業の割合が少ないのが特徴である。

第一次産業については、恵まれた自然条件や立地条件を活かし、茶、果樹、花卉、野菜なれて新産も行うでである。特に静岡茶や温州みかん、石産物とびは静岡市を代表する産物となっている。漁業については、しずまえが現在も行われている。 また、市域の 75%を占める森林のなかで、植林地帯等のの 75%を占める森林のなかで、植林地帯等の源を活かした林業も中山間地では行われている。



産業分類別就業者数の割合 (令和2年度国勢調査より)

第二次産業については、製造業が多く、伝統的な地場産業(木工、家具、プラスチックモデル、サンダル等の生活関連材)及び電気機械器具製造業、食料品加工業等が中心となっている。

第三次産業については、卸売・小売業の従業者数が多く、近年は観光交流客数の増加とと もに、関連する従業者数も増えている。



やぶきた原樹



家康手植えのミカン



有東木わさび栽培発祥の地



しずまえ鮮魚



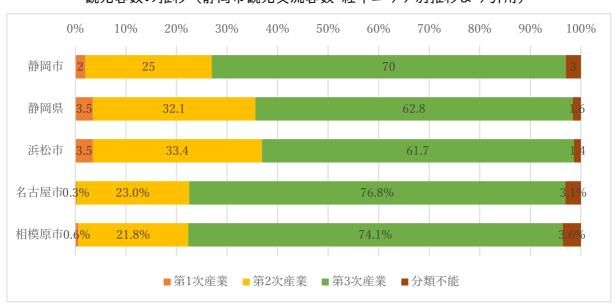
井川メンパ



静岡市プラモデル化計画ロゴ



観光客数の推移(静岡市観光交流客数 経年エリア別推移より引用)



産業別従業者数の推移(令和2年国勢調査より引用)

(3) 観光

本市の令和4年(2022)度の観光入込客数は21,368,436人である。平成25年(2013)度には富士山が世界文化遺産に登録され観光客数が増加しており、それ以降は、ほぼ横ばいであったが、新型コロナウィルスの影響により、令和2年(2020)度には半数以下に減少した。

エリアごとにみると、この IO 年間で観光客数が増加しているのは、日本平や登呂遺跡であり、平成 30 年(2018) II 月の「日本平夢テラス」のオープンによる影響が見られる。



日本平夢テラスから見る富士山

区分	H25 年度 2013	H26 年度 2014	H27 年度 2015	H28 年度 2016	H29 年度 2017	H30 年度 2018	R 元年度 201 <i>9</i>	R 2 年度 2020	R 3 年度 2021	R 4 年度 2022
井川	93,601	108, 335	110, 195	116, 181	108, 348	99, 192	98, 264	70, 759	72,766	80,418
梅ヶ島	69, 344	56,927	63,645	60,015	64,332	54,909	49,597	42, 309	43,096	46,770
丸子・宇津ノ谷	303, 839	384, 437	389,042	376, 935	369,075	310, 122	270, 439	123,896	164,896	193, 306
静岡駅周辺	5, 138, 493	4,964,470	5,324,717	5,739,993	5, 182, 376	4,626,388	4,692,097	667, 676	1,345,400	3,804,220
東静岡駅周辺	1,607,048	1,285,274	1,278,701	1,438,827	1,377,868	1,198,822	1,297,814	240,512	430, 945	649, 177
日本平・登呂	5, 290, 764	4,944,246	5,059,502	4,808,358	5,085,120	6,312,225	6, 205, 164	3,655,071	4,103,204	5,351,599
三保・折戸	1,893,979	1,333,993	1,066,343	1,112,683	994,973	887,558	930, 250	490, 899	462,038	780,777
江尻・日の出	6,330,148	6,572,716	6,716,120	6,856,570	6,840,480	6,843,062	6,551,007	2,903,951	3,783,751	4,915,146
興津	502, 776	469,722	500,708	486,669	505,848	489, 337	459, 179	270,641	314,757	394, 263
両河内	145, 223	115, 227	100,051	96, 433	101,597	82,503	67,823	49,828	46,185	48,890
蒲原	53, 622	94,977	80,726	104, 345	85,417	100, 225	88,366	7,965	9,954	65,772
由比	239,511	186,543	261,816	250, 121	267, 969	218, 136	97, 262	37,782	67,657	85,063

エリアごとの観光客数の推移(市集計データより)

(4)土地利用

本市の地形は、山間部・丘陵部・平野部に分かれ、それぞれ森林、農地、宅地が中心的な土地利用となっている。高度経済成長期の人口増加に伴い、平野部で住宅地開発が行われた。山間部では、自生したわさびを湧水源付近に植えたことで水わさび栽培が始まり、現在も、急峻な地形に3~4%の傾斜があるわさび田を利用した栽培が行われている。

丘陵部では、南向きの斜面に茶樹や豊かな水源を活かしたミカンなどの農地が発達した。 平野部の南に広がる港湾部には、清水港が海運の拠点として発展した。また、由比、西倉沢、用宗は漁港である。

(5) 交通

本市は、古来より東西に東海道が横断し、交通の要衝となっており、現在もこれを基礎として、国道一号、東名高速道路が東西方向に横断している。同じくJR東海道新幹線やJR東海道本線が東西に横断しており、東日本と西日本をつなぐ交通の大動脈の役割を果たしている。新幹線が発着する静岡駅をはじめ、JR東海道本線の駅が 10 駅ある。平成 24 年(2012)には、東名高速道路の混雑解消や、災害等に対応したダブルネットワーク化のために新東名高速道路が静岡市内を含む、御殿場ジャンクションから三ヶ日ジャンクション間で開通した。

南北の交通では、国道 52 号が、清水区興津と甲府市を結んでいる。中部横断自動車道が 平成 31 年(2019)に新清水ジャンクションから富沢ジャンクションで開通、令和3年 (2021)に全線開通したことで、山梨県をはじめとする上信越地域などへのアクセス性が 向上した。

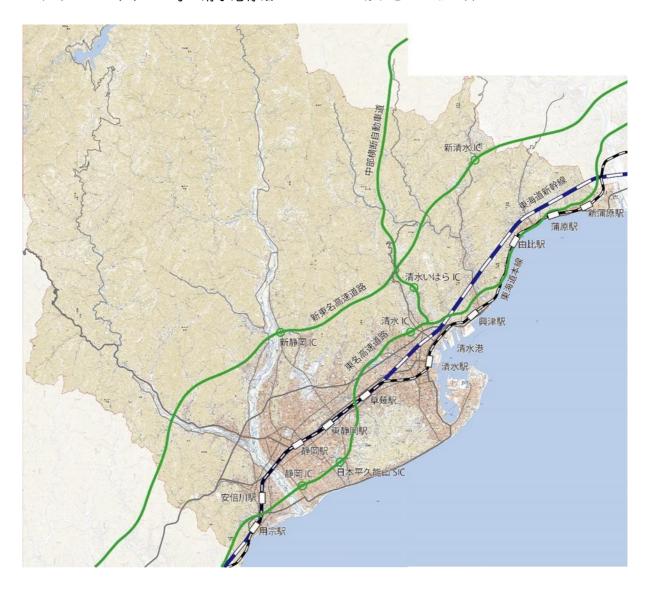
そのほか、葵区の中心地と清水区の中心地を結ぶ、静岡鉄道静岡清水線による鉄道交通と、 バス路線などによるバス交通で構成されている。 また、清水港は港湾法上の中核国際港湾、国際拠点港湾に指定されており、国内外の港を定期航路で結び、物流拠点となっている。現在、世界 125 か国、直行便では 16 か国 51 港とつながっている。近年、豪華客船の停泊数が増加しており、令和5年(2023)には、68 回の寄港を達成した。



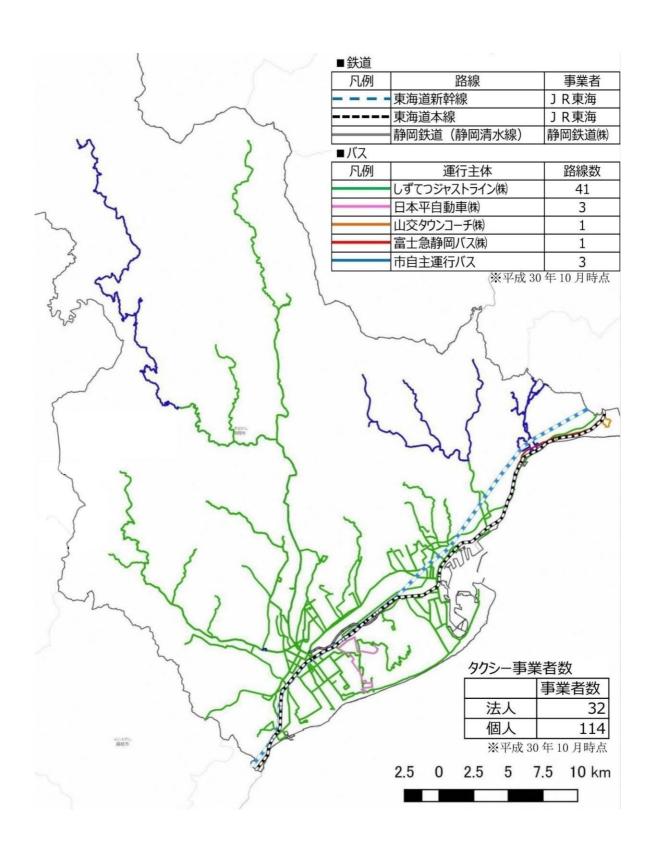
クイーンエリザベス号の清水港停泊



清水港から臨む富士山



広域道路網図



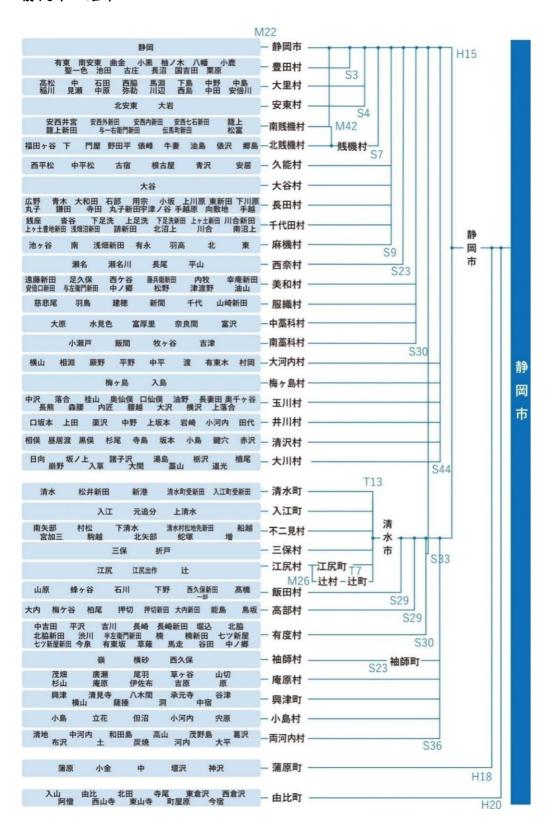
(6) 静岡市の成り立ち

明治 22 年(1889) に静岡市は市制を施行した。旧静岡市は、当時、静岡県内で唯一の「市」であった。旧静岡市は、その後周辺の町・村を編入し市域を広げていった。一方、旧清水市は、明治 22 年(1889) に清水町、大正 13 年(1924) に清水市となり、周辺の町・村を編入していった。旧蒲原町、旧由比町は明治 22 年(1889) に誕生した。

平成 15 年 (2003) に旧静岡市と旧清水市が合併し、平成 17 年 (2005) には政令指定都市に移行し、葵区、駿河区、清水区を設置した。

平成 18 年(2006) に蒲原町、平成 20 年(2008) には由比町と合併し、現在の市域となった。

静岡市の沿革



『静岡県市町村合併沿革誌』第1巻に加筆

(7)静岡市内の文化財に関わる施設の一覧

静岡市歴史博物館は、令和5年 | 月にグランドオープンし、静岡市の歴史的・文化的資源の価値と魅力を市民や静岡市を訪れる人々に発信し、歴史文化のまちづくりの拠点としての役割を担っている。登呂博物館は、特別史跡登呂遺跡と一体化した遺跡博物館であり、昭和47年(1972)に開館し、平成22年(2010)に全面リニューアルオープンした。登呂遺跡の保存と後世への継承、有意義で幅広い活用を基本方針としている。三保松原文化創造センターみほしるべは三保松原のガイダンス施設として平成31年(2019)にオープン、世界中から訪れる方と地元住民との交流を通じ、三保松原で新しい文化の創造を目指している。それぞれの施設では、施設独自のテーマで市民ボランティアが活動している。

また、市指定文化財である旧エンバーソン住宅や国登録有形文化財である旧マッケンジー住宅、次郎長生家(旧高木家住宅)、東海道名主の館(小池家住宅)、旧五十嵐歯科医院、旧和泉屋(お休み処)は、一般公開され、内部の見学が可能であり、また地域住民等によるイベント等の活用も行われている。

市が管理・運営する施設以外にも、県や民間の施設も分布しており、主なものは下表のとおりである。

名称	管理・運営	概要
静岡市歴史文化博物館	静岡市 静岡市文化振興財 団	歴史探究、地域学習、観光交流の3つの役割を担う。入館無料の I 階には、戦国時代末期の遺構展示、学習支援・市民活動スペース、ギャラリー等があり、2・3階では徳川家康を軸とした展示を行っている。
登呂博物館	静岡市	登呂遺跡の貴重な出土物を展示。弥生時代の生活を体験でき る展示室もある。
三保松原文化創造センターみほしるべ	静岡市	三保松原の玄関口の施設として、名勝及び世界文化遺産「富士山―信仰の対象と芸術の源泉」の構成資産としての価値や魅力、松原保全の大切さをわかりやすくガイダンスする。
駿府の工房 匠宿	静岡市創造舎	伝統工芸の体験施設。竹と染、木と漆、火と土、星と森の4つの工房からなり、それぞれ工房長(職人)が在籍している。展示のほかにも、工芸品民芸品を取り扱うギャラリー、カフェが併設されている。
静岡市東海道広重美術館	静岡市 NPO 法人へキサ プロジェクト	東海道の宿場町「由比宿」の本陣跡地である、由比本陣公園 内に立地。約1,400点の風景版画等を収蔵し、企画展示等を 行っている。
静岡市埋蔵文化財セン ター	静岡市	発掘調査で出土した埋蔵文化財を整理、保管している。各時 代の遺物、東山田古窯跡の立体剥ぎ取り遺構や三池平古墳の 模型等も展示している。
駿府博物館	静岡新聞・静岡放 送文化福祉事業団	名画、名品を鑑賞できる展覧会を多く企画している。
フェルケール博物館	一般財団法人 清水港湾博物館	「清水の港ににぎわいを」様々な分野にわたる企画展や美術展、ミュージアムコンサートなどの催しを通して地域の文化振興を目指している。
ふじのくに地球環境 史ミュージアム	静岡県	学問領域にとらわれない質の高い研究の追求や "ふじのく に"まるごと博物館の実現に向けた教育普及活動など、新た

	I	
		な役割にも積極的に挑戦する「進化する博物館」を目指すこ
		とで、"ふじのくに"発の新しい博物館文化の創造と発信に
		取組んでいる。
		カナダから来た宣教師ロバート・エンバーソン氏の自宅とし
旧エンバーソン住宅	静岡市	て明治 37 年に建てられた、市内に現存する数少ない西洋建
		築物である。市の指定有形文化財。
		静岡市で福祉事業に貢献し、名誉市民第 号でもあるエミリ
旧マッケンジー住宅	静岡市	ー・マーガレッタ・マッケンジー夫人の旧宅を公開してい
		る。国の登録有形文化財。
		清水港の発展を支えた一般の商人の家として残された住宅。
		次郎長生家のある清水美濃輪町は、清水港の発展を支えた廻
为如 医 化 字 (四 亩 十		船問屋が立ち並んでいた上一丁目、上二丁目、本町、仲町に
次郎長生家(旧高木	静岡市	続く位置にあり、幕府の清水御米蔵に通じる街路を形成し、
家住宅)		町屋が連続していた。次郎長生家は、美濃輪町の通りに面
		し、通りと巴川に挟まれた場所にあり、清水港の歴史を物語
		る位置に存在し、一般公開されている。
東海道名主の館(小	静岡市	明治期に建てられた東海道名主の館で、江戸期の民家の風情
池家住宅)		を楽しめる建物である。国の登録有形文化財。
n-14EN-TH	静岡市	大正期以前に建てられた町家づくりの建築物を洋風に改築し
旧五十嵐歯科医院		たユニークな建物である。国の登録有形文化財。
4 0 P (W / 1 2 mm)	静岡市	江戸時代後期の旅籠の建物の一部で、江戸の風情を今に伝え
和泉屋(お休み処)		る。国の登録有形文化財。
	静岡市	坐漁荘は、明治の元老、西園寺公望が 70 歳になった大正8
		年(1919)に、老後の静養の家として興津に建てた別荘で
興津坐漁荘(復元)		ある。老朽化のため解体された後、現在は愛知県犬山市の明
		治村に移築され、重要文化財に指定されている。平成 16 年
		(2004)、もとあった興津の地に、建築当時の図面に基づき
		できる限る忠実に復元した。
		船宿「末廣」では、清水次郎長が清水港復興に尽力した晩年
清水港船宿記念館		の姿を知ることができる。幕末から明治を駆け抜けた次郎長
「末廣」		と清水港の様子を今に伝える建築物である。
	l .	-113 3 10 11 113 3 2 7 1 113 12 3 7 7 114 (47 8 9

4 歴史的環境

(1) 旧石器時代

人々が石などを加工してヤリなどの道具を作り狩りをするようになり、土器を作り始める までの間の時代を、旧石器時代という。

(人々の暮らしのはじまり)

静岡県内では、およそ3万8千年前から人々が生活していた。沼津市の愛鷹山麓や磐田市の磐田原台地で、旧石器時代の遺跡と豊富な石器群が見つかっている。

静岡市域では、有度丘陵の日本平山頂付近で狩猟採集に使用する尖頭器と細石器が、大乗寺遺跡(清水区)でナイフ形石器がそれぞれ地表面で採取された。



旧石器時代 町屋遺跡出土旧石器

前を受遺跡(清水区)では、旧石器時代の堆積土層から 大道を 大頭器、細石器、掻器が各 I 点と剥片 30 点超が見つかった。遺物の形などから、**静岡市域** でも約 I 万7千年前から人々の活動があったことが裏づけられた。

(2) 縄文時代

旧石器時代の後、人々が土器を作りはじめる時代を縄文時代と呼ぶ。これは、表面に縄目の文様を付けた土器の特徴に由来している。

(丘陵上での生活)

縄文時代は | 万5千年前頃から、2900 年前頃まで続いた。氷河期の末期に始まる縄文時代は、寒冷期を経て次第に温暖化が進み、海岸は内陸の奥まで入り込んでいった。静岡市域の縄文時代の遺跡は、有度山西麓や東麓、清水区の庵原、由比などの丘陵上や山裾といった、平野から一段高くなった場所に多い。



縄文時代早期(約8000年前)には、有度山西麓の宮川 遺跡(駿河区大谷)や東麓の冷川遺跡などがあり、押型文土器と呼ばれる土器の破片や石 器類が見つかっている。

中期(5500 年~4500 年前)は、割田原遺跡(葵区田代)、阿僧遺跡(清水区由比)、桑原遺跡(清水区蒲原)など、市内で遺跡数が最も多い時期に当たる。庵原地区の大乗寺遺跡(清水区草ヶ谷)のように、前期から後期まで長く生活の場が営まれた遺跡もある。

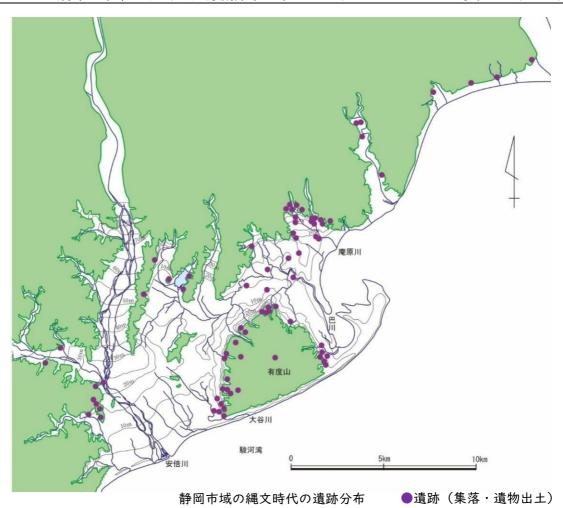
温暖化が進んだ後期から晩期の代表的な遺跡には、有度山東麓の天王山遺跡(清水区営加三)があり、竪穴式住居のほかに土器や石器など豊富な遺物が出土している。

(狩猟・採集と豊かな文化)

縄文時代は、石器に加えて土器を使うようになり、狩猟や漁撈で採集した食べ物を、土器で煮たり焼いたりして食べられるようになった。割田原遺跡や天王山遺跡などの発見例から、縄文人は4~5m程の円形の竪穴住居に住んでいたことが分かった。旧石器時代のようなヤリに加えて、石の鏃を使った弓矢で動物の狩猟を行うようになった。また、石錘などから漁猟を行っていたことも分かる。そのほか、石皿や蔵石を使って簡単な調理をしていた。蛭田遺跡(駿河区西大谷)では、ドングリなどの堅果類のアクを抜くための「水さらし場」と推定される遺構が見つかっている。また、矢塚坪・門前坪遺跡(駿河区池田)では、炉の跡と考えられる集石遺構があり、屋外バーベキューのように調理をしていたことが分かる。

冷川遺跡(清水区宮加三)からは、鏃などの石器の材料として用いられた大型の黒曜石が出土しており、伊豆諸島神津島産のものであることが分かっている。割田原遺跡から出土した土器は、山梨県や長野県中部高地と共通する特徴がある。このように、当時の人々は、生活に必要な資源や情報を獲得するために、周辺の地域の人々と交流していたことが分かる。天王山遺跡からは、周辺地域の土器のほかに、石皿や敲石、石斧などの様々な種類の石器、耳飾り(耳環)など縄文時代の生活の様子をよく表す遺物が多く発掘された。

縄文時代の静岡市は、内陸深くまで入り込む海や洪水などの影響を受けやすい平野を避け、 人々が丘陵部に集落を形成し、狩猟採集を中心に生活していたことが遺跡から分かる。



28

(3) 弥生時代

大陸から稲作が伝わり、水田を作りはじめた時代を弥生時代という。

(農耕のはじまり)

天王山遺跡は、縄文時代後期から晩期に最も繁栄したが、その後弥生時代にも人が住み続けていた。この遺跡からは、弥生時代前期の北部九州起源の土器である遠賀川系土器が出土した。弥生時代前期から中期前葉までの静岡市域は、 条 痕文系土器と呼ばれる縄文土器の系譜をもつ土器を用いる文化圏である。遠賀川系土器を用いる西日本では稲作農耕が営まれていたことから、天王山遺跡でこの土器が見つかったことは、西日本から静岡市域に稲作の情報がもたらされた可能性を示している。ところが、この系統の土器は静岡市域でその後使われない。稲作農耕文化の地域との交流の中で土器だけが運ばれて稲作を行わなかったのか、天王山遺跡の周りで稲作を試みたが成功しなかったのか理由は分からないが、この時点では、静岡市域で稲作農耕は定着しなかったようである。 丸子地区の丘陵にあるセイゾウ山遺跡(駿河区丸子)や手越向山遺跡(駿河区手越)などからは石鍬やアワ・キビが発見されており、弥生時代前期から中期前葉は、縄文時代以来の狩猟採集に加え、アワ・キビといった雑穀の栽培を組み合わせた暮らしであったと考えられる。

(稲作文化)

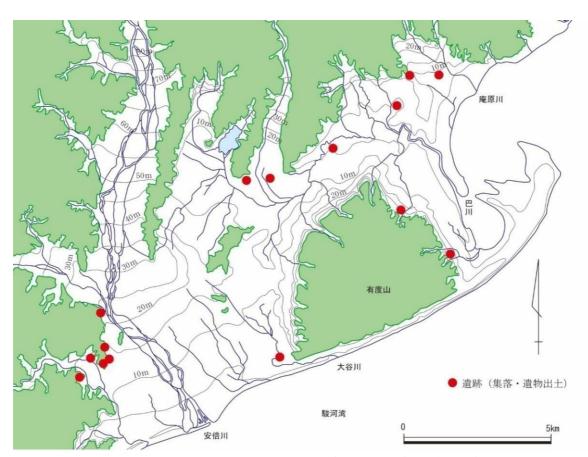
縄文時代以来の狩猟採集に加え、アワ・キビといった雑穀の栽培を組み合わせた暮らしは、弥生時代中期(紀元前4~3世紀)に大きく変わる。有東遺跡(駿河区有東)や瀬名遺跡(葵区瀬名)など平野に立地する遺跡から、鍬や鋤といった木製農耕具やその製作に使う磨製石器、伊勢湾地方の特徴をもつ土器が出土しており、伊勢湾地方の人々との交流により稲作農耕を営むようになったことが分かる。その後、駿府城内遺跡(葵区駿府町)、川合遺跡(葵区川合)、鷹ノ道遺跡(駿河区登呂)、能島遺跡(清水区能島)など、平野部に集落が増えていった。後期(紀元 I 世紀~)になるとさらに集落は増えて、曲金北遺跡(駿河区曲金)、長沼遺跡(葵区長沼)、上土遺跡(葵区上土)、一丁田遺跡(清水区庵原)などで水田が発見されたほか、登呂遺跡(駿河区登呂)に、新たな集落が発見された。登

呂遺跡の集落には、住居のほかに祭殿があり、稲作に伴って 豊穣を祈ったり祝ったりする祭りが行われていたと考えられ、周辺地域のなかでも中心的な集落であった。こうした平 野部での暮らしは、一方で洪水リスクもあわせもつ。登呂遺跡は複数回の洪水に襲われて、2世紀には住居が廃絶する。 登呂遺跡の集落は、洪水の土砂で覆われたことにより、昭和 時代の大発見につながることになった。 登呂遺跡から出土 した田下駄や鍬、鋤といった農具や土器などの遺物は、重要 文化財に指定されている。

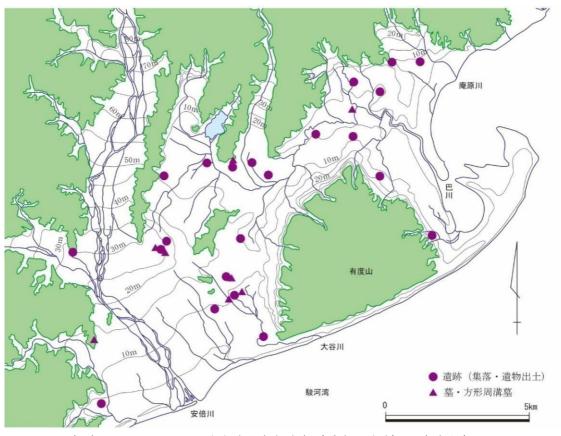
静岡市域では、弥生時代に人々が平野部での暮らしをはじめ、稲作を行うようになった。



有東遺跡出土遺物



静清平野周辺における弥生時代前半期(稲作開始前)の遺跡分布



静清平野周辺における弥生時代中期後半(稲作開始後)の遺跡分布

(4) 古墳時代

古墳時代は、奈良県を中心とする近畿地方で造られるようになった前方後円墳が、地域 の首長の墓として各地に広まった時代である。

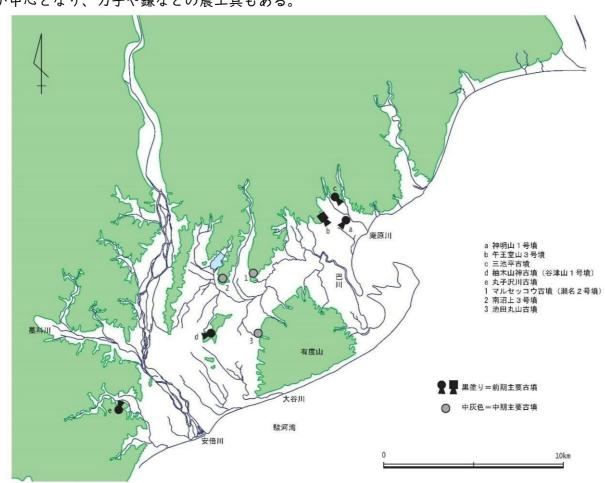
(地域の王の古墳誕生)

静岡市域で最も古い古墳は、3世紀後半に築かれた神明山 | 号墳(清水区袖師町)である。この古墳は、前方部の裾が三味線のばちの形のように広がり、国内最古の大型前方後円墳である奈良県箸墓古墳と同じ形で4分の | サイズであるという特徴をもち、箸墓古墳の所在する奈良の纏向から前方後円墳の築造が各地に広まった伝播の過程を示している。

古墳時代前期(3世紀中頃~4世紀)は、神明山 | 号墳を皮切りに午至堂山 3号墳(清水区庵原町)や三池平 古墳(清水区原)など、大型の前方後方墳や前方後円墳が清水平野周辺の丘陵部に相次いで造られ、この地域を支配した有力豪族が存在していたことを知ることができる。

静岡平野では、谷津山 | 号墳(葵区沓谷)が前期中葉に築造された。また、丸子沢川古墳(駿河区丸子)も同時期に造られた可能性がある。

前期古墳の副葬品は、鏡や玉、装身具が主体であったが、中期は大力や甲冑などの武具が中心となり、刀子や鎌などの農工具もある。



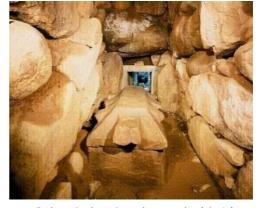
静岡市域の古墳時代前期・中期主要古墳分布図

(武具・馬具の副葬)

静岡市域では、中期(4世紀末~5世紀)には、大型の前方後円墳が造られなくなり、 丘陵部の先端などに小~中型の円墳が築かれるようになる。主なものには、南沼上3号墳 (葵区南沼上)や池田丸山古墳(駿河区池田)などがある。

後期(6世紀~7世紀初頭)になると、徳願寺-号墳(駿河区 向 敷地)、猿郷-号墳

(駿河区向敷地ほか)などで再び前方後円墳が築かれるが、それを最後に、豊富な副葬品をもつ大型の円墳、方墳に切り替わる。最も代表的な古墳は、6世紀後半の賤機山古墳(葵区宮ヶ崎町)である。巨大な横穴式石室に家形石棺が安置され、金銅で装れた数多くの馬具や甲冑などの武具が副葬された数多くの馬具や甲冑などの武具が副葬されたの墓に埋葬された人物は、奈河島であったヤマト政権と強いつながりをもち駿河にあったヤマト政権と強いつながりをもち駿河にあったヤマト政権と強いつながりをもち駿河にあったヤマト政権と強いつながりをもち駿河区大谷)、佐渡山では、大きでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないでは、大きないであります。



賤機山古墳石室・家形石棺(中央)

賤機山古墳の次代の有力豪族の存在を推測することができる。

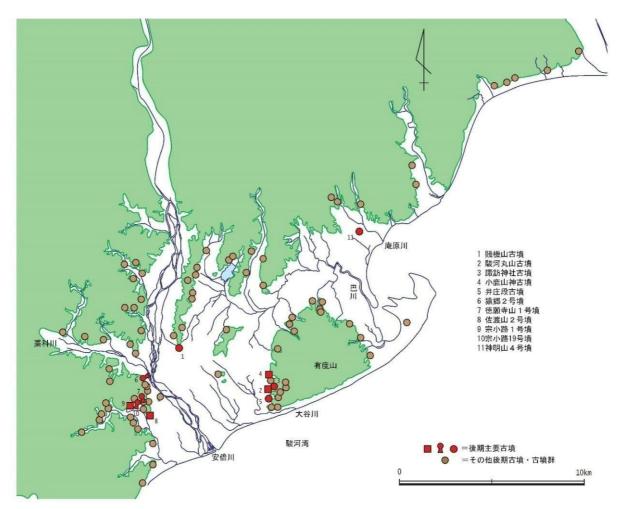
(群集墳と横穴墓)

古墳時代終末期の7世紀中葉から後葉は、首長墓としての大型古墳は姿を消し、平城古墳群(駿河区向敷地)や牧ヶ谷古墳群(駿河区牧ヶ谷)など小型墳が集まる群集墳が展開する。その他、墳丘を持たず丘陵の斜面に横穴を掘って棺を埋葬する横穴墓が現れた。静岡市南部の有度丘陵を中心に伊庄谷横穴群(駿河区大谷)などの大規模な墓群が発見されている。古墳を造ることのできる階層が広がったと考えられる。



平城古墳群石室検出状況

静岡市域の古墳時代は、首長が台頭し、支配地域に古墳を 造るようになった時代である。



静岡市域の古墳時代後期主要古墳分布図

(5) 飛鳥時代

飛鳥時代は、飛鳥に都が置かれた6世紀末から平城京遷都(710年=8世紀初頭)までを 指す。飛鳥時代の始まりは、考古学上の時代区分である古墳時代と重複する。

(盧原国・珠流河国から駿河国へ)

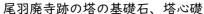
大化2年(646)、改新の「詔」が出され、盧原国、珠流河国の2国を合わせて駿河国となる。日本書紀には、駿河国に関わる人物として盧原君臣が見える。天智2年(663)、大和政権が百済を救うため朝鮮半島に出兵した白村江の戦いに、盧原君が | 万余の兵を率いて参加している。

(寺院の建立)

538年(又は552年)、日本へ仏教が伝わった。古墳時代末期から飛鳥時代になると、地方豪族が寺院を建立するようになる。こうした豪族が建立する寺院を氏寺と呼ぶ。尾羽廃寺 (清水区尾羽) は静岡市内で最も古い寺院である。この寺院は、当地の豪族廬原氏が建立した。尾羽廃寺跡の瓦は、寺院跡からほど近い東山田古窯群で焼かれた。 4基の瓦窯跡と 1基の須恵器窯が見つかっている。

建穂寺(葵区建穂)は、明治の初めまで存続した駿河を代表する寺院で、その創建は不明であるが、江戸時代の地誌には、白鳳13年(684)の開基とも伝えられる。明治初期の神仏分離によって廃寺になり明治2年に焼失したが、難を逃れた一部の仏像群が残されている。発掘調査では、丘陵中腹で建物の礎石や池の跡が見つかっている。







尾羽廃寺跡出土の軒丸瓦と軒平瓦

静岡市域の飛鳥時代は、寺院の造営が始まるなど、仏教が広がりはじめた時代である。

(6) 奈良時代

日本は、中国に倣い 701 年に大宝律令を制定し、律令国家になった。710 年に都を平城京に遷し、794 年に平安京に遷すまでを奈良時代という。

(駿河国府と郡衙)

日本は、中国に倣い大宝元年(701)に律令制を制定し、その制度を整えて律令国家となった。大和では都城が整えられ、律令制の一環で、地方行政制度も整えられた。地方は国の中に郡、郡の中に里(後に郷)が置かれた。静岡県中部は駿河国と呼ばれ、静岡市域には安倍、有度、庵原の3郡が置かれた。

駿河国府は安倍郡に置かれた。現在の駿府城辺りに国府があったと推測される。駿府城内遺跡(葵区追手町ほか)の城内中学校地点では、東西方位に幅約4mの区画溝が見つかっている。この溝からは、上部が円形をしている。現である円面硯が出土している。全国の国府や郡衙など役所施設は、建物やその区画の溝、塀などの施設が東西南北の方位に沿って造られており、文書を多く取り扱う役所では、文字を書くための硯がよく見つかる。こうした条件に合う城内中学校地点の遺構は、国府の有力な候補地である。

万葉集に「焼津辺に 吾行きしかば駿河なる 安倍の市道に 逢ひし児らはも(焼津辺りに行ったとき、駿河の安倍の市で出会った娘が美しかったなぁ)」という歌があり、大きな市場(安倍の市)が開催されていたのが、静岡市葵区の中心市街地の原型と考えられる。

(有度郡衙、安倍郡衙、庵原郡衙)

ケイセイ遺跡(駿河区中田本町ほか)からは、租税(稲)を収めた高床倉庫である正倉と考えられる建物跡が発見されたほか、文書を取り扱う役所に関わる円面硯、荷札などの木簡が出土している。また、墨書土器には、有度郡衙に付随する厨房であることを表す「有厨」の文字があることから、この一帯が有度郡衙であったと分かった。なお、ケイセイ遺跡は7世紀後半にすでに大型建物が整然と並んでおり、郡衙が置かれるよりも前から、地方の中枢的な役割をもっていた可能性がある。

安倍郡衙の候補地としては、川合遺跡(葵区川合)が挙げられ、南北方位に沿った建物 跡が見つかっている。

郡衙の機能は、奈良時代から平安時代まで継続した。尾羽廃寺跡(清水区尾羽)の南からは、9世紀初頭に建てられた3間×3間の基壇をもつ高床倉庫跡が見つかった。その近くからは、炭化米や人物名が記された木簡も見つかっていることから、この倉庫は正倉であり、この周辺が庵原郡衙であることが分かった。

(東海道の整備)

中央政権は、全国の支配のため、物流や情報の 伝達、人や軍の移動のための幹線道路を整備した。静岡県域には東海道が整備された。 曲金北 遺跡(駿河区曲金)からは、両側に側溝をもち直 線的に延びる幅約9mの道路遺構が見つかっている。

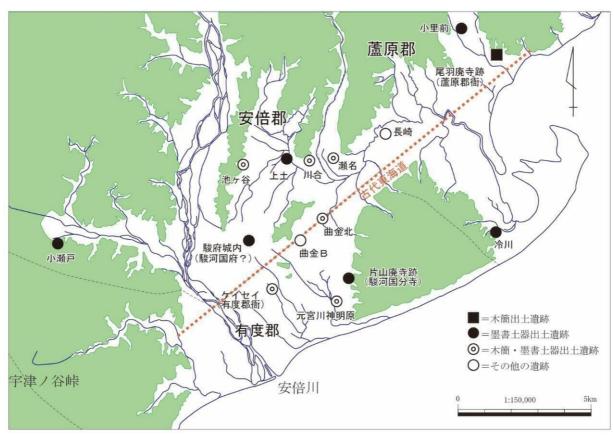
律令制下の税は、「袓(米)」や「調(特産品や布)」「庸(労役または布)」のほか、北部九州沿岸の防備にあたる「防人」などの兵役がある。静岡市域では、三保(清水区)から特産品である煮堅魚が調として納められたことが、平城宮跡から出土した木簡から分かっている。

「駿河国正税帳」(天平 10 年 (738)、 正倉院所蔵)には、各郡の稲を収納した倉の数 などが記されているが、駿河国を通過して各国



古代東海道(曲金北遺跡)

(伊豆、甲斐、相模、安房、上総、下総、常陸) へ帰還する防人の人数を記した記録もあり、静岡市域が都から東国へ向かう交通の要衝であったことが分かる。駿河国からは、塩や堅魚が税として納められていた。



静岡市域の奈良時代の主要遺跡

(三保の景色)

延暦年間(781~783)に編纂された現存最古の歌集『万葉集』には、田口益人「廬原の清見の崎の三保の浦のゆたけき見つつ物思ひもなし(三保の浦の広々とした海原を見ていると旅の憂いも忘れ何を思い悩むこともない)」と三保の景色を詠ったと考えられる歌も収録されている。

(国分寺の建立と片山廃寺跡)

奈良時代は、全国に疫病や飢饉が起こり、人々を苦しめた。聖武天皇は、天平 13 年 (741) に国分寺建立の詔を布告し、全国に国分寺・国分尼寺を建立し仏教の力でこれを鎮めようとした。有度山西麓の平坦面上に所在する片山廃寺跡(駿河区大谷)は、塔跡が見つかり、瓦の特徴や伽藍の規格の分析から、駿河国分寺であることが確実になった。



片山廃寺跡

(日本武尊と草薙、日本平)

大和政権が近畿地方から東国に勢力を広げ、日本列島を支配していった様子は奈良時代に編纂された『日本書紀』や『古事記』のなかで、日本武尊の物語として伝えられている。静岡市域にもその物語に由来する地名が残っている。その一つが、日本武尊が叢雲の剣で草を薙いだことから付けられた草薙という地名である。日本武尊を主祭神とする草薙神社は、創建 1900年と伝わっている。また、日本武尊が、草薙の地を含む有度山丘陵の頂上にある日本平で四方を見渡したという伝説も残っている。

静岡市域の奈良時代は、国府や国分寺が整備されるとともに、街道が整備され、人々の 交流が盛んになる時代である。

(7) 平安時代

平安時代のはじめは、奈良時代の律令制度を継承した貴族が政治の中心であったが、時代が下るにつれて、政治の実権が貴族から武士へ移る。日本国内には荘園が乱立し、地方の豪族たちが広大な私有地をもち居館を構えるようになった。そして自らの領地を守るための兵力を備えるようになったため、武士階級が生まれた。

(条里型水田)

池ケ谷遺跡(葵区池ケ谷)では、発掘調査で条里型水田が見つかった。条里型水田とは、 「辺を「町(約 109 m)の畦で区切り、その中を更に小さな畦で縦横等間隔に区切った水 田を指す。これにより、中央政権が全国の土地、水田の面積、収穫量を管理しやすくなっ た。静岡市内では曲金北遺跡で見つかった古代東海道を基軸として、池ケ谷遺跡のほかに瀬 名遺跡(葵区瀬名一丁目ほか)、川合遺跡(葵区川合)、岳美遺跡(葵区岳美)、小鹿杉本 堀合坪遺跡(駿河区小鹿二丁目)などから畦の方向を揃えた水田が見つかった。これらの発 見から、平野部の広範囲が計画的に開発されたことが分かる。

(式内社)

式内社とは、延長5年(927)にまとめられた法典の「延喜式」に載る官社をいう。静岡市内には、草薙神社のほかに現在の静岡浅間神社内にある神部神社や、大歳御祖神社、また、伊河麻神社、豊積神社などがある。

(大規模寺社の成立)

平安時代は、現在も静岡市内に残る寺社が成立した時代でもあった。現在の静岡浅間神社内にある浅間神社は、延喜元年(901)、醍醐天皇の勅願により、富士山本宮浅間神社から分霊を賤機山下に勧請して、「富士新宮」と称したのを始まりとする。静岡浅間神社は、歴代の支配者からのあつい庇護と崇敬を受けながら、現在も市民から「おせんげんさん」と親しみを込めて呼ばれている。

久能寺は、奈良時代から平安時代初期に遡る創建とされ、観音菩薩信仰の霊場である有度山丘陵の久能山頂に置かれていた。久能寺は、平安時代末期には、法華経(久能寺経)が皇族から奉納されるなど、駿河国を代表する寺院であった。

有度山陵には、久能寺への参詣路の入り口として平澤寺が創建される。

宗小路古墳群(駿河区北丸子)の発掘調査では、石組と通路の遺構が見つかっており、かつて山頂部にあった真言宗系寺院の大窪寺(現在の誓願寺)への通路であった可能性が考えられる。

その他、大内山の電流では、清水区大内)、松野阿弥陀堂(葵区松野)、坂グ上薬師堂(葵区坂ノ上)、中野観音堂(葵区井川)に、平安時代の仏像が残る。



坂ノ上薬師堂諸像

(駿河七観音)

久能寺、平澤寺、建穂寺、徳願寺(大窪寺)、霊山寺、法明寺、増善寺は、行基が彫った と伝わる観音像を祀っており、駿河七観音と呼ばれている。

(枕 草子に登場する名所)

清少納言の書いた『枕草子』には、歌枕として、有度濱、駿河舞、木枯らしの森、清見が関などと市内の名所が書かれている。

(現在の地名に名前の残る氏族)

静岡市域では、平将門の乱で功績のあった藤原為憲の子孫と伝えられる入江氏が強い勢力を持っていた。

苗字の由来となっている入江は古代からこの地が入海であったことを示す地名である。

静岡市域の平安時代は、今に伝わる寺社や仏像が造られ、盛行したほか、後半期には武士が勢力を持ち始めた時期である。

(8)鎌倉時代

平安時代に武士階級が台頭し、平氏が築いた武家政権を、源頼朝が打破し、鎌倉に幕府を置いた。京都に朝廷がありながら、将軍が東国に政権を構えた時代が鎌倉時代である。

(氏族の台頭)

鎌倉時代には、藤原為憲の子孫と伝えられる入江氏、船越氏、怠津(興津)氏、藁科氏、吉川氏、手越氏、岡部氏など南家藤原氏や、渋川氏、矢部氏、由比氏、蒲原氏などが鎌倉時代以降に活躍する。いずれも現在に地名の残る氏族であり、手越、興津、由比、蒲原は東海道が通っていることから、交通の要衝を拠点に氏族が台頭したことがわかる。

(梶原景時最期の地)

鎌倉幕府の御家人であった梶原景時が鎌倉を脱出した際、入江氏を含む武士団と衝突し、 梶原山(清水区大内)で自害したと伝わる。清水区興津から大内にかけては、梶原氏一族 と入江氏の衝突に由来する文化財が点在している。

(有力武士の居館)

清水区を中心に、入江氏、興津氏、飯田氏、高橋氏、渋川氏、船越氏、吉川氏など、有力豪族の居館跡と伝えられる遺跡が数多く存在するが、多くは後世の開発によって当時の姿をとどめず、館の正確な位置や範囲も不明である。こうした中、渋川館跡(清水区渋川)は、清水区渋川を拠点とする有力豪族の渋川氏の居館と考えられ、現在も土塁の一部が残る貴重な遺跡である。

また、大田切 I 遺跡(清水区高橋ほか)では、掘立柱建物跡 2 棟とそれを囲み区画する柵や溝、井戸などが、12 世紀後半から 13 世紀前半の陶磁器や山茶碗が出土しており、飯田氏の居館の可能性がある。

「源平盛衰記」には、駿河国府の記述が見えることから、 平安時代末まで安倍郡に国府があったことがわかる。

駿府城内遺跡(葵区追手町ほか)の静岡市歴史博物館地 点や城内中学校地点では、平安時代末期から鎌倉時代初頭 の幅約4mに及ぶ大溝が発見され、大溝の中からは、下駄 や椀などの木製品や、墨書土器を含む大量の山茶碗といった 日用生活品が出土した。この溝は役所または居館を囲む溝で あった可能性が考えられる。



平安末~鎌倉 駿府城跡(歴博地点)大溝



駿府城跡・駿府城内遺跡 (歴史博物館地点)区画溝出土土器

(聖一国師と大応国師)

聖一国師と大応国師はいずれも 13 世紀に宋に渡った静岡を代表する僧である。

聖一国師は栃沢(葵区)の生まれで、久能寺で出家したのち園城寺(滋賀県)で天台宗を学び、その後中国に渡って新しい禅を学び、帰国後に東福寺(京都府)を開山した。うどんやまんじゅうを日本に伝えたことで知られるほか、静岡市で茶栽培の基礎を作った人物でもある。

大応国師は井宮(葵区)の生まれで建穂寺、建長寺(神奈川県)で修行したのち中国に渡って、禅を学び帰国した。後宇多天皇はじめ権北条貞時など、公家や武家のあつい帰依を受け、日本の臨済宗の礎を築いたほか、草庵で行う茶道の祖としても知られる。

静岡市域の鎌倉時代は、源平合戦を経て勢力をもった武士が館を構えた時代であるほか、 現在まで続く茶文化の礎が築かれた時代である。

(9) 南北朝時代

鎌倉幕府滅亡後、後醍醐天皇による建武の新政が始まると、天皇側に味方した武士などに対して、鎌倉幕府執権の北条氏の旧領が与えられた。駿河国守護職は、倒幕に功績のあった足利尊氏が拝領した。建武2年(1335)、後醍醐天皇の新政に不満を持った足利尊氏が北朝に光厳天皇を立て、北朝と後醍醐天皇の南朝に分裂してからの 50 数年間を南北朝時代と言う。

(駿河国守護今川範国)

北朝の足利尊氏は、延元3年(暦応元=1338)正月、美濃国青野原(岐阜県大垣市)の合戦にて戦功のあった、親戚筋にあたる今川範国を駿河国守護職とした。

範国が駿河守護として駿河に入った時、駿河惣社である神部神社に参拝したが、そこで聞いた巫女の託宣によって「赤鳥」が今川氏の旗印となった。

範国は次第に南朝勢力を攻略し、駿河今川氏の初代としての立場を築いた。

(狩野貞長と安倍城)

南朝の狩野真長は、安倍川西岸に南朝方の拠点として安倍城(葵区羽鳥ほか)を築いた。 東国元年(暦応3=1340)には、後醍醐天皇の皇子である宗良親王を安倍城に迎えて北朝と 戦った。

(観応の擾乱の戦場)

(清見寺の再興)

足利尊氏は興津の清見寺の再興を図り、自筆の 『地蔵菩薩画像』を寄進している。清見寺には、古い 作例の足利尊氏坐像が所蔵されている。

(3代将軍足利義満の富士遊覧)

嘉慶2年(1388) 9月、室町幕府3代将軍足利義満は富士山遊覧のため駿府に来た。その時義満をもてなしたのは、駿河国守護今川泰範である。



木造 足利尊氏坐像 附木造厨子

(観阿弥最期の舞台)

静岡市域の南北朝時代は、争乱の舞台となったほか、足利一門の今川氏が駿河守護として 治世を開始した時代である。

(10) 室町時代

定利義満により明徳3年(1392)に南北朝の合一がなされると、京都の北小路室町に造営された室町の邸宅を中心に政権が運営される。8代将軍義政の時代に、応仁・文明の乱が勃発し、幕府の威令が行われなくなるまでの時代を狭義の室町時代と呼ぶ。

(6代将軍足利義教の富士遊覧)

永享 4年 (1432) 9月、6代将軍足利義教は義満を先例として富士遊覧を行っており、清見寺、三保松原を見物し、今川氏5代の範政が用意した「富士御覧の亭」で酒や食事のもてなしを受けている。いずれの遊覧も、鎌倉府に対する牽制の意味を持って行われたものであるが、駿河国で引き返して帰路に付いているところからも、駿河国が幕府の支配下である西国と鎌倉府の支配下である東国の境目と考えられる。

(十刹としての清見寺)

清見寺は、幕府によって十刹の寺格を与えられた。初代尊氏の時代の保護に始まり、6 代将軍義教と、8代将軍義政は、清見寺住職の補任に関与しており、清見寺が五山十刹寺 院の一角として、重要な立場にあったことが分かる。

(永享の乱と今川範忠)

永享 10 年 (1438)、鎌倉府の鎌倉公方である足利持氏が足利義教に対して起こした永享 の乱で、幕府側として戦功を挙げたのが今川氏6代の今川範忠であり、駿河国の今川氏と 将軍家との関係は更に強いものとなっていく。

静岡市域の室町時代は、今川氏が駿河守護として幕府の信頼を受け、東国支配の一翼を 担った時代である。

(11) 戦国時代

|応仁元年(1467)の応仁の乱から織由信長入京の永禄|| 年(1568)、あるいは、信長 が将軍足利義昭を追放したデェニー (1573) に至る百余年間を戦国時代という。

幕府や朝廷などの中央国家権力の衰退、群雄の地方割拠による戦国覇権、下位者による上 位権力の打倒が起こる下剋上の時代である。

(今川氏親の今川仮名目録制定)

今川氏7代義忠の没後、家督争いに勝利し8代当主となった氏親は、晩年、領国支配のた めの法律である分国法、「今川仮名目録」を制定した。検地や民衆への直接的な関与を行う ことで、守護大名の今川氏は土地と民を自らの実力で直接支配する戦国大名となる。 10代 義元は、「今川仮名目録追加」を制定した。

(今川氏と都の公家の交流)

今川氏に仕えていた島田出身の宗長は、有力な武将や公家との交流を行った。また いっきゃうそうじゅん えきった 一休宗 純や宗祇に弟子入りし、連歌を修行した。朔応5年(1496)に丸子(駿河区丸子) に柴屋軒を建て、多くの連歌を残している。

今川氏親は、公家である中御門宣胤の娘の寿桂尼を妻としていた。その影響もあり、今川 氏と京都の公家の間には活発な交流が見られた。その中でも山科言継は、弘治2年(1556) 9月に駿府を訪れ、約半年間滞在した。山科家は、歴代当主の記した日記が多く伝存する家 としても知られ、言継は、半年間の駿府での行動を事細かに記している(言継仰記)。その 中には、建穂寺で稚児舞楽を実見したことや、今川義元や伯母の寿桂尼との交流が記されて いる。稚児舞楽は、稚児が舞うもので、駿府浅間社に奉納された。

(今川館の位置)

今川氏は、後の駿府城付近に館を構えたと考えられている。 文明4年(1472)12月30日には7代義忠が義政から安倍山 を与えられている。後の武田の進出や駿府城築城によって今 川氏時代の町は大きく改変されて、今川館の位置は分からな くなった。駿府城周辺の発掘調査が進んだものの、今のとこ ろ館の位置は特定できていない。ただし、室町時代の道路や



屋敷地を囲む大溝や建物跡が見つかっている。また舶来の陶磁 金箔を貼ったかわらけ

器のほか酒宴で使い捨てるかわらけにも金箔を貼った贅沢品が見つかっており、財力に富む今川氏の館が駿府城付近に存在した可能性はかなり高い。

(駿甲相三国同盟)

今川家 10 代当主となった今川義元は、甲斐国(現山梨県)を拠点とする武田信玄、 まがかっくに 相模国(神奈川県)の北条氏康と同盟を結び駿河の領国支配を安定させた(駿甲相三国同盟)。これにより、義元は西の三河国、尾張国に集中することができるようになった。

(今川氏と茶の湯文化)

戦国時代には、京や堺の商人や町人を中心に茶の湯が流行する。今川氏は、商人との交流の中で茶の湯に関心を寄せ、茶道具の収集も行っていた。それを示すように、駿府城の発掘調査では、駿府城築城以前、今川氏が活躍した戦国時代の遺構から、天目茶碗や水指などの茶道具が大量に出土した。

(安倍金山)

今川氏の時代には、安倍川の支流は駿府の町の中を流れていた。安倍川の上流と大井川には金を多く含む金鉱脈が作り出した金山があった。総称して安倍金山と言われているが、梅ヶ島金山・大京がけるで、それぞれの金山名で呼ばれることもあり、更に梅ヶ島金山を例にとれば、日影沢金山・入島金山・関の沢金山・湯ノ森金山といったいくつかの金山が成り立ち、金の採掘がおこなわれてきた。金を採取する際に使用した道具を作成する技術は曲物として現在に受け継がれているとされる。代表的なものとしては井川メンパが挙げられる。

また、金鉱脈に沿って温泉が分布する。

(今川氏ゆかりの寺院)

駿府の周辺には、今川義元が9代当主今川氏輝(義元の兄)を弔うために開いたとされる臨済寺(葵区大岩本町)や今川氏親の菩提寺・増善寺(葵区慈悲尾)など今川氏ゆかりの寺院が現在まで残っている。臨済寺では、永禄3年(1560)の桶狭間の戦いで敗死した義元の葬儀が行われた。義元の菩提を弔うために天沢寺が臨済寺の周辺に建てられたが、現在は廃寺となっている。

静岡市域の戦国時代は、将軍足利家の一門である今川氏が、金山の開発、京の公家との交流によって勢力を拡大するとともに、分国法を制定して戦国大名に変貌した時代である。

(12) 安土・桃山時代

織田信長入京の永禄II 年(1568)、あるいは、信長による将軍足利義昭の追放の天正元年(1573)から、豊臣秀吉が実権を握り、その後、関ヶ原の戦いによって徳川家康の権力が確立した 1600 年までの約 30 年間を指す。

(武田氏の侵攻と駿府の整備)



江尻城跡(明治 21 年 2 万 5 千分の 1 地図)

(武田氏の築城と城をめぐる攻防)

富士川や東海道を見渡すことができる蒲原城は、今川氏や北条氏、武田氏にとっての攻防の前線となった。永禄 12 年(1569)12 月に武田信玄が再度駿河に侵攻し、12 月6日に蒲原城を攻め落とした。武田の重臣山県昌景が入城し、蒲原・清水の武士を統合し蒲原衆として城の守りに当たらせたが、天正 10 年(1582)に徳川・織田連合軍に攻められて落城した。戦国末期の駿河をめぐる攻防の重要な舞台になった蒲原城であったが、徳川氏の管理下になった後に廃城となった。

丸子城は、武田氏が、駿府防衛の西の要として重要視し、大きく整備された。武田勝頼と 徳川家康による駿河での攻防の後、武田氏が駿河から撤退し家康が駿河を領有するとともに、 丸子城は家康の管理下になった。その後、家康の関東移封によって廃城となった。丸子城に は、武田系の城に見える丸馬出のほか、横堀、土塁といった遺構が現在も残る。

(徳川家康の入府)

武田氏が天首山の戦いで織田・徳川連合軍に敗れて滅び、織田信長が死去し、家康が豊臣秀吉に追従したのち、駿府には家康が入る。家康は、今川館跡地に駿府城を築き拠点とした。この時の城域は、現在みられる駿府城の二ノ丸までの大きさであったとされている。駿府城跡天守台の発掘調査では、この時築かれた自然石を利用した野面積みの天守台が発見されたほか、天守台石垣付近の堀跡からは、金箔を貼った瓦が出土しており、駿府城は金箔瓦を葺いた天守をもつ城であった。家康は天正 18 年(1590)に北条氏の旧領を秀吉から与えられたため、駿府を立つこととなる。駿府は秀吉の家臣、中村一氏の領地となった。

静岡市域の安土・桃山時代は、今川氏から武田氏、そして徳川氏へ、目まぐるしく支配者 が変わった時代である。

(12) 江戸時代

慶長8年(1603)家康の征夷大将軍補任にはじまり、慶応3年(1867)慶喜の大政奉還に至るまでの265年間続いた、武家が全国統治した時代を江戸時代という。

(家康の大御所政権と慶長の駿府城)

徳川家康は、慶長8年(1603)、征夷大将軍になった後、将軍職を子の秀忠に譲って大御所になると、慶長 12 年から駿府城の大改修に着手する。この時の駿府城は、全国最大規模の天守台を有し、三重の堀を巡らしていた。この大改修にあたっては、藁科川流域や龍爪山から流れる長尾川流域の石切場などで石材を確保し、石垣を築いた。

家康は、駿府を拠点として、秀忠率いる江戸幕府を確立するための補助的機関のような役割を果たしつつも、全国を統治する機能も果たしていた。例えば、幕政に関わる取り決めや大名への通達を行った。また、家康のもとには金地院崇伝、南光坊天海などの僧侶、はたいらざれなどの学者、茶屋四郎次郎や後藤 床 三郎といった商人、ウィリアム・アダムスやヤン・ヨーステンといった外国人も仕えていた。

家康は、元和2年(1616)4月17日に駿府城で息を引き取り、久能山に埋葬された。

(今に残る地名と駿府九十六ヶ町)

家康は慶長 14 年(1609)から城下町の大規模な区画整理に着手した。外国人の記録によれば、江戸 15 万、駿府 10 万と言われるほど人口が集中した。この町割によって、碁盤の目状に分けられた区画が「駿府九十六ヶ町」で、これらはほとんど変化することなく、明治時代まで受け継がれ、現在でも多くの地名が残っている。

(徳川頼宣、忠長の政治から城代時代へ)

徳川家康の死後、家康の十男である頼宣(後の紀伊徳川家初代)や家康の孫である徳川忠長、代官による統治が行われる。忠長が兄の三代将軍徳川家光により改易されると、駿府は幕府直轄領となり駿府城は幕府派遣の役人である城代が管理するようになった。これにより、家康時代からの武士団は江戸に移り、駿府城下町は明屋敷が目立つようになった。

(由比正雪の乱と加番役)

幕府は駿府城周辺を警備する加番を二つ設置して治安維持に努めた。慶安4年(1651) に由比正雪が幕府転覆を計画するものの発覚し、自決する事件が起こった。この事件を受けて、三加番屋敷が設置された。現在は稲荷神社となっている。

加番によって駿府を訪れる他国の藩士らによって駿府の経済は賄われていた。

(朝鮮通信使と琉球使節)

朝鮮通信使は、朝鮮王朝と徳川将軍の国書を交換する重要任務を担った外交使節である。 豊臣秀吉の侵攻で断絶した両国の国交は、徳川家康の善隣外交の意思を朝鮮王朝が受け入れ 回復した。その後、朝鮮通信使は、徳川将軍の代替わりの際に日本の要請によって朝鮮王朝 が派遣し、慶長 12 年(1607)から文化8 年(1811)の間に 12 回来日した。海路と陸路 でソウルと江戸を往復した通信使と日本人との交流が各地で行われ、なかでも清水区興津の 清見寺は文化交流の場であった。

琉球使節は、琉球国王即位に際して派遣される謝恩使と、将軍代替わりの際に派遣される 慶賀使があり、清見寺にも訪れていた。慶長 15 年(1610)、具志頭王子尚宏は兄の尚 寧王と共に江戸に向かう途中、駿府で家康と対面したのちに、病死し興津の清見寺に葬られた。

(近世東海道と二峠六宿)

静岡市を横断する江戸時代の主要街道に、東海道がある。市内には、東端の蒲原宿から西へ、由比宿、興津宿、江尻宿、府中宿、丸子宿の6つの宿場と薩埵峠、宇津ノ谷峠の2つの峠が整備された。

寛永 12 年 (1635) に武家諸法度が改正されると、諸大名の参勤交代が制度化され、東海道は東海・西国諸大名の通行が多く見られた。また、お伊勢参りの流行など庶民の往来も盛んであった。

街道沿いには、本陣跡や町家、町並みが残されているほか、袖師(清水区)や丸子(駿河区)に点在する松並木がその名残を留めている。

歌川広重は、東海道の宿場の何気ない風景を切り取った、東海道五十三次の版画を制作した。その中には、「府中安倍川」や「蒲原夜の雪」、「由井薩垂嶺」など、東海道の旅人とともに叙情にあふれる静岡のかつての姿を遺している。

(そのほかの道)

駿河国には東海道を中心にして、一定の地域や施設、あるいは甲斐・相模国などと結ぶ道がある。

(身延道)

駿河国と身延山(山梨県)を結ぶ南北の道を一般に身延道と呼ぶ。興津宿(清水区)から分岐するルート、蒲原宿から分岐するルート、由比宿から分岐するルート等、南北に複数の道筋があった。

(小島藩と小島陣屋)

三河十八松平の一家、瀧脇松平氏は、宝永元年(1704)身延道沿いの小島(清水区)に陣屋を築き小島藩を立藩した。小島藩はそれ以来明治維新までの 164 年間続いた。小島陣屋は、一万石の小大名の拠点でありながらも、城郭のように3 mを超える高い石垣で囲まれた曲輪状の平地を連ねた構造をもつ。

(久能道)

東海道筋から久能山へは、府中からは下伝馬町から分岐して約3里(I2km)の久能道があり、江尻からは巴川を渡って入江町から左折する2里半の久能道がある。参勤途中の大名や幕府役人が参拝することが多く、江尻・府中宿からは人馬賃銭が決められていた。

(富士川舟運)

米穀と塩は富士川舟運の代表的な荷物であった。富士川は東海随一の急流で、交通の難所であったが、甲府をはじめとする甲斐(山梨県)と駿河を結ぶ主要な交通路として、慶長12年(1607)幕府の命により角倉了以によって開削工事がなされ舟運が可能となった。信州、甲州の年貢米は、清水に集められてから江戸へ運ばれたため、甲府藩の飛び地(甲州廻米置場)が存在する。

(甲州廻米の南北ルート)

富士川舟運の主な役割は甲州(山梨県)や信州(長野県)の年貢米の輸送であった。 甲州に集められた年貢米は舟で富士川河口の岩淵まで川下げされ、そこから馬で蒲原まで運 ばれた。さらに蒲原から清水湊に小廻しされ、清水湊から江戸に運ばれた。これを甲州廻米 という。

(塩釜・塩焼〔製塩〕)

富士川西岸から蒲原・由比・興津にかけての海岸一帯は比較的広い砂浜が広がり、塩作りが行われてきた。

(わさびの生産)

享保3年(1718)2月に渡村(葵区)で交わされた山地売渡し代金の覚には、わさび沢の記載があり、元文4年(1739)4月には、黒俣村(葵区)でも手形が取り交わされていることから、江戸時代の中期にはわさびの栽培が行われていたことが分かる。

(茶業の発展)

道 享 2年 (1685) に足久保 (葵区) の茶が「御用茶」として幕府へ上納されるようになる。

(清水湊)

清水湊は駿府の外港として、江戸と大阪の両市場と駿府を結ぶ東西海上交通の中継港であった。また、富士川舟運を媒介として甲州・信州と大阪及び駿府・清水を結ぶ重要な湊であった。清水湊には諸国廻船が出入し、廻船が積載する諸荷物を独占的に取り扱い、利益を得る廻船問屋仲間が存在した。廻船問屋は諸荷物を取り扱ったが、諸荷物の中でも特定の物品、材木・米・塩を専門的に扱う問屋が生じるようになり、魚を専門に取り扱う問屋も生じてい

た。魚問屋は清水八か村の内、本魚町、新魚町、袋町(清水区)に集住しており、この3か村は魚座3町と称され、魚仲買や漁師が多数集まっていた。

清水湊から出荷された品の中に茶も含まれる。元文2年(1737)には、清水湊から茶2万1938本が積み出され、同3年2万284本、同4年2万4347本が積み出された。

(清水次郎長)

清水次郎長は、清水生まれの幕末・明治初期の(侠客で、本名を山本長五郎という。明治元年に旧幕府艦隊の一隻として脱走した咸臨丸が清水湊へ漂着すると、新政府軍の総攻撃を受けて死者多数を出す。その際に、遺体を収容し清水湊近くに弔慰した。山岡鉄舟や積本武揚はこの弔慰をきっかけに次郎長を知ることになる。その後、清水湊の整備や清水と横浜を結ぶ蒸気船定期航路の開拓などに尽力し、清水の発展に貢献した。

(静岡浅間神社の再建と職人の技術)

静岡市葵区宮ヶ崎町の静岡浅間神社は神部神社・浅間神社・犬歳御祖神社の総称で、三社は由緒を異にしながら、古くから同じ境内に鎮座し、一体として崇敬されてきた。今川氏、武田氏、徳川氏による社殿の造営、領地の寄進、社領の安堵などが行われた。江戸幕府3代将軍徳川家光による寛永11年(1634)の造営寄進後、2度の火災により跡形もなくなる。その後再建が企画され、文化元年(1804)から慶応元年(1865)までの60年余りの歳月をかけて、駿府の職人を中心に社殿群が再建された。彫刻は信州諏訪の立川一門が携わり、総漆塗、極彩色の社殿群は現在まで残されている。

静岡市域の江戸時代は、大御所徳川家康の終焉の地であったことから、政治の中心地であり、幕府とのつながりも深く、街道の往来、港の交易から豊かな産業が発展した時代である。

(13) 明治時代

この時代において日本は、江戸幕府を中心とする幕藩体制を打破し、天皇を頂点とする明 治政府のもとで、政治・経済・社会・文化などあらゆる分野で急速な近代化を進め、立憲政 治を実現して近代国民国家を形成し、産業化を推進し、国際社会の中で勢力を拡張していっ た。

(西郷・山岡会見の地)

江戸幕府 I5 代将軍徳川慶喜が大政奉還をした後、旧幕府軍と新政府軍の間で戊辰戦争が起こる。江戸に向かって進軍する西郷隆盛率いる新政府軍は、駿府城の城代屋敷に留まった。この時、西郷隆盛と山岡鉄舟が駿府で会見を行い、江戸城無血開城に向けた話し合いをした。

(駿府藩と徳川家達)

明治維新によって、駿府藩が再び立ち、徳川家達が駿府に入ると、徳川家の再興のため 静岡学問所が造られた。明治2年(1869)駿府から静岡へと改称され、明治4年(1871) になると廃藩置県により駿府藩改め静岡藩の徳川家は東京へ引き上げ、静岡県が成立する。

(静岡市の誕生)

明治 22 年(1889)の市制の施行にあわせて、旧駿府城下の町々をまとめて静岡市が成立した。

(蒲原町の誕生)

明治 22 年(1889)の町村制の施行にあわせて、蒲原宿に小金村、中村、堰沢村、神沢村の四ヶ村が一つに合併されて蒲原町となった。

(由比町の誕生)

明治 22 年(1889)の町村制の施行にあわせて、由比宿に北田村、町屋原村、今宿村、 でもおむら ひがしくらさわむら にしくらさわむら ひがしやまでらむら あそうむら いりゃまむら にしゃまでらむら 寺尾村、東倉沢村、西倉沢村、東山寺村、阿僧村、入山村、西山寺村が合併して由比町と なった。

(鉄道波止壁)

明治 20 年(1887)、東海道線最大の難所だった薩埵峠に鉄道を通すため、防波工事を施した上で、海岸に沿って線路を敷設した。

現在、その防波壁が清水区興津~清水区由比、西倉沢~清水区蒲原神沢の約4kmに、鉄道線路と国道 | 号富士由比バイパスの間に断続的に残る。特に由比川鉄道橋梁左右岸は石積技術の高さを証明している。

(鉄道の開通)

明治 22 年(1889)に東海道鉄道(現JR東海道本線)東京-静岡間が開通し、静岡駅が開業した。同じ年に静岡-浜松間が開通したことにより、静岡市の交通網が著しく発展した。

(陸軍省へ献納された駿府城跡)

明治 29 年(1896)駿府城跡の内、本丸、二の丸は、静岡市から陸軍省に献納された。 翌年から昭和 20 年(1945)まで陸軍歩兵第三十四連隊が駐屯した。

(政治家、財界人、文人の訪れる土地)

明治期の静岡市は、興津町(清水区)や蒲原町(清水区)などに別荘が集中したため、いのうまからる。いとうひろくに、さいおんじぎんもち、たなかみつもち、 内部正桓、高山樗牛 らをはじめとする政治 家・財界人・文人なども多く訪れていた。江戸幕府最後の将軍徳川慶喜は、20 年以上を静岡で過ごしており、静岡市街地の、邸宅跡は、料亭の浮月楼となっている。

(清水港開港と茶輸出)

江戸時代を通して拡大した静岡市内の茶生産は、幕末の横浜開港を経て更に増大する。明治時代に入ると、東海道本線の開通や清水港からの直輸出によって日本一の茶輸出量を誇るまでに成長する。現在の静岡鉄道も、もとは茶問屋が多くある安西・茶町などと清水港を結んで茶を運ぶために整備された。

(清水港と清水灯台)

清水灯台は、駿河湾を望む三保半島吹合の岬近くの松原内にある、明治 45 年(1912) 建設の洋式灯台である。明治中後期に、全国的な航路網が充実する中、清水港の修築工事と 一連で計画、整備された近代航路標識の展開を物語る灯台。設計施工は逓信省航路標識管 理所で、我が国初の鉄筋コンクリート造灯台であり、現存最古級の鉄筋コンクリート造建造 物でもある。

(由比町、蒲原町におけるサクラエビ漁の発達)

サクラエビ漁は、明治 27 年(1894)に鰺夜曳船の漁師が浮樽を忘れて、やむなく浮樽なしで網をおろしたところ、180 リットルくらいのサクラエビを引き上げることができたことにはじまる。漁獲方法も工夫され、由比町二十統の鰺夜曳船はたちまちにしてサクラエビ揚繰網にかわった。

明治 28 年、沖合で漁獲方法の伝習が行われ、蒲原町漁業者二十統もその漁法を取り入れ、明治 29 年から新漁法でサクラエビ漁業が操業されるようになった。

(由比町の商業の発達)

明治中期、東海道線が開通し、交通の便がひらけると、紙、ミカン、サクラエビが各地に 販路をひろげ、商業が活発化した。また、養蚕・製茶業が発展したほか、肥料・鰹節・蒲 鉾・三椏の取引が盛んに行われた。

静岡市域の明治時代は、江戸幕府の統治の名残をとどめる一方で、県、市、町の成立と新産業の開発によって、現在、静岡市の特産となっている農産物生産、水産漁業の基礎がつくられた時代である。

(14) 大正時代

大正3年(1914)、第一次世界大戦が勃発すると、日本は戦争による好景気にわいた。静岡でも、工業化、都市化にともない、水道、電気等のインフラの整備、鉄道、バスの交通網が整備されていった。

(工業化・都市化)

市内では、伝統工芸の蒔絵や塗り物、マッチなどが輸出品として珍重された。旧静岡市では、都市計画が実施され、都市化と都市工業が発展した。電気、ガスが敷設され、市内電車も大正5年(1916)に安倍鉄道が開通した。また、大正9年(1920)には静岡清水間の全線電化が完了した。その他国道の整備に伴って大正 12 年(1923)には安倍川に安倍川橋が架けられた。

(清水市の誕生)

大正 13年(1924)、庵原郡辻町、江尻町、安倍郡入江町、清水町、木二見村、三保村が合併し清水市が誕生した。市の名前は、「清水」とするか「江尻清水」とするか「巴市」「清見潟」などの案に分かれたが、最終的に「清水」となった。



オリオン座のネオン

(石垣イチゴの栽培)

静岡市では、大正中期からハウス内で野菜や花卉、果樹などを栽培する施設園芸が盛んになる。特に有名なものは駿河区大谷から清水区駒越までの東西8kmにわたり、日本平の南西斜面地から海岸線までの幅 400~500m の範囲で栽培されるイチゴである。

(葵文庫)

大正 14 年(1925)、県立図書館 葵文庫(葵区駿府町)が開館した。この館は、徳川 家の記念事業として企画された。内容は、慶応4年(1868)の徳川家達の駿府移封に伴い、 移された江戸幕府の旧蔵書である。

静岡市域の大正時代は、鉄道や道路の整備、電気、ガスの敷設など都市化がさらに進んだ 時代である。

(15) 昭和時代

昭和の始まりは、昭和2年(1927)の金融恐慌、昭和4年(1929)の世界恐慌の影響で、銀行での取り付け騒ぎや企業の倒産が起きるなど混乱に満ちていた。戦争を経て、高度経済成長を迎え、現代の生活様式に近づいたのがこの時代である。

(静岡市街地の近代化)

市街地では都市計画法に基づく 32 路線の道路整備が行われ、昭和5年(1930)には昭和天皇の行幸に合わせて御幸通りが整備された。更に、昭和6年に市内初の百貨店であるためかやひかかでは、現静岡伊勢丹)の開業、昭和7年に松坂屋静岡支店、昭和9年には静岡市役所本館が建築されるなど、近代化が進んだ。

松坂屋静岡支店

(ミカン栽培)

静岡市における温州ミカン栽培の起源は庵原郡杉山村(現清水区)の片平信明が、明治 12 年(1879)に和歌山から苗木を運び植栽したのが経済栽培の始まりとされている。なか

でも、昭和 10 年頃、福田ケ谷(葵区)の青島氏のみかん畑で発見された「青島みかん」は 温州ミカンを代表する品種である。

温州ミカンの栽培は、年間を通じて温暖な気候のもと、市内の各所で行われる。

(缶詰生産)

昭和4年(1929)、日本最初の輸出用まぐろ缶詰会社が清水市に創設された。 蒲原町、由比町にも缶詰工場が作られ、昭和 16 年には、由比町に特産加工農業協同組合 が設立され、ミカンをはじめ、桃・枇杷・ブドウ・筍及び鰹・鮪の缶詰製造が始まった。

(静岡大火と静岡大空襲)

昭和 15年(1940)新富町(葵区)付近で出火し、強風と乾燥により周辺に延焼した静岡大火、昭和 20 年の静岡大空襲により様々な建造物が焼失するなど、静岡市域はたて続けに火災等の甚大な被害を受けた。

(登呂遺跡の発見と博物館の設置)

登呂遺跡は弥生時代後期の集落跡と水田跡を中心とした 遺跡で、昭和 18 年 (1943) に発見された。戦後に登呂遺 跡で行われた多分野の研究者が参加した学際的な発掘調査 は、日本考古学の発展に大きな影響をもたらし、学史的に も重要である。



静岡大空襲後の静岡市

登呂博物館は、昭和30年(1955)に開館した「静岡考古館」を前身として、昭和47年(1972)年に開館した。

(清水港の復興)

旧清水市域では、連合国軍総司令部(GHQ)によって清水港が貿易港 12港の内の一つに指定されたことを機に、港の復興が進んだ。昭和 27年(1952)には特定重要港湾(外国貿易の増進上特に重要な役割を果たす港、現在は国際拠点港湾)に指定され、昭和 41年

(1966) に興津第 | 埠頭、昭和 43 年(1968 年) に興津第 2 埠頭、昭和 47 年(1972) に袖師第 | 埠頭の供用が開始されるなど、国際的な港として整備が進んだ。

(東海道新幹線と東名高速道路の開通)

戦後、昭和 39 年(1964)の東海道新幹線開通、昭和 44 年(1969)の東名高速道路全線開通により広域高速交通網が発展した。旧静岡市の市街地は、県と市が進めた火災に強い「不燃化共同ビル計画」のもと生まれ変わり、郊外型大型商業施設に負けない、「人のにぎわいの絶えないまち」として全国的に注目されることとなった。

(七夕豪雨)

昭和 49 年(1974)7月7日から8日にかけて集中豪雨が市域を襲い、巴川・丸子川流域を中心に甚大な被害をもたらした。7月7日の七夕に発生したため、「七夕豪雨」と呼ばれている。これ以降、中小河川の治水対策が行われ、巴川の水を大谷川に分水させる放水路が平成 11 年(1999)に建設された。



七夕豪雨

(清水みなと祭り、清水七夕まつり、安倍川花火大会、静岡まつり、登 呂まつり)

文化面では、まちの復興や空襲被害の慰霊などを目的に、様々な祭り行事が開催されるようになった。昭和 22 年(1947)に清水みなと祭り、昭和 28 年に清水七夕まつり、安倍川花火大会の前身となる東海道花火大会が行われた。また、静岡浅間神社の祭礼、廿日会祭が母体となった静岡まつりや、昭和 35 年(1960)に始まった登呂まつりなど、市民が主体となった祭りも行われるようになり、現在まで続いている。



安倍川花火大会

(蒲原町の塗装業)

蒲原町では明治期から塗装業が発展した。塗装は鉄橋や、鉄道の橋梁、鉄塔など高所の作業が多く危険をともなう仕事であるが、蒲原町出身者が全国各地の現場で塗装をしたことが知られる。昭和 33 年(1958)に竣工した東京タワーの塗装は蒲原町出身者も行ったことが知られている。

さくらももこさんからのメッセージ静岡市 HP から引用

(ちびまる子ちゃんの舞台)

漫画家のさくらももこ(1965~2018)は、清水市(現 清水区)生まれである。

作品の「ちびまる子ちゃん」は、清水市(現清水区)を 舞台にした漫画で、清水市や静岡市の人々の生活が良く記 されている。

静岡市域の昭和時代は、戦前の近代化の進展、戦後の復 奥とインフラ整備、地域の新たな文化が成立した時代であ る。

魯 こんにちは、さくらももこです。劇

和の ふるさとは 静 国市の清水です。 静 国市は 山があり 海があり 川があり 立派な 富士山も よく見えて 気候 も温暖 な すばらいホです。 登8遺跡や 駿谷城跡 や 次郎長 伝説など 歴史や 文化も たくさん 残っています。 町のあちこちに、私の思いまもいばいあります。 静岡市が、ずりとすこやかで豊かな町でありますようにと

みなさんも、どうぞ静風市に み越し下さい。 おおらかで のん気な 静風市も ぜひ体験に下さい。



(16) 平成~令和時代

©MOMOKO SAKURA

昭和 64 年(1989) | 月7日、昭和天皇の崩御に伴い、元号法の規定により元号(年号)を平成と改める政令が公布され、翌 | 月8日から施行された。これは、日本国憲法のもとでの最初の改元であった。

(人口減少、4市町の合併)

静岡市の人口は、平成2年(1990)の 739,300 人をピークに減少傾向にあり、最新の人口は令和6年(2024)5月現在675,797人である。

平成 15 年(2003) に、旧静岡市と旧清水市の合併により、新「静岡市」が誕生し、平成 17 年(2005) に政令指定都市に移行した。その後、平成 18 年(2006) に旧蒲原町、平成 20 年(2008) に旧由比町を編入合併し、現在の静岡市となった。

(文化政策と世界文化遺産)

静岡市では、政令指定都市移行時に第 | 次総合計画を策定し、令和 4 年度末に第 3 次総合計画が終了するが、続く令和 5 年度以降の第 4 次総合計画でも、「歴史文化のまちづくり」が大きな柱のひとつとなっている。平成 25 年(2013)には、三保松原がユネスコ世界文化遺産「富士山ー信仰の対象と芸術の源泉」の構成資産に登録された。平成 28 年(2016)から令和 2 年(2020)にかけて行われた「駿府城跡」の発掘調査では、家康大御所時代の日本一の大きさをもつ天守台や、その内部に埋められていた戦国時代末期の天守台と金箔瓦という大発見があった。令和 5 年(2023)には、静岡市歴史博物館が葵区にグランドオープンした。

葵区有東木地区に伝承される8月 15日に行われる盆踊。男踊り、女踊りに分かれ、飾り 灯籠を頭上にかかげ踊る等の特徴があり、令和4年(2022) 11月 30日に「風流踊」の一 つとしてユネスコ無形文化遺産代表一覧表に記載された。



天正期駿府城天守台



慶長期駿府城天守台



三保松原文化創造センター「みほしるべ」



静岡市歴史博物館

(模型の世界首都 静岡)

静岡市は、プラスチックモデルの全国シェアの82%を占めている。 街の魅力を全国にアピールするために「プラモデル」を柱としたシティプロモーション「ホ ビーのまち静岡推進事業」を行っている。

この活動のために静岡市内模型メーカーや静岡市の伝統工芸品を守り全国へ発信し続ける 静岡特産工業協会、静岡商工会議所がタッグを組み平成 24 年 (2012)「ホビー推進協議会 静岡」を結成した。様々なホビーを通じて「ものづくり」への関心を高めるだけでなく、地 域経済の活性化と地場産業の一層の発展に力を注いでいる。

(中部横断自動車道の開通)

交通では、国道 52 号が、清水区與津と甲府市を結んでいる。中部横断自動車道が平成 3 l年(2019)に新清水ジャンクションから富沢ジャンクションで開通、令和 3 年(2021)に全線開通したことで、山梨県をはじめとする上信越地域などへのアクセス性が向上した。

第2章

静岡市の文化財の概要と現況

- ・静岡市には令和6月3月現在、331 件の指定等文化財が所在しており、市域全体 に分布している。
- ・世界文化遺産として、富士山が登録されており、三保松原が構成資産となっているほか、日本遺産として、「日本初『旅ブーム』を起こした弥次さん喜多さん、駿州の旅から滑稽本と浮世絵が描く東海道旅のガイドブック(道中記)~」が認定された。
- ・ユネスコ世界の記憶「朝鮮通信使に関する記憶」の一つとして、清覚寺の所有する朝鮮通信使関係資料 48 点が登録され、ユネスコ無形文化遺産「嵐流踊」として有東木の盆踊が登録されている。
- ・本計画作成にあたり、未指定文化財として、既存文献史料等から 1,974 件をリスト化した。
- ・本章では、静岡市の文化財について、その特徴をまとめるとともに、これまで静岡市内の文化財について行われてきた調査や取組の現況についてまとめる。

I 静岡市の文化財の概要

(1) 指定等文化財

ア 指定等文化財の概要

静岡市内には文化財保護法の規定による国指定等文化財、静岡県文化財保護条例の規定による県指定文化財、静岡市文化財保護条例による市指定文化財があり、その合計は 292 件を数える(令和6年3月現在)。このほか国登録有形文化財が39件加わって指定等文化財の件数は総計331件にのぼる。

[指定等文化財の一覧]

(令和6年3月6日現在)

	文化財の種別		国指定	県 指定	市指定	国登録	合計
有	有形文化財		40	77	91	39	247
	建造	5 物	7	4	14	39	64
		絵 画		12	8	_	21
	羊	彫 刻	2	12	21	_	35
	美術工	工芸品	22	30	15	_	67
	工芸品	書跡・典籍・古文書	6	7	20	_	33
	品	考古資料			4	_	16
		歴史資料	l	l	9	_	11
無	形文	化財	0	1	0	0	1
民	俗文	化財	2	8	6	0	16
	有形	の民俗文化財	0	ı	2	-	3
	無形	の民俗文化財	2	7	4	-	13
記	念物)	14	11	42	0	67
	遺	跡	8	2	11	-	21
	名	 勝 地	5		3	_	9
	動物	・植物・地質鉱物	l	8	28	-	37
文	文化的景観		0	_	_	_	0
伝	統的	建造物群	0	_	-	_	0
		合 計	56	97	139	39	331

[※]史跡及び名勝に指定されている「柴屋寺庭園」については、双方の種別について各々 | 件として数えている。

[※]上記一覧のほか、東海大学海洋学部にて国指定天然記念物ミヤコタナゴを飼育

[指定文化財リスト]

(ア) 国指定文化財(令和4年9月現在)

種別	区分	名称 名称	指定年月日	所在地	所有者等
形文化財	建造物	久能山東照宮本殿、石の間、拝殿	H22.12.24	駿河区根古屋	久能山東照宮
宝	美術工芸品	太刀 銘真恒	S26.6.9	駿河区根古屋	久能山東照宮
	(工芸品)				
	美術工芸品(書跡)	法華経(久能寺経)19 巻	S27.11.22	清水区村松	鉄舟寺
要文化財	建造物	久能山東照宮社殿(I3 棟)	M41.8.1	駿河区根古屋	久能山東照宮
		(追加指定)	H22.12.24		
		霊山寺仁王門	S6.1.19	清水区大内	霊山寺
		神部神社浅間神社社殿(23 棟)	S46.6.22	葵区宮ヶ崎町	静岡浅間神社
		(追加指定) 棟札 10 枚	H11.5.13		
		大歳御祖神社社殿 (3棟)	S46.6.22		
		(追加指定) 棟札 2 枚	HII.5.13		
		臨済寺本堂 附玄関 (I 棟)	S58.1.7	葵区大岩町	臨済寺
		清水灯台	R4.9.20	清水区三保	海上保安庁
	美術工芸品	紙本著色蘭亭曲水龍山勝会図	S59.6.6	駿河区谷田	静岡県
	(絵画)	池大雅筆		県立美術館	
	美術工芸品	木造阿弥陀如来立像	S6.12.14	葵区常磐町	宝台院
	(彫刻)	木造阿弥陀如来立像	S60.6.6	葵区伝馬町	新光明寺
	美術工芸品	太刀 銘長船住人長光 附糸巻太刀拵	M44.4.17	葵区宮ヶ崎町	静岡浅間神社
	(工芸品)	革柄蝋色鞘刀 無銘(伝三池光世作) 附蒔絵刀箱	M44.4.17	駿河区根古屋	久能山東照宮
		太刀 銘雲次 附糸巻太刀拵	T1.9.3	駿河区根古屋	久能山東照宮
		太刀 銘国宗 附糸巻太刀拵	T1.9.3	駿河区根古屋	久能山東照宮
		太刀 銘守家 附糸巻太刀拵	T1.9.3	駿河区根古屋	久能山東照宮
		太刀 銘安則 附糸巻太刀拵	T1.9.3	駿河区根古屋	久能山東照宮
		太刀 銘国行 附糸巻太刀拵	T1.9.3	駿河区根古屋	久能山東照宮
		太刀 銘国行 附糸巻太刀拵	T1.9.3	駿河区根古屋	久能山東照宮
		脇指 無銘(伝貞宗) 附黒鮫柄合口拵	T3.4.17	駿河区根古屋	久能山東照宮
		太刀 無銘附糸巻太刀拵	T10.4.30	清水区三保	御穂神社
		太刀 銘正恒 附糸巻太刀拵	T12.3.28	駿河区根古屋	久能山東照宮
		太刀 銘国宗 附糸巻太刀拵	T13.4.15	駿河区根古屋	久能山東照宮
		脇指 無銘(伝相州行光作)附黒鮫柄黒 漆鞘小サ刀	T13.4.15	駿河区根古屋	久能山東照宮
		太刀 銘末守 附糸巻太刀拵	T14.4.24	駿河区根古屋	久能山東照宮
		太刀 銘高(以下不明)附糸巻太刀拵	T15.4.19	駿河区根古屋	久能山東照宮
		錫杖(しゃくじょう)	S11.5.6	清水区村松	鉄舟寺
		短刀 銘則重	\$15.5.3		個人蔵
		脇指 銘相模国住人広光延文五年八月日 附小サ刀拵	S27.7.19		個人蔵
		太刀 銘行秀	S30.6.22		個人蔵
		伊予札黒糸威胴丸具足 附具足櫃	S41.6.11	駿河区根古屋	久能山東照宮
		金溜塗具足 白檀塗具足 附具足櫃(2)領)	S41.6.11	駿河区根古屋	久能山東照宮
	美 術 工 芸 品 (書跡·典籍・	宋版石林先生尚書伝 自巻第一至第四 紹興二十九年仲夏刊記	S49.6.8	清水区興津清見寺町	清見寺
	古文書)	後嵯峨上皇幸西園寺詠翫花和歌并序(唐紙)	S55.6.6	駿河区谷田 県立美術館	静岡県
		山背国愛宕郡天平四年計帳残簡	S55.6.6	駿河区谷田 県立美術館	静岡県
		写経奉請状 天平勝宝四年四月	S55.6.6	駿河区谷田 県立美術館	静岡県
		上 熊谷家文書(255 通)	S48.6.6	山口県文書館	個人蔵
	美術工芸品(歴史資料)	徳川家康関係資料(73種一括)	S54.6.6	駿河区根古屋	久能山東照宮

	美術工芸品(考古資料)	登呂遺跡出土品 附 土器片 (775 点)	H28.8.17	駿河区登呂五丁目	静岡市
重要無形民 俗文化財	無形の民俗文 化財	有東木の盆踊	HII.12.21	葵区有東木	有東木芸能保 存会
		静岡浅間神社廿日会祭の稚児舞楽	R4.3.23	- 葵区宮ヶ崎町	静岡浅間神社 廿日会祭の稚 児舞楽保存会
記念物	特別史跡	登呂遺跡 (追加指定)	\$27.11.22 \$53.12.21	駿河区登呂五丁目	静岡市ほか
	史跡	賤機山古墳	S28.3.31	葵区宮ヶ崎町	(管理団体) 静岡市
		久能山	S34.6.17	駿河区根古屋ほか	久能山東照宮
		片山廃寺跡	S40.9.7	駿河区大谷、片山、	静岡市ほか
		(追加指定)	\$49.5.13	宮川	
		柴屋寺庭園	S31.5.15	駿河区丸子	柴屋寺(さい
		(追加指定)	S45.8.11		おくじ)
		朝鮮通信使遺跡興津清見寺境内	H6.10.11	清水区興津清見寺町	清見寺
		小島陣屋跡	H18.7.28	清水区小島本町	静岡市ほか
		(追加指定)	H21.2.12		
		東海道宇津ノ谷峠越	H22.2.22	駿河区宇津ノ谷	(管理団体) 静岡市
	名勝	三保松原	T11.3.8	清水区三保、折戸	(管理団体) 静岡市
		清見寺庭園	\$11.9.3	清水区興津清見寺町	清見寺
		臨済寺庭園	\$11.9.3	葵区大岩町	臨済寺
		日本平	S34.6.17	清水区草薙、村松、	(管理団体)
				馬走	静岡市
		柴屋寺庭園	\$11.9.3	駿河区丸子	柴屋寺
		(追加指定)	S31,S45		
	天然記念物	龍華寺のソテツ	T13.12.9	清水区村松	龍華寺
		ミヤコタナゴ(飼育)	S49.6.25	清水区折戸二丁目	東海大学
				(東海大学海洋学部)	海洋学部

(イ) 県指定文化財(令和5年4月現在)

種別	区分	名称	指定年月日	所在地	所有者等
有形文化財	建造物	清水寺観音堂	S31.5.24	葵区音羽町	清水寺
		清水寺観音堂厨子	S31.5.24	葵区音羽町	清水寺
		延寿院不動堂	S50.11.25	清水区追分三丁目	延寿院
		光福寺本堂 附設計図	H5.12.21	清水区柏尾	光福寺
	美術工芸品	三十六歌仙懸額 青蓮院尊純法親王書 狩	S29.1.30	葵区宮ヶ崎町	静岡浅間
	(絵画)	野探幽筆(8面)			神社
		絹本著色大休和尚画像	S31.1.7	葵区大岩町	臨済寺
		千鳥図屏風 (一双)	S32.5.13	葵区大岩町	臨済寺
		絹本著色穴山梅雪画像 伝土佐光吉筆	S38.4.30	清水区興津井上町	霊泉寺
		紙本墨画達磨像	S49.4.18	清水区興津清見寺	清見寺
				町	
		紙本淡彩蛤蜊観音像	S49.4.18	清水区上清水町	禅叢寺(ぜ
					んそうじ)
		紙本墨画東照大権現像	S49.4.18	清水区上清水町	禅叢寺
		三十六歌仙図額(36面)	H13.11.26	葵区宮ヶ崎町	静岡浅間
					神社
		紙本墨画淡彩山水花鳥図押絵貼屏風	H15.12.5	清水区興津清見寺	清見寺
				町	
		東海道図屏風	H20.11.11	葵区追手町	静岡市
				静岡市歴史博物館	
		日本風景(徳川慶喜筆/油絵 絹)	R4.12.2	駿河区根古屋	久能山
					東照宮

	西洋風景(徳川慶喜筆/油絵 麻布)	R4.12.2	駿河区根古屋	久能山
	四个风景(心川及音羊/ 加松	114.12.2	被乃匹恨口座	東照宮
美術工芸品 (彫刻)	木造不動明王立像	\$31.10.17	 葵区建穂(たきょ う) 建穂観音堂	建穂自治会
(14) (1)	舞楽面陵王	S56.3.16	清水区村松	鉄舟寺
	木造千手観音菩薩立像	S57.2.26	清水区村松	鉄舟寺
	木造千手観音立像	H8.3.12	清水区大内	霊山寺
	附木造二十八部衆立像及び木造風神雷神像 28 躯	, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	78.1.2.7(1)	
	木造不動明王立像	HII.3.15	葵区建穂 建穂観 音堂	建穂自治会
	木造宝冠阿弥陀如来坐像	HII.3.15	清水区庵原町	一乗寺
	木造吉祥天立像(伝弁財天立像)	H14.3.22	葵区羽鳥	龍津寺
	木造足利尊氏坐像 附木造厨子	HI5.12.5	清水区興津清見寺 町	清見寺
	木造千手観音立像 ほか3躯附 躯	H17.11.29	葵区井川 中野観 音堂	観音堂別当
	坂ノ上薬師堂諸像	H29.12.8	葵区坂ノ上	坂ノ上町内 会
	木造金剛力士立像 2躯	H30.12.11	清水区大内	霊山寺
	木造文殊菩薩坐像	R4.4.1	清水区村松	鉄舟寺
美術工芸品	鉄山釜	S31.1.7	葵区大岩町	臨済寺
(工芸品)	太刀 銘八幡大菩薩備州長船盛重	S31.10.17		個人蔵
	梵鐘	S31.10.17	清水区興津清見寺 町	清見寺
	脇指 銘豊州住藤原友行作	S31.10.17		個人蔵
	長巻 無銘(伝吉岡一文字)	S31.10.17		個人蔵
	太刀 銘安綱	S31.10.17		個人蔵
	鰐口	S31.10.17	清水区茂畑	一渓寺
	太刀 銘備州長船景依	S32.5.13		個人蔵
	太刀 銘長光	S33.4.15		個人蔵
	刀 銘永禄七年八月日助宗作甲州住武田安 芸守 信良望之	S33.4.15		個人蔵
	刀 銘国廣	\$33.4.15		個人蔵
	鉄製釣燈籠	S33.4.15	清水区村松	海長寺
	鰐口	S33.9.2	清水区大内	霊山寺
	岩蒔絵文台及び硯箱	S34.4.14	葵区沓谷	蓮永寺
	太刀 銘備州長船則光	S36.3.28		個人蔵
	刀 銘長曽弥興里入道虎徹	S36.3.28		個人蔵
	短刀 銘景久	S36.3.28		個人蔵
	太刀 銘国真(金象嵌)	S36.3.28		個人蔵
	太刀 銘実阿	S36.3.28		個人蔵
	太刀 無銘 (伝兼長)	S37.6.15		個人蔵
	太刀 無銘 (伝行光)	S37.2.27		個人蔵
	鰐口 銘文浅服浅間有衆奉納也仍如件	S38.2.19	葵区追手町 静岡市歴史博物館	浅間神社
	刀 銘肥前国忠吉	S38.2.19		個人蔵
	刀 銘義助作	S39.4.21		個人蔵
	刀 銘 肥前国住人広則	\$40.10.1		個人蔵
	鰐口	\$44.5.30	葵区安西四丁目	大林寺
	鰐口	\$50.11.25	葵区口仙俣(白髭	口仙俣
			神社)	町内会
	鰐口	S53.3.24	葵区紺屋町小梳神 社	下町内会

		紅糸威腹巻	HII.3.15	葵区追手町 静岡市歴史博物館	静岡浅間 神社
		静岡浅間神社古神宝類(30件)	H12.3.17	葵区宮ヶ崎町	静岡浅間神社
	美術工芸品	鉄山和尚語録(4冊)	S31.1.7	葵区大岩町	臨済寺
	(書跡・典籍・	紙本墨書大般若経(折本)(600巻)	S33.4.15	駿河区大谷	大正寺
	古文書)	紙本墨書大般若経(旋風葉装折本)600 巻	\$33.4.15	清水区村松	鉄舟寺
		紺紙銀字妙法蓮華経(折本)7巻	S33.4.15	清水区村松	海長寺
		紙本墨書増壹阿鋡経	\$53.10.20	葵区羽鳥	龍津寺
		日蓮葬送日記	H6.3.25	駿河区池田	本覚寺
		鼇山文庫 (ごうざんぶんこ)	H13.11.26	清水区興津清見寺町	清見寺
	美術工芸品 (歴史資料)	清見寺朝鮮通信使関係資料 69 点	H18.3.31	清水区興津清見寺町	清見寺
	美術工芸品 (考古資料)	銅鐸	S31.1.7	清水区横砂東町 埋蔵文化財センタ	静岡天満宮
		半兵衛奥古墳出土壺鐙一対附馬具一括	S52.3.18	清水区横砂東町 埋蔵文化財センタ	個人蔵
		銅鐸	H12.11.17	清水区蒲原 県埋蔵文化財セン ター	静岡県
		三池平古墳出土遺物	H13.3.15	清水区横砂東町 埋蔵文化財センタ -	静岡市
		仁田館遺跡出土こけら経(867 点)	H17.11.21	清水区蒲原 県埋蔵文化財セン ター	静岡県
		堂ヶ谷廃寺・堂ヶ谷経塚出土遺物一括	H27.12.8	清水区蒲原 県埋蔵文化財セン ター	静岡県
		清水天王山遺跡出土遺物一括(2205 点)	H29.3.24	清水区横砂東町 埋蔵文化財センタ -	静岡市
		富士石遺跡出土石製装飾品	H29.12.8	清水区蒲原 県埋蔵文化財セン ター	静岡県
		中屋遺跡出土黒漆塗瓜文鞍 I 点、呪符木 簡 5 点、ヤダケ I 束	H31.3.26	清水区蒲原 県埋蔵文化財セン ター	静岡県
		梅ノ木沢遺跡出土斧型石器8点	RI.II.22	清水区蒲原 県埋蔵文化財セン ター	静岡県
		原分古墳出土遺物一括	R2.3.27	清水区蒲原 県埋蔵文化財セン ター	静岡県
形文化財	•	金剛石目塗 (蒔地)	H27.12.8	駿河区大坪町	(保持者) 鳥羽俊行
谷文化財	有形の民俗文 化財	もみ製茶関係器具類	\$39.10.6	島田市金谷富士見 町 ふじのくに茶の都 ミュージアム	静岡県茶手揉保存会
	無形の民俗文 化財	清沢の神楽	\$42.10.11	葵区清沢	清澤神楽保 存会

		平野の盆踊	S53.10.20	葵区平野	平野文化財
					保存会
		日向の七草祭	S55.11.28	葵区日向	静岡市日向
					自治会
		草薙神社龍勢花火	H15.3.24	清水区草薙	草薙神社龍
					勢保存会
		ヤマメ祭	H17.11.29	葵区井川 田代	諏訪神社氏
					子会
		由比のお太鼓祭	HI0.II.I7	清水区由比町屋原	豊積神社
					お太鼓祭り
					保存会
		手揉製茶技術	H22.12.3	葵区北番町	静岡県茶手
					揉保存会茶
					匠会
記念物	史跡	三池平古墳	H13.3.15	清水区原	静岡市
		神明山第1・4号古墳	H26.11.18	清水区袖師町	静岡市・
					神明神社
	名勝	木枯森	S29.1.30	葵区羽鳥	八幡神社
	天然記念物	家康手植のミカン	S25.3.14	葵区駿府城公園	静岡市
		石蔵院のお葉付イチョウ	S29.1.30	駿河区安居	石蔵院
		但沼神社のクス	S35.4.15	清水区但沼町	但沼神社
		チャ樹(やぶきた種母樹)	S38.4.30	駿河区谷田	静岡県
		黒俣の大イチョウ	S40.3.19		個人蔵
		慈悲尾のテンダイウヤク群落(7.46a)	S46.8.3		個人蔵
		小鹿神明社のクス	S52.3.18	駿河区小鹿	小鹿伊勢
					神明社
		大平のコウヤマキ	S60.11.29	清水区大平	林野庁東京
					営林局(管
					理団体)
					静岡市

(ウ) 市指定文化財(令和5年4月現在)

種別	区分	名称	指定年月日	所在地	所有者等
有形文化財	建造物				小梳神社(お
		新庄道雄の碑	S37.10.19	葵区紺屋町	ぐしじんじ
					ゃ)
		養珠院供養塔	S38.8.8	葵区沓谷二丁目	蓮永寺
		霊山寺本堂	S38.11.26	清水区大内	霊山寺
		輪蔵 一切経共	\$41.6.30	清水区庵原町	一乗寺
		海夕卿今乃び附尾妥尼(2抽)	S47.9.14		西奈学区連
		瀬名郷倉及び附属番屋(2棟)	347.9.14		合町内会
		清見寺山門	S49.12.10	清水区興津清見寺町	清見寺
		真珠院山門	S55.6.25	清水区梅ヶ谷	真珠院
		御穂神社本殿 附棟札2枚 狛犬一対	H8.2.23	清水区三保	御穂神社
		清見寺書院	S49.12.10	清水区興津清見寺町	清見寺
		田代の一間造りの民家	H11.6.21	葵区田代	個人蔵
		小島藩御殿建物	H13.1.10	清水区小島町	静岡市
		高源寺本堂	H14.10.11	清水区高橋二丁目	高源寺
		渡邊家土蔵(三階文庫)	H13.8.29	清水区蒲原	個人蔵
		旧エンバーソン住宅	H21.8.28	駿河区池田	静岡市
	美術工芸品(絵	宝永年間駿府鳥瞰図	S50.2.13	駿河区登呂3丁目	駿府博物館
	画)	駿州用宗城墟眺望	S59.7.17	駿河区丸子	誓願寺
		霊山寺本堂天井龍図及び天女図3枚	H6.11.29	清水区大内	霊山寺
		寶珠護国禅師頂相	H8.2.23	清水区小島町	龍津寺

	紙本墨画達磨像	H10.4.10	清水区小島町	龍津寺
	絹本著色仏涅槃図	H14.2.7	清水区村松	海長寺
	絹本著色亀年禅愉像	H23.3.23	葵区伝馬町	宝泰寺
	臨済寺本堂障壁画	H28.11.30	葵区大岩町	臨済寺
美術工芸品(彫	松野阿弥陀堂仏像群(8体附2片)	S39.3.18	葵区松野	松野町内会
刻)	木像菩薩坐像	S52.2.15	清水区村松	鉄舟寺
			葵区追手町	千勝浅間神
	木造狛犬 	S55.2.21	静岡市歴史博物館	社
	木造如意輪観音菩薩半跏像	H10.4.10	清水区蜂ヶ谷	善応寺
	木造阿弥陀如来坐像 附銘札 I 枚巻物 5 巻	H10.4.10	清水区江尻東	江浄寺
	木造毘沙門天立像	H10.4.10	清水区江尻町	法雲寺
	木造聖観音菩薩立像	H10.4.10	清水区江尻町	法雲寺
	木造釈迦如来坐像	H19.2.20	清水区興津清見寺町	清見寺
	木造大日如来坐像	H20.3.26	葵区有東木	東雲寺
	木造阿弥陀如来坐像	H21.4.30	清水区由比町屋原	最明寺
	木造地蔵菩薩坐像	H21.4.30	清水区由比町屋原	地持院
	木造阿弥陀如来坐像	H22.3.30	葵区建穂	建穂自治会
	木造伝大日如来坐像	H22.3.30	葵区建穂	建穂自治会
	木造伝阿弥陀如来坐像	H22.3.30	葵区建穂	建穂自治会
	木造阿弥陀如来立像	H23.3.23	葵区音羽町	清水寺
	木造毘沙門天立像	H24.8.28	葵区南沼上三丁目	大安寺
	木造千手観音立像	H26.3.30	葵区建穂	建穂自治会
	木造阿弥陀如来立像	H27.1.29	葵区新通	善然寺
	木造観音菩薩・勢至菩薩立像	H27.1.29	清水区元城町	宝久寺
	木造釈迦如来坐像	H27.1.29	駿河区池田	本覚寺
	木造徳川家康坐像	H30.7.18	葵区宮ヶ崎町	東雲神社
美術工芸品(工	掛仏 (15面)	S37.9.17	清水区柏尾	光福寺
芸品)	釣燈籠	S37.9.17	清水区草薙	草薙神社
	鰐口	S37.9.17	清水区草薙	草薙神社
	旅茶箪笥	S41.6.30	清水区今泉	楞厳院(りょ うごんいん
	須弥山儀(一括) 附世界大相図・天竺輿地図·閻浮提面阜日 宮図	\$41.6.30	清水区小島町	龍津寺
	猿面硯	S52.2.15	清水区興津清見寺町	清見寺
	梵字見台	S52.2.15	清水区興津清見寺町	清見寺
	横笛 附中村一氏添状	S52.2.15	清水区村松	鉄舟寺
	御羽織屋紙衣胴服 附関係資料 (I着附5種 I4点)	S57.3.19	駿河区宇津ノ谷	個人蔵(御 羽織屋)
	雲版	\$63.2.19	葵区羽鳥	洞慶院 (とうけいい ん)
	御簾(2張)(みす)	S63.11.21	清水区三保	御穂神社
	御簾	H5.7.23	清水区上清水町	上清水八幡 神社
	薙刀	H12.2.10	清水区庵原町	一乗寺
	唐草人物古代塗方盆	H2.12.21	葵区追手町 静岡市歴史博物館	静岡市
	鰐口	H20.3.26	葵区井川	中野観音堂
美術工芸品(書	興津本陣宿帳	S37.9.17	清水区興津本町	個人蔵
跡·典籍·古文	江尻本陣宿帳(8冊)	S38.7.18	清水区江尻町	個人蔵
書)	大雅堂揮毫(きごう)看板	S38.7.18	清水区興津清見寺町	個人蔵
	浦高札(船高札)	S38.7.18	葵区追手町 静岡市歴史博物館	静岡市

		1	ĺ	駿河区谷田 静岡県	l l
		日海記(にっかいき)	S38.7.18	」	海長寺
		久能寺縁起	S39.4.6	清水区村松	鉄舟寺
		歴代序略版木(6枚)	S41.6.30	清水区與津清見寺町	清見寺
		静岡市別符家文書(20通)	S41.8.11	駿河区大谷	西敬寺
		时间中的约多人音(20 远)	341.6.11	葵区追手町	四級寸
		増善寺文書(I2 通附 6 通)	S46.1.20	静岡市歴史博物館	増善寺
		棟札(21枚)	S52.2.15	清水区蜂ケ谷	蜂ヶ谷自治 会
		扁額「拈華山」 附書「拈華室」	H8.2.23	清水区小島町	龍津寺
		涅槃忌偈	H8.2.23	清水区小島町	龍津寺
		寺尾家文書	H18.3.10	葵区追手町静岡市歴 史博物館	静岡市
		満願寺文書	H18.3.10	駿河区小坂	安養寺
		草谷文書	S47.5.9	清水区蒲原	個人蔵
		志田文書	S47.5.9	清水区蒲原	個人蔵
		武田家朱印状、武田家伝馬朱印状、徳川			
		家諸役免許朱印状、徳川家伝馬掟朱印状 (4通 巻)	S47.5.9	清水区蒲原	個人蔵
		渡邊家文書	H17.8.18	清水区蒲原	個人蔵
		清見寺文書(35点)	H23.11.17	清水区興津清見寺町	清見寺
				葵区追手町	
		駿府皮革職人関係文書 	H28.2.5	静岡市歴史博物館	静岡市
	美術工芸品	異形石鈷	S37.9.17	清水区柏尾	個人蔵
	(考古資料)	神明山第4号古墳出土品(一括)	S44.7.1	清水区袖師町	静岡市
		伝駿河国分寺の塔心礎	H7.1.23	葵区沓谷	菩提樹院
		室ヶ谷古墳群出土品	H25.5.8	清水区横砂東町 埋蔵文化財センター	静岡市
	美術工芸品 (歴史資料)	教導石	S59.7.17	葵区追手町(県道歩 道内)	静岡市
		丸子の天和の高札(3 枚)	S60.9.17	駿河区北丸子二丁目	丸子戸斗ノ 谷 町内会
		白隠関連資料 (一括)	H8.2.23	清水区小島町	龍津寺
		駿府城二ノ丸東御門の青銅製鯱	H9.4.23	葵区駿府城公園(東 御門)	静岡市
		建穂寺関係歴史資料(3種6点)	HII.6.21	葵区新間	見性寺(けんしょうじ)
		西郷局関係資料	H15.2.21	葵区常磐町二丁目	宝台院
		清水寺・長谷寺・泉動院・国分寺関係資料	H15.2.21	葵区音羽町	清水寺
		旧久能寺歴史資料(一括)	H17.2.10	清水区村松	鉄舟寺
		瑞龍寺関係資料一括	R5.4.12	葵区井宮町	瑞龍寺
民俗文化財	有形の民俗文化 財	安西五丁目秋葉山常夜燈	S59.8.21	葵区安西五丁目	安西五丁目 町内会
		中町秋葉山常夜燈	S59.8.21	葵区馬場町	秋葉山中町 常夜燈保存 会
	無形の民俗文化 財	親王囃	S52.3.15	清水区但沼町	親王囃保存会
		静岡浅間神社の節分行事	S61.1.22	葵区宮ヶ崎町	静岡浅間神 社
		梅ヶ島の舞	S63.2.19	葵区梅ヶ島	梅ヶ島新田 神楽保存会
					_

		 有東木の神楽	H15.2.21	 葵区有東木	有東木芸能
	.hat		005.10.15	++ 11 m-	保存会
記念物	史跡	大応国師産湯の井	\$37.10.19	葵区井宮町	安南寺
		寿桂尼墓所	\$37.10.19	葵区沓谷三丁目	竜雲寺
		臨済寺今川家の墓所	\$37.10.19	葵区大岩町	臨済寺
		壮士の墓	S38.7.18	清水区築地町	静岡市
		列祖殿址の碑	S40.2.2	清水区岡町	岡町八幡神 社
		万霊塔碑	S41.6.30	清水区松井町	稲荷神社
		西郷・山岡会見の地	S42.7.12	葵区伝馬町	個人蔵
		天王山遺跡	S44.7.1	 - 清水区宮加三	静岡市
		(追加指定)	R3.4.9	/ / / / / / / / / / / / / / / / / / /	11 1의 나
		梶原景時ゆかりの地	S61.1.23	清水区大内	保蟹寺(ほかいじ)
		諏訪神社古墳(宮川古墳群4号墳)	H9.4.23	駿河区大谷	諏訪神社
		蒲原城址	S53.3.1	清水区蒲原	静岡市 外
	名勝	伊佐布北滝	S37.9.17	清水区伊佐布	安隠寺
		薩埵峠(さったとうげ)	S37.9.17	清水区興津東町	静岡市
		龍華寺庭園	\$37.9.17	清水区村松	能華寺
	天然記念物	大樟 (5本)	\$37.9.17	清水区岡町	八幡神社
	7 (7.11.2072),13	臥龍梅	\$37.9.17	清水区興津清見寺町	清見寺
		大樟	\$37.9.17	清水区草薙	草薙神社
		大公孫樹(おおいちょう)	\$37.9.17	清水区駒越	清水農協
		サボテン	S37.9.17	清水区村松	龍華寺
		<u> </u>	\$37.10.19	葵区水見色	個人蔵
		ちりめんかえで	\$38.7.18	清水区小島町	小島小学校
		大樟	\$40.2.2	清水区淡島町	淡島神社
		大樟	\$40.2.2	清水区上清水町	上清水八幡神社
		大樟	S44.7.1	清水区中之郷二丁目	熊野神社
		丸子谷津神社のクスノキ	\$47.2.15	駿河区丸子	谷津神社
		若宮八幡宮の大クス	\$50.12.18	葵区浅間町一丁目	八幡宮
		大クス	\$52.2.15	清水区承元寺町	八幡神社
		大クス	\$52.2.15	清水区村松原二丁目	稲荷神社
		タブ	S52.9.22	清水区草ヶ谷	大乗寺
		棚	S53.8.24	清水区梅ヶ谷	真珠院
		みかん	S53.8.24	清水区吉原	個人蔵
		大マキ	\$54.11.29	清水区岡町	岡町八幡神社
		大クス	S54.11.29	清水区桜橋町	稲荷神社
		夏みかん (2本)	S55.6.25	清水区梅ヶ谷	個人蔵
		河内の大石	S58.2.24	清水区河内(こう ち)	個人蔵
		誓願寺モリアオガエル繁殖地	S58.9.20	駿河区丸子	誓願寺
		椎	\$61.2.20	清水区宍原 (ししはら)	個人蔵
		杉	S63.1.21	清水区吉原	個人蔵
		郷島浅間神社の大クス	H7.1.23	葵区郷島	浅間神社
		由比入山摩利支天堂のタブノキ	H21.4.30	清水区由比入山	船場地区
		瀬名幕ヶ谷のヤマモモ	H24.8.28	葵区瀬名六丁目	個人蔵
		有東木白髭神社の大スギ群	R2.9.1	葵区有東木	白髭神社外

(工)登録文化財(国)(令和5年8月現在)

種別	区分	名称	認定年月日	所在地	所有者等
有形文化財	建造物	静岡市役所本館	H8.12.20	葵区追手町	静岡市
		明治宇津ノ谷隧道	H9.5.7	駿河区宇津ノ谷	静岡市
		真珠院鐘楼	H9.7.15	清水区梅ケ谷	真珠院
		旧マッケンジー住宅	H9.12.12	駿河区高松	静岡市
		静岡銀行本店(旧三十五銀行	H10.4.21	葵区呉服町一丁目	㈱静岡銀行
		本店)			
		伊藤家住宅主屋	H10.9.2	清水区上清水町	個人蔵
		大村家住宅	H11.2.17	葵区平野	個人蔵
		清水寺本堂	HII.6.7	葵区音羽町	清水寺
		清水港テルファー	H12.2.15	清水区新港町	静岡県
		清水寺鐘楼	H12.4.28	葵区音羽町	清水寺
		遍界山不去来庵本堂	H12.12.4	葵区両替町一丁目	個人蔵
		静岡県庁本館	H13.4.24	葵区追手町	静岡県
		清水寺庫裏(くり)	H13.11.20	葵区音羽町	清水寺
		旧五十嵐歯科医院	H12.9.26	清水区蒲原	静岡市
		志田家住宅主屋	H13.8.28	清水区蒲原	個人蔵
		旧和泉屋(お休み処)	H18.11.29	清水区蒲原	静岡市
		鈴木家住宅店舗兼主屋	H18.11.29	清水区蒲原	個人蔵
		吉田家住宅主屋	H18.11.29	清水区蒲原	個人蔵
		清水銀行由比支店本町特別出	H9.9.16	清水区由比	㈱清水銀行
		張所			
		東海道名主の館(小池家住	H10.10.26	清水区由比寺尾	静岡市
		宅)			
		静岡市立高等学校旧正門	H21.11.19	葵区千代田	静岡市
		鈴木家住宅主屋 一棟	H22.2.3	葵区中ノ郷	個人蔵
		鈴木家住宅米蔵 一棟	H22.2.3	葵区中ノ郷	個人蔵
		鈴木家住宅文蔵 一棟	H22.2.3	葵区中ノ郷	個人蔵
		鈴木家住宅味噌倉 一棟	H22.2.3	葵区中ノ郷	個人蔵
		鈴木家住宅渡り廊下 一棟	H22.2.3	葵区中ノ郷	個人蔵
		鈴木家住宅長屋門 一棟	H22.2.3	葵区中ノ郷	個人蔵
		鈴木家住宅中庭仕切り塀 一	H22.2.3	葵区中ノ郷	個人蔵
		基			
		鈴木家住宅石垣 一基	H22.2.3	葵区中ノ郷	個人蔵
		旧静岡英和女学院院長住宅主	H28.2.25	葵区西草深町	個人蔵
		屋			
		小長井家住宅店蔵	H28.2.25	葵区土太夫町	個人蔵
		小長井家住宅奥蔵	H28.2.25	葵区土太夫町	個人蔵
		次郎長生家(旧高木家住宅)	H30.3.27	清水区美濃輪町	静岡市
		旧岩邊家住宅主屋	R元.9.10	清水区蒲原新田	個人蔵
		旧岩邊家住宅離れ	R元.9.10	清水区蒲原新田	個人蔵
		旧岩邊家住宅土蔵	R元.9.10	清水区蒲原新田	個人蔵
		丁子屋店舗	R4.2.17	駿河区丸子7丁目	有限会社 丁子屋
		安倍川橋	R5.8.7	葵区弥勒~駿河区手越	静岡市

(2)世界遺産・日本遺産等

ア 世界文化遺産 富士山-信仰の対象と芸術の源泉(「平成 25 年(2013)」登録)

(ア) 概要

神聖で荘厳な姿の富士山は、山域から山頂への登拝及び山麓の霊地への巡礼を通じて、富士山を居処とする神仏の霊力を獲得し、自らの擬死再生を求めるという独特の性質を持つ富士山信仰を育み、また、海外の芸術家にも影響を与えた浮世絵など、多くの芸術作品に取り上げられてきた。この信仰の対象・芸術の源泉である富士山は、世界でも高く評価され、第37回ユネスコ世界遺産委員会において世界遺産(文化遺産)に登録された。

古より信仰と数多くの芸術作品を生み出した世界文化遺産富士山の構成資産には、 その山体だけでなく、周囲にある神社や登山道、風穴、溶岩樹型、湖沼などがある。 富士山の価値を構成する資産として 25 箇所が登録されている。

(イ) 静岡市内の構成資産: 国指定名勝三保松原

三保松原は『芸術の源泉』としての富士山の顕著な普遍的価値を証明する上で不可欠の 構成資産である。

三保松原は、富士山頂の南西約 45 kmに位置し、駿河湾に臨んで豊かな松林に覆われた砂嘴である。砂嘴の総長は約7 kmに及び、その上に約5万本のクロマツが約 4.5 kmにわたって叢生している。富士山との関わりがあるとされる天女と地元の漁師との交流を描いた「羽衣伝説」の舞台として著名であり、特に「羽衣の松」の付近は海浜の松原越しに富士山の形姿を望む風致景観の優秀な場所として知られている。



イ 日本遺産 日本初「旅ブーム」を起こした弥次さん喜多さん、駿州の旅〜滑稽本と浮世 絵が描く東海道旅のガイドブック(道中記)〜(「令和2年(2020)」認定)

(ア) ストーリーの概要

日本初の「旅の大ブーム」の火付け役は、十返舎一九の滑稽本「東海道 中膝栗毛」であり、歌川広重の描いた「東海道五十三次」の浮世絵であった。

「滑稽さ」、「怖いもの見たさ」、そして美味しい「名物」に引き寄せられるのは人の世の常。

日本の「ガイドブックの原典」とも言われる「浮世絵」、「滑稽本」に惹かれ、自由な移動が制限される江戸時代でも人々は物見遊山の旅へいそいそと出かけて行った。

弥次さん喜多さんの「旅の楽しさ」は今も、駿州で体感できる。

富士山を仰ぎ見ながら江戸時代の「ガイドブック(道中記)」を片手に「東海道五十三次」の「真ん中」、駿州を巡る旅に出よう。

(イ) 認定自治体

静岡市、藤枝市

(ウ)静岡市内の構成文化財

	名称	種別	指定等
ı	蒲原宿	遺跡	未指定
2	旧和泉屋(お休 み処)	建造物	国登録
3	志田家住宅主屋	建造物	国登録
4	由比宿	遺跡	未指定
5	静岡市東海道広 重美術館所蔵の 浮世絵	美術工芸品	未指定
6	間の宿西倉沢	遺跡	未指定
7	東海道名主の館 (小池住宅)	建造物	国登録
8	薩埵峠	名勝地	市指定
9	清見寺	遺跡 名勝地	国指定
10	三保松原	名勝地	国指定
11	江尻宿名物 追分羊羹	無形文化財	未指定
12	府中宿(駿府九 十六ヶ町)	遺跡	未指定

	名称	種別	指定等
13	府中宿名物 安倍川餅	無形文化 財	未指定
14	丸子宿名物 とろろ汁	無形文化 財	未指定
15	丁子屋	建造物	国登録
16	慶龍寺	建造物	未指定
17	間の宿宇津ノ谷	遺跡	未指定
18	十団子	無形文化 財	未指定
19	東海道宇津ノ谷 峠越	遺跡	国指定
20	明治宇津ノ谷隧 道	建造物	国登録
21	蔦の細道	遺跡	未指定 (藤枝市 指定)
22	由比宿名物 たまご餅	無形文化 財	未指定
23	木屋江戸資料館 (渡邊家土蔵) と所蔵の古文書	美術工芸品	市指定
24	駿河国総社 静岡浅間神社	建造物	国指定

ウ ユネスコ世界の記憶 朝鮮通信使に関する記録(「平成29年(2017)登録)

日本と韓国で共同申請していた朝鮮通信使に関する記録が、ユネスコ「世界の記憶」に登録されている。静岡市では、清見寺の所有する朝鮮通信使関係資料 48 点が、その中に含まれている。

朝鮮通信使に関する記録は 1607 年~1811 年までの間に江戸幕府の招請により朝鮮国から日本国へ派遣された外交使節団に関する資料で、両国の歴史的経験に裏付けられた平和的・知的遺産である。日韓通じて最多点数である 48 点の朝鮮通信使詩書が登録された清見寺の資料は、詩文の唱和を通じて文化交流を行い、両国の友好関係の構築、文化の発展に朝鮮通信使が寄与したことを証明する資料である。

エ ユネスコ無形文化遺産 風流踊(「令和4年(2022)」登録)

華やかな、人目を惹く、という「風流」の精神を体現し、衣裳や持ちものに趣向をこらして、歌や、笛・太鼓・鉦などの囃子に合わせて踊る民俗芸能。除災や死者供養、豊作祈願、雨乞いなど、安寧な暮らしを願う人々の祈りが込められている。それぞれの地域の歴史と風土を反映し、多彩な姿で今日まで続く風流踊は、地域の活力の源として大きな役割を果たしている。

静岡市に伝わる「有東木の盆踊」は、令和4年(2022) II 月 30 日に「風流踊」の一つとしてユネスコ無形文化遺産代表一覧表に記載されている。

有東木の盆踊 国指定重要無形 文化財

葵区有東木地区に伝承される8月15日に行われる盆踊。男踊り、女踊りに分かれ、飾り灯籠を頭上にかかげ踊る等の特徴があり、中世から近世初期に流行した歌と踊りを伝承する古風な踊りである。

オ 世界農業遺産静岡水わさびの伝統栽培

静岡市葵区の有東木には、「ワサビ山」と呼ばれる一大ワサビ田がある。江戸時代初期に ワサビ山付近に自生していたワサビを移植し栽培を始めたのが、日本のわさび栽培の発祥と されている。地場産品販売施設「うつろぎ」の前には「わさび栽培発祥の地」の碑がある。 「うつろぎ」では、特産の生わさび、わさび漬けや手打ちそばを味わうことができる。その ほか、わさび漬けや手打ちそばの体験教室も開催している。

平成30年(2018)3月に、静岡水わさびの伝統栽培が世界農業遺産に認定され、有東 木地区が水わさび伝統栽培発祥の地として世界に認められた。

カ しずおか遺産

豊かな自然に恵まれ、様々な歴史的出来事が繰り広げられた静岡県は、歴史文化資源の宝庫である。県内の魅力的な歴史文化資源を県内外の多くの人に知ってもらい、現地を訪れてもらうために令和4年度に「日本遺産」の県内版として「しずおか遺産」認定制度を立ち上げている。

静岡市は、令和5年度時点で2つのストーリーに係る構成資産を有している。

- (ア) 日本平が紡ぐ悠久の歴史文化回廊
- (イ) 文武に秀でた今川一族~伝統を守る山西の地~

(3) 未指定文化財の件数

これまでの調査等に基づく未指定文化財の把握件数

文化財の種別			合計
有形	有形文化財		525
	建造	物	152
		絵 画	73
		彫 刻	209
	美	工芸品	38
	美術工芸品	書跡・典籍	13
	云品	古文書	10
		考古資料	11
		歴史資料	19
無形	/文化	材	54
民化	文化則	材	350
	有形の)民俗文化財	75
	無形の) 民俗文化財	275
記念	念物		505
	遺	跡	176
	名	勝 地	13
-	動物·	植物・地質鉱物	316
文化	文化的景観		3
伝統的建造物群			5
埋蔵文化財		材	523
		合 計	1,965

(4) 文化財の特徴

静岡市内の文化財について、類型毎に指定等文化財を中心に、未指定の文化財を交えながらその 特徴を示す。

静岡市内の文化財の特徴は、主に指定等の文化財について示し、未指定のものについては、 静岡市の文化財の特徴を良く示すものについて示す。

- ※(国宝)→国宝、(国特)→国指定特別史跡
 - (国)→国指定重要文化財、国指定史跡、国指定名勝、国指定、天然記念物、
 - (国登録) →国登録有形文化財
 - (記録) →記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財
 - (県)→県指定文化財、(市)→市指定文化財

ア 有形文化財

(ア) 建造物

本市の建造物は、川沿いや山間の寺社、江戸時代の徳川氏との関わりを持つ寺社、街道沿いの藩や宿場に関わるもの、近代化に伴う建築物の存在により特徴づけられる。

(市内最古の建造物霊山寺仁王門)

霊山寺は、行基がクスの大木から 7 体の観音菩薩を刻みだし、静岡清水周辺の7つの寺に安置したといわれる駿河七観音の寺の一つである。霊山寺仁王門(国)は、室町時代後期永正 13 年(1516 年)建立の寄棟造・茅葺屋根の門であり、標高 150mの山の中腹から清水平野を見守ってきた。延寿院不動堂(県)は霊山寺から清水区追分に移築されたものである。



霊山寺仁王門

(県内唯一の国宝建造物と社殿群)

久能山東照宮本殿・石の間・拝殿(国宝)は、本殿と拝殿を低い石の間でつなぐ権現造という形式をもつ社殿で、総漆塗で仕上げ、彫刻、錺金具を用いて荘厳化を図る。全国に創建された東照宮の原型である。その他、13棟の久能山東照宮社殿(国)が現存する。

久能山東照宮 本殿・石の間・拝殿

(総漆塗と彫刻が特徴的な静岡浅間神社の社殿群)

神部神社・浅間神社・大歳御祖神社の三社は総称して静岡浅間神社と呼ばれ、駿河国の総社である。現在に残る総漆塗の 26 棟の社殿群(国) は、2度の火災を経て、文化元年(1804)から幕末に至る約60年をかけて駿府の職人が主体とのなり再建された。文化度の造営で彫刻を担当したのは信州諏訪の立川流一門ないである。当時の駿府城代松平信濃守忠明に与えられた知行地が信濃国更科郡にあった関係から、信濃で名声を博していた立川流一門が造営のための彫刻師として迎えられており、約40年間の大事業に携わった。また、駿府の彫刻師の手掛けた彫刻も多く残り、静岡市の政治と宗教を考える上で重要な建造物である。



神部神社浅間神社 拝殿

(徳川家康再建の臨済寺本堂)

臨済寺は今川氏の菩提寺である。臨済寺本堂附玄関 (国)は、江戸時代前期の入母屋造、こけら葺の建物である。天正 15 年(1587)に家康が再建したとの伝承があり、今川氏のもとで開山し、徳川氏が再興した。



臨済寺本堂

(近世初期の建造物)

清水寺観音堂(県)は、慶長7年(1602)徳川家康造営と伝わり、木造平屋建て、寄棟造、桟瓦葺の建物で、屋根の途中で一段下げる錣葺が特徴である。3代将軍徳川家光は寛永 II 年(1634)、駿府城代に命じて、観音堂を修復したとも伝わるなど、徳川家との関係性が非常に深い寺院である。

延寿院不動堂(県)は、寛文8年(1668)に霊山寺より移築されたと伝わる、室町時代 末期から江戸時代初期の形態を保つ宝形造の建物である。

(街道沿いの歴史文化を今に残す文化財)

静岡市には東西に東海道、南北に身延道等の街道が通っている。特に蒲原地区は、江戸時代に旅籠屋であった旧和泉屋(国登録)、醤油を製造しながらも商家とし営をわれていた志田家住宅主屋(国登録)やお菓子屋を営んでいた吉田家住宅(国登録)、江戸時代に東海道宿々をでいた吉田家住宅(国登録)、江戸時代に東海道宿々組合取締役(現在の三島市から静岡市の範囲)を務めた渡邊家の記録を所蔵する渡邊家土蔵(市)、また、同じく浦原地区の街道沿いには、大正期以前に町屋建築がら東西でられ、大正3年(1914)に、当時の当主五十嵐、低時の当主五十嵐、低時科医院を開業するにあたり、町家を洋風に改築した



旧和泉屋

旧五十嵐歯科医院(国登録)が現在まで伝わっている。ほかにも、江戸時代の税金対策で、 間口の狭い、街道沿いの生活を伝える建造物が現在まで伝わっていることが特徴である。

身延道付近には、小島藩の書院として使われていた小島藩御殿建物(市)が現存する。

(全国的にも珍しい現存する郷倉と附属番屋)

瀬名郷倉及び附属番屋(市)は、江戸時代中期以後、天災地変による凶作に対する用意として備荒貯殻の制度が普及したときに作られた。明治中期以後は貯殻が廃止されたが昭和年間の東北凶作時には復活した。郷倉と附属番屋が揃って現存する事例は珍しい。

(日本初の鉄筋コンクリート造灯台)

清水灯台(国)は、明治 45 年(1912)建築の洋式灯台で、清水港の修築工事と一連で計画、整備された。我が国初の鉄筋コンクリート造の灯台であり、現存最古級の鉄筋コンクリート造建造物としても貴重である。



清水灯台

(静岡市の近代化を示す建造物)

清水港テルファー(国登録)は、国鉄清水港線清水港駅に建設された鉄道施設で木材積込用の連続クレーンである。清水港の近代化において、当地が水運と陸運間の交通結節点であったことを物語っている。安倍川橋(国登録)は、大正に入って自動車の普及が著しくなったため、トラス橋に架け替えられ、令和5年度に建設から100年の節目を迎えた、明治宇津ノ谷隧道(国登録)は明治37年(1904)に完成したものである。完成から90年以上たった現在も、内側の赤煉瓦が文明開化の雰囲気をそのまま残している。静岡市役所本館(国登録)、静岡県庁本館(国登録)、旧三十五銀行本店(国登録)(現静岡



安倍川橋

銀行本店営業部)はいずれも中村與資平の設計である。鉄筋コンクリート造の建造物は、大火や空襲を免れ、静岡市のシンボルとして現在も現役施設である。鉄筋コンクリート造の寺院建物として、光福寺本堂(県)、清水寺本堂(国登録)がある。

(市内に残る外国人住宅)

旧エンバーソン住宅(市)は静岡市内に現存する数少ない明治期の洋風建築であり、当時は葵区西草深にカナダからキリスト教伝道のために日本に派遣された宣教師のロバート・エンバーソンの自宅として建てられた。ペイントされた下見板張の外壁やポーチとバルコニーのアーチなどの洋風仕様と桟瓦葺きの和風仕様とが融合した明治時代の洋風建築独特の雰囲気である。

旧マッケンジー住宅(国登録)は、昭和 15 年に竣工した茶の貿易商、ダンカン・J・マッケンジー、エミリー・M・マッケンジー夫妻の旧宅である。W.M.ヴォーリズが設計したスパニッシュスタイル晩期の住宅である。



旧マッケンジー住宅

上記以外にも市内には、茶の貿易商や近代化に伴って来静した外国人の住宅が残されている。

(イ)美術工芸品(絵画)

本市に所在する絵画は、臨済宗の僧に関わる絵画をはじめ、本市の自然 や人々が作り出した景観を描いたものにより特徴づけられる。

(臨済寺に伝わる絵画)

葵区の臨済寺は、開山である大体和尚を画いた頂相の「絹はままたまた」 たいきゅうおしょうがぞう 大体和尚画像」(県)のほか、千鳥図屏風(一双)(県)、臨済寺本堂 障壁画(市)などを所蔵している。



大休宗休和尚画像

(駿府の景色を描いた絵画)

江戸時代の東海道の風景を屏風にした、東海道図屏風(県) や、1700年代初期の駿府城下町の様子が描かれた宝永年間 まんぶちょうかんず 駿府鳥瞰図(市)、用宗城墟の眺望を描いた駿州用宗城墟 眺望(市)がある。

また、駿府城下町を描いた絵図が複数残されている。



東海道図屏風

(朝鮮通信使との交流)

清水区の清見寺には、明和元年(1764)の朝鮮通信使に随 行した画員の金有声が、清見寺住職の求めに応じて描き贈った しばんぼくがたんさいさんすいかちょうずおしえばりびょうぶ 紙本墨画淡彩山水花鳥図押絵貼屏風(県)が所蔵されている。



淡彩山水花鳥図押絵貼屏風

(白隠の描いた絵画)

清水区の禅叢寺には、東海道原宿出身で、江戸時代前期の はいんぜん (1685~1768) の画いた紙本淡彩蛤蜊観音像

(県)、紙本基画東照大権現像(県)、龍津寺(清水区小島)には、同じく白隠の画いた には、がたるまでう 紙本墨画達磨像(市)が残されている。

(慶喜隠居の地での創作)

駿河区の久能山東照宮は、江戸幕府 15 代将軍であった徳川慶喜が静岡市で暮らした明治 20~30 年(1887~1897)頃に油彩で描いた、日本風景(県)、西洋風景(県)を所有する。

(ウ)美術工芸品(彫刻)

本市の彫刻は、奈良時代創建の伝承を持つ建穂寺、久能寺のほか、山間地域の古寺に伝来する仏像により特徴づけられる。

(久能寺伝来の彫刻)



木造文殊菩薩坐像

(中山間地に伝わる仏像群)

平安時代に造像された仏像群が井川の中野観音堂、藁科川 流域の坂ノ上薬師堂などの山間部のお堂に伝来していること が特徴である。中野観音堂には木造千手観音像(県)を含め

5躯が伝わっており、いずれも平安時代中期のものと考えられる。坂ノ上観音堂には、平安時代前期の作と考えられる 15軀 の仏像が伝わっており、静岡市内における最も古い時代の仏像彫刻に属する

(本堂と仁王門に安置される霊山寺の仏像群)

霊山寺仁王門に安置されている木造金剛力士立像 2 軀(県)は平安時代から鎌倉時代の彫刻で、標高 150m から清水平野を見守ってきた。同じく、霊山寺本堂の本尊、木造せんじかんのよりゅうぞう つけたりもくぞうにじゅうはちぶしゅうぞう 千手観音立像 付 木造二十八部衆像及び木造風神雷神像(県)も平安時代から室町時代初期の作と考えられる。仁王門と本堂にそれぞれ安置されている仏像が様式上類似していることから、関連をもって作成されたことが伺われる。

(地元住民の手で守られてきた仏像群)

建穂観音堂には指定・未指定を問わず64躯の仏像と神像が安置されている。由来は明らかでないが、建穂寺に平安時代から江戸時代の長きにわたり多くの仏像が集められてきた。明治初期の神仏分離によって廃寺になり、明治2年に堂舎が焼失したが、難を逃れた仏像及び神像が地元住民の手で守られている。

(静岡市を代表する仏像)

葵区常盤町の宝台院に伝わる木造阿弥陀如来立像(国)は、寺伝によると、徳川家康が三河国の徳川家菩提寺である大樹寺の登誉上人より伝授され、駿府城内に安置されていたが、家康の没後、2代将軍徳川秀忠により駿府の宝台院に寄進されたものと伝わっている。本像は鎌倉時代の造像と考えられる。葵区伝馬町の新光明寺に伝わる木造阿弥陀如来立像(国)は、鎌倉時代に活動した、東大寺南大門に現存する国宝金剛力士立像を仏師運慶と共同で制作したことで著名な仏師快慶の周辺で制作されたものと考えられている。



新光明寺蔵 木造阿弥陀如来立像

(工)美術工芸品(工芸品)

本市の工芸品を代表するのは、久能山東照宮や静岡浅間神社に所蔵される刀や具足や久能寺に伝来した法具などである。

(久能寺伝来の工芸品)

鉄舟寺所有(東京国立博物館寄託)の 錫 杖 (国) は、旧久能寺のものであり、柄の頭部分に康治元年 (1142) の銘がある。



錫杖

(鰐口)

市内の寺社には鎌倉時代から戦国時代に鋳造された鰐口が 複数ある。最も古いものは、正安四年(1302)の銘を持つ一渓寺所蔵の鰐口(県)である。 中野観音堂には応永31年(1424)の銘を持つ鰐口(市)がある。ほかにも天正年間 (1573~1592)までの銘を持つ鰐口(県)3点が現存する。

(戦国武将所縁の工芸品)

久能山東照宮所蔵の工芸品は、太刀銘真恒(国宝)をはじめとし、革柄蝋色鞘刀無銘(伝三池光世作)(国)、参えためぬりぐそく できくだんぬりぐそく (国)、伊予札黒糸威銅丸具足(国)等、多数の刀剣、甲冑が揃っている。静岡浅間神社の紅糸威腹巻(県)は、家康が 14歳の頃に今川義元から贈られたとされる鎧である。

静岡浅間神社所蔵の太刀銘長船住人長光 附糸巻太刀拵(国)は、秀吉から小牧長久手の戦いの和睦の記として贈られたとの伝承があり、後に大歳御祖神社に奉納されたものである。 龍津寺の須弥山儀(市)は、文政7年(1824)に製作されたものであり、元は駿府城にあったものと言われている。個人蔵御羽織屋紙衣胴服 附関係資料(市)は、小田原攻めの際に豊臣秀吉から贈られた資料で、附



金溜塗具足

指定として、拝観した将軍、大名等が残した拝観者名簿や茶碗等がある。

天正 17年(1589) に臨済寺方丈建立を祝い神 原康政が臨済寺第四世鉄山和尚に贈ったと伝わる鉄山釜(県)が臨済寺に遺されているほか、清見寺の梵鐘(県)は、正和3年(1314)の銘が残り、天正 18年(1590) 豊臣秀吉が小田原征伐の際、陣鐘として伊豆韮山へ持ち込んだ借用文書も残っている。

(オ)美術工芸品(書跡・典籍・古文書)

書跡で最も注目されるのは、法華経(久能寺経)である。 そのほか、久能山東照宮、清見寺、静岡浅間神社にも古文書 類が伝来する。また、旧家に伝わる文書は、本市における近 世以降の人々の生活を知ることができる。



法華経 (久能寺経)

(法華経 [久能寺経])

鉄舟寺が所有している、法華経(久能寺経)(国宝)は、平 安時代に鳥羽上皇の皇后である待賢門院璋子を中心とした、30人の貴族が、法華経二十八 品と、開経、結経の二品を合わせた三十品を一品ずつ書写して功徳を積んだものである。

広島県の厳島神社に伝わる『平家納経』等とともに荘厳華麗な法華経として我が国を代表するものである。久能寺に伝来したため、久能寺経と呼ばれているが、詳細な伝来の経緯については不明な部分が多い。

その他、市内の4寺に古代の経典が伝わっており、いずれも県指定となっている。

(寺院に伝来する古文書)

臨済寺や清見寺に残された書跡は戦国時代から江戸時代にかけての当時の和尚の記録や、 印刷技術を伝えるものとして貴重なものが多くある。歴代序略版木(市)は雪斎が刊行の 担当をしており、室町期の駿河国における臨済禅の広がりを表すものである。

静岡市内に伝来する古文書の多くは、今川氏や武田氏、徳川氏などの戦国武将に関わる古文書類である。

(旧家に伝来する古文書)

静岡市内に残る旧家には、古くからの生活を示す古文書類が残されている。渡邊家文書(市)は、3,002点の近世古文書。「御用留」全36冊をはじめとし、東海道の蒲宿内の全容が分かる資料である。



渡邊家文書

(カ)美術工芸品(考古資料)

遺跡からの様々な出土品のなかでも、我が国の考古学史上でも特に重要な登呂遺跡の出土 品は、本市を代表する考古資料である。

(形式が標識となった清水天王山遺跡出土遺物)

天王山遺跡出土遺物一括(県)は、 巴弧線紋等をもつ 縄文時代後期から晩期にかけての土器群である。土器群は 「清水天王山式」と呼ばれ、静岡県東部から山梨県にかけ ての標式的な資料となっている。



清水天王山遺跡出土遺物

(日本考古学のはじまりを示す遺物)

登呂遺跡出土品(国)は考古資料で唯一の重要文化財である。登呂遺跡は弥生時代後期の集落跡と水田跡を中心とした遺跡で、昭和18年(1943)に発見された。

登呂遺跡出土品は壺形土器や台付甕形土器を中心とした各種土器や、田下駄・鼠返しを中心とした農耕資料・ 建築部材などの木製品が状態良く残っている。弥生時代 研究の端緒となった出土品である。



登呂遺跡出土品

(古墳文化の様相を伝える遺物)

静岡・清水平野に築かれた各古墳出土の副葬品である三池 だいらこぶんしゅつといぶつ 平 古墳出土遺物(県)、半兵衛奥古墳出土壺鐙一対附馬具一括 (県)、神明山古墳第 4 号古墳出土品 (市)、室ヶ谷古墳群 出土品(市)は、古墳文化の様相を伝える貴重な遺物である。

(キ)美術工芸品(歴史資料)

古くからある寺院に伝来し、それらを総合的に見ていくことで、それぞれの寺院の歴史を通して本市の歴史を知ることができる。



神明山 4号古墳出土品

(清水寺に集められた資料群)

清水寺・長谷寺・泉動院・国分寺関係資料(市)は、別の成り立ちを持つ四つの寺院に 伝わる資料である。近世に清水寺の住職が各寺の住職を兼任した。そのため、清水寺に集 められた資料群には4ヵ寺の由緒と変遷、中世から近世にかけての国分寺や真言宗門中寺 院の歴史的役割を示されている。

(建穂寺の歴史を物語る資料)

建穂寺関係歴史資料(市)は、寺史を編年体で示した、建穂寺編年上下2冊、今川氏、 武田氏と建穂寺との関わりを示す古文書及び縁起からなり、同寺の草創の伝承や由緒、戦 国時代の歴史等を明らかにするものである。

(久能寺の歴史を物語る資料)

旧久能寺歴史資料(市)は、中世から近世までの、今川氏、武田氏との関わりを示す古文書類を中心に、2種23点が所在する。同寺の草創の伝承や由緒、戦国時代の歴史等を明らかにするものである。

(白隠に関係する資料)

白隠関係資料(市)は小島の龍津寺に伝わる資料で、小島藩3代の松平昌信が師事した 白隠に関連するものである。

(徳川家康関係資料)

久能山東照宮博物館 所 蔵 の 徳川家康関係資料 73 種一括 (国)は、久能山東照宮に奉納品として伝来した徳川家康関係の文書及び遺品類である。洋時計は、天正9年(1581)にスペインのマドリッドでフィリップ2世の御用時計師であったハンスの製作と考えられるもので、我が国に現存する最古の洋時計の一つである。

そのほか、徳川家康と関わりの深いものには、西郷局 (大き) はいしゅう (大き) にのまるひがしごもん せいどうせいしゃちほご 関係資料(市) 駿府城ニノ丸東御門の青銅製 鯱 (市)がある。



重要文化財 洋時計

(朝鮮通信使関係資料)

清見寺朝鮮通信使関係資料69点(県)は、江戸時代に東海道を往来した朝鮮通信使の休泊場所となった清見寺に伝わる資料群であり、詩文や扁額類に大別される。



朝鮮通信使関係資料

イ 無形文化財

指定となっているのは I 件のみであるが、江戸時代の久能山東照宮や静岡浅間神社の造営 に由来する様々な工芸技術が残っていることが特徴である。

(ものづくりの伝統)

金剛石昌塗 (蒔地) (県) は、大正 13年 (1924) に静岡市の鳥羽清一氏によって考案された漆塗である。漆器の下地に川砂を用いる技法で、耐水、耐熱、耐酸性を向上させる効果があり、制作には以下 4点の特徴をしめしている。 1点目としては、素地には乾漆及び木製品を用いること。 2点目としては、下地は砂を用いた蒔地で、地塗、砂蒔地、蒔地固め漆塗、研磨を複数回繰り返すことにより、堅牢に仕上げること。 3点目としては、塗り

工程は、乾燥を挟んで複数回繰返し、天然の漆液を用いること。 4 点目 としては、下地工程から研磨工程までの一連の作業を同一工房内で行う ことが挙げられており、他の漆器産地に類例のない、静岡県特有のものである。

その他、市内には、未指定ながら工芸技術が複数ある。これらの技術は、久能山東照宮や静岡浅間神社の造営に際し全国から集まった職人達が駿府に住み着き技術を教えたため盛んになったといわれている。駿河竹千筋細工、駿河雛具、駿河雛人形、駿河漆器、駿河蒔絵、駿河塗下駄、駿河張下駄、駿河和染、駿河指物、駿河挽物、賤機焼、井川メンパの製作技術などが挙げられる。



駿河和染(お茶染め)

ウ 民俗文化財

(ア) 有形の民俗文化財

指定されているものは少ないが、茶の生産に関わるものは本市の特徴をよく表す。未指定ではあるが、山間地の農林業や生産、生業に関わるものも残されている。

(静岡市の特産品 茶に係る文化財)

静岡県茶手揉保存会が所有する手もみ製茶関係器具類(県)は、県茶手揉保存会が収集した 20 件 39 点に及ぶ。その内容は茶葉の蒸器、冷し台、蒸籠、湯通し器具類、焙炉、板コクリなどのほか、茶生葉の摘み取りから手揉製茶の一貫作業を全盛当時そのままの姿を克明に収録した映画フィルムもある。

(秋葉信仰をあらわす常夜燈)

安西五丁目秋葉山常夜燈(市)、中町秋葉山常夜燈(市)の2基は、近世の代表的民間宗教組織である秋葉講が信仰の証として設けたもので、江戸時代の生活文化の一端を伺わせるものである。



中町秋葉山常夜燈

(静岡市に伝わる鍬)

静岡・清水平野に伝わる鍬は、柄の部分にカナグリと呼ばれる曲がりを付けた形状のものが分布しており、静岡カナグリと呼ばれている。市内山間地に伝わる鍬の柄にも曲がりがついているのが特徴である。柄に曲がりがついている理由は、地面に鍬を打ち込むときに、鍬が抜けないようにするため。



特徴的な形の鍬

(イ)無形の民俗文化財

山間地に伝わる民俗芸能が本市を特徴づける。盆踊はユネスコ無形文化遺産にもなっておりその代表例である。盆踊や神楽は安倍川沿いや藁科川沿いで多くが伝承されており、西隣の川根本町、島田市、藤枝市、焼津市を流れる大井川、瀬戸川流域の山間地に伝わる芸能と共通性をもつ。

(オクシズで伝承される民俗文化財)

静岡市では、市内の中山間地「奥静岡」をオクシズという愛 称で呼んでいる。

有東木の盆踊(国)は、安倍川流域の葵区有東木地区に伝承される、8月 14 日・15 日に行われる盆踊りである。中世から近世初期に流行した歌と踊りを伝承する古風な踊りで、男踊り、女踊りに分かれ、飾り灯篭を頭上に掲げる踊り等の特徴がある。盆に先祖を迎えて、ともに踊りあかし、最後に先祖を送り出す、という盆踊りの本来的な意義を今に伝えている。また、全国の「風流踊」41 件の内の1つとして、ユネスコの無形文化遺産の代表リストに記載されている。



有東木の盆踊

葵区の中山間地の各地には盆踊や神楽が伝承されており、盆踊りでは平野の盆踊り(県)、神楽では清沢の神楽(県)や梅ヶ島の舞(市)、有東木の神楽(市)などがあり、これらは安倍川、藁科川、大井川、藤枝市、焼津市を流れる瀬戸川流域に広く分布する同系統の神楽である。 市内では、藁科川上流の日向で田遊びが伝承されてきた。日向の田遊びは、福田寺観音堂の祭り、七草祭で演じられる。その歴史は古く、寛永 21 年(1644)に記された詩章本も残されている。「浜行」「若魚」と称する道化が登場し、海の幸、山の幸を人々にもたらす。



清沢の神楽

(平野部で伝承される民俗文化財)

静岡市の平野部では、中心市街地にある静岡浅間神社で静岡浅間神社廿日会祭の稚児舞楽 (国)、静岡浅間神社の節分行事(市)が伝承されているほか、草薙地区では草薙神社 龍勢花火(県)が伝承されている。

(臨海部で伝承される民俗文化財)

臨海部の由比地域では、若者の通過儀礼で太鼓を御神体とする由比のお太鼓祭(県)が伝承されているほか、 天王船と呼ばれる大きな麦藁船を担いで地区内を練り歩き、由比川の河口から海に流し出す由比北田の天王船流し(記録)が行われている。

(静岡市の食文化)

井川(葵区)では古くから焼畑による農業が盛んである。井川で「ハタケ」という言葉の意味は焼畑を指す。井川の焼畑は3~4年間作物を栽培した後、地力が回復するまで20~30年待ってからまた作物を栽培する植生回復まで見込んだ循環的な方法で行われた。そこでは、アワ、ヒエ、キビなどが栽培される。また、井川の土地で古くから作られてきたキュウリやナス、ニンニク、ジャガイモ、サトイモなどの在来作物は、ザイライ、ジノモノと呼ばれ、新品種と区別されている

ほかにも、静岡おでん、サクラエビの沖あがりのような、特徴ある食文化が挙げられる。

静岡おでんは、イワシのすり身で作られた黒はんペ



由比北田の天王船流し



在来作物

んが入っているのが特徴で、市内に多くの店がある。サクラエビは、水深の深い駿河湾でし か採れないエビで、由比で明治 27 年(1894)から漁が続いている。沖あがりは、生のサ クラエビを豆腐やねぎと一緒にすき焼き風の味付けで煮込んだもので、沖から上がったサクラエビ漁の漁師が、漁の 反省をしながら酒の肴に食べた鍋料理である。

静岡市の郷土料理としてとろろ汁がある。とろろ汁は自然薯をすりおろし、出汁に割りみそを用いて味付けた、麦飯にかけて食べる料理である。その歴史は古く、東海道の丸子宿の名物で、旅人に人気があったと言われている。十返舎一九の小説「東海道中膝栗毛」、歌川広重の浮世絵「東海道五十三次」、松尾芭蕉の俳句「梅若菜 丸子の宿の とろろ汁」にも登場する。

工 記念物

(ア)遺跡

静岡市を代表する遺跡は、登呂遺跡(国特)をはじめと して、弥生時代以降の豊かな静岡市の郷土史を反映するよ



カゴいっぱいのサクラエビ

うな地域、時代を象徴する史跡が目立つ。このほか駿河国の中心であったことに関わる遺跡 等の存在も本市の特徴である。

(登呂遺跡)

登呂遺跡は、水田が広がる弥生時代集落の姿が全国で初めて明らかになった遺跡である。 また、戦後に登呂遺跡で行われた多分野の研究者が参加した学際的な発掘調査は、日本考 古学の発展に大きな影響をもたらし、学史的にも重要である。平成の再発掘調査によって、 集落域には祭殿を備えていたことが分かり、地域の中で中心的な場所であったと推定でき るようになった。出土品は、重要文化財に指定されている。

(賤機山古墳)

静岡浅間神社境内の北西、賤機丘陵の南端にある賤 機山古墳(国)は、静岡県内で最も大きな横穴式石室 と近畿地方に見られる家形石棺のほか、金銅装の馬具 や武具など豊富な副葬品を持っており、駿河を支配し た首長の墓である。

(古代庵原国の起源に関わる首長の墓)

神明山 I ・ 4 号墳(県)、三池平古墳(県)は、いずれも清水区の古墳である。神明山 I 号古墳(3世紀後半)と三池平古墳(4世紀後半)は、大型の前方後円墳であり、神明山 4 号古墳は、大型の馬鈴など精巧



賤機山古墳

な副葬品をもつ7世紀前葉の円墳である。これらは、いずれも周辺地域を支配した首長の 墓で、古代の庵原国の起源に関わると考えられる。

特に、三池平古墳は4世紀後半頃に築かれた全長約 68mの前方後円墳で、主体部は竪穴式石室で安山岩製の割竹形石棺が納められている。石棺の内部には水銀朱が塗られており、成人男子の骨や石釧などの装身具類が出土した。石棺の外側からは、変形方格規矩四神鏡や筒形銅器、帆立貝形石製品などの特殊な遺物が出土している。主体部の構造は、同時期の東国の古墳では同様の検出例がなく、帆立貝形石製品についても、他の出土例は奈良県ではまたのりよう

の日葉酢媛 陵 のみであることから、県内のみならず東国の古墳として重要なものであったと考えられる。

(片山廃寺跡)

片山廃寺跡(国)は、大型の金堂や講堂、塔を持つことが発掘調査で分かり、伽藍の特徴や平城宮跡と関連性を持つ瓦から駿河国分寺跡であることが確実である。



片山廃寺跡

(古代から現代まで連綿と続く聖なる山)

久能山(国)は、広く海を見渡す断崖である。古 代には久能寺、今川氏及び武田氏支配時は久能山城があり、江戸時代には徳川家康が、遺 言により埋葬され、その後東照宮となった地である。中世から近世、近代、現代へ、連綿 と続く聖なる山である。

(中世から近世の人々の交流を表す遺跡)

柴屋寺庭園(国)は、戦国時代に今川氏に仕えた 連歌師宗 長の草庵にゆかりをもつ。

東海道宇津ノ谷・峠越(国)は、東海道の難所であり、海道往来の歴史と変遷を知ることができる。 また急峻な山間部を抜ける特徴的な道である。

朝鮮通信使遺跡(国)は、鞆福禅寺境内(広島県福山市鞆町)、牛窓本蓮寺境内(岡山県瀬戸内市)とともに興津清見寺境内(庭園は名勝)が指定されている。将軍の代替わり時などに派遣された使節団の朝鮮通信使は同寺に宿泊しており、所蔵の歴史資料は県指定文化財である。



柴屋寺庭園

(駿府城跡)

駿府城は、今川氏の館があったとされる場所に徳川家康が築いた城である。家康は、駿府城を大きく2度築城している。 | 度目は、戦国末期の天正 | 3 年(| 1585)、五ケ国領有の大

名時代である。2度目は、江戸幕府を開いた後、将軍職を子の秀忠に譲り大御所となった慶長 12年(1607)年である。

最初の天正時代の駿府城は、2度目の築城が天下普請による大規模な修築であったことや、明治時代の廃城以降の解体、堀の埋め立てなど改変もあって、構造は分かっていなかった。家康家臣の日記である「家忠日記」によると、縄張りは絵図等で示された二ノ丸までの範囲で石垣をもち、天守を備えていた。平成28年(2016)から令和2年(2020)まで行われた天守台の発掘調査により、天正期の天守台及び小天守台が見つかったことで、その姿が初めて明らかになった。

この頃の天守台の規模は、南北約 37m、東西約 33mで築城当時は全国最大級のものであったと考えられる。天守台の付近から 363 点の金箔瓦が出土したことで、金箔瓦を葺いた天守であったと想像される。二度目の天下普請による大修築によって、現在みられるような三重の堀を持つ輪郭式の平城となった。

発掘調査では、天守台が南北約 68m、東西約 61mの日本一の規模であったことが確かめられた。天守は、慶長 15年 (1610) に完成した後、寛永 12年 (1635) に御殿や櫓などとともに焼失し、櫓や御殿は寛永 15年 (1638) に再建されたものの、天守は再建されなかった。

明治時代の廃城以降、建物の解体や堀の埋め立てが進んでいたが、昭和 40 年代以降は石垣の保存運動も起こったほか、二ノ丸までの範囲に当たる駿府城公園では、公園再整備事業によって東御門や櫓などが再建されている。

(そのほかの特徴的な遺跡)

天王山遺跡(市)(清水区宮加三)は、有度丘陵東麓にあり、市域では貴重な縄文晩期の 集落遺跡である。

登呂遺跡のほかにも、有東遺跡や瀬名遺跡など、弥生時代の稲作の実態を示す水田跡や低地の集落が発見されている。

諏訪神社古墳(宮川古墳群4号墳、駿河区大谷)は、有度丘陵西麓にあり、神社社殿が建 つものの円墳が良好に残っている。蒲原城跡は中世の城郭であり、富士川に対峙する立地 から、今川氏、武田氏、北条氏の抗争における軍事拠点としての役割を担った。

そのほかの市指定史跡には、墓所や井戸(寿桂尼墓所、臨済寺今川家の墓所、壮士の墓、 大応国師産湯の井)のほか、石碑などのように、遺構の残存状態の有無に関わらず土地の 歴史を示すもの(列祖殿址の碑、西郷・山岡会見の地、万霊塔碑、梶原景時ゆかりの地) がある。

(イ) 名勝地

全国的に名高い眺望景観を誇る名勝地が静岡市を特徴づける。

(市内の名勝地)

名勝地は人文的なものと自然的なものに大別できる。前者としては、清見寺庭園(国)、臨済寺庭園(国名)、柴屋寺庭園(国)、龍華寺庭園(市)が挙げられる。後者としては、三保松原(国)、日本平(国)、木枯森(県)、伊佐布北滝(市)、薩埵峠(市)が挙げられる。



日本平

(歌枕になった景勝地)

木枯の森(県)は藁科川の川中島を覆う森で、清少納言が枕草子で紹介した歌枕として 知られる。

(池泉回遊式庭園)

清見寺は奈良時代の創建とされるが、清見寺庭園(国)は当初、徳川家康の意向により作られたものと伝わる。臨済寺は今川氏が創建し、徳川家康が再建時に庭園を整備した。 柴屋寺庭園(国)は今川氏に仕えた連歌師宗長の結んだ草庵に由来し、山の頂から上る月を見られることから吐月峯の名で知られ、市内随一の茶会会場として多くの市民に親しまれている。龍華寺も徳川氏ゆかりの寺で、本堂の屋根を富士山に見立てた龍華寺庭園(市)は観富園と呼ばれる。

(富士見の名所)

自然的な名勝の内、三保松原(国)、日本平(国)、薩埵峠(市)は富士見の名所としてよく知られている。三保松原は、京の都で人気を博した能「羽衣」の舞台として、室町時代から名所として名高く、平成25年(2013)には世界文化遺産「富士山ー信仰の対象と芸術の源泉」の構成資産として登録された。松原から駿河湾越しに望む富士山の雄大な風景は多くの人を魅了し、まさに国を代表する海岸の風景であることが、国で初めての名勝に指定されていることからもうかがえる。なお、古くは日本平や薩埵峠を含む東海道といったやや離れた場所からの松原の眺望が愛でられ、富士山と共に描かれた絵画作品数は三保松原が最も多いと言われている。



三保松原

(東海の名園)

江戸幕府 I5 代将軍徳川慶喜が明治維新期に宝台院で謹慎したのち、静岡で暮らした時期 に手掛けた庭園があり、現在は浮月楼という料亭の庭として利用されている。

(ウ)動物、植物、地質鉱物(天然記念物)

南アルプスの自然環境で生息する動植物。茶や蜜柑などの本市の特産品を代表する植物。 山、川、海の作用で表出している地質鉱物が特徴である。

(動物)

動物については、地域を定めない指定で、南アルプスを中心にカモシカ(国特)の頭数が近年増えているほか、ライチョウ(国特)の分布も確認されている。誓願寺モリアオガエル繁殖地(市)が指定されている。また、東海大学がミヤコタナゴ(国)を保護育成している。

(日本最古、最大の蘇鉄)

能華寺に所在する 龍 華寺のソテツ (国) は、上海からもたらされたものである。寺伝では、日本最古、最大の蘇鉄と伝わる。

(徳川家康ゆかりの天然記念物)

家康手植のミカン(県)や清見寺の臥龍梅 (市) は 徳川家康が植えたと伝わる。

(小島陣屋に植えられたかえで)

現在清水小島小学校(清水区小島)に植えられている ちりめんかえで(市)は、元禄時代には小島陣屋跡 (国)に植えられていた。



家康手植えのミカン

(やぶきたの祖)

全国で栽培されている茶種、やぶきたの母樹であるチャ樹(県)が、駿河区谷田に所在する。

(静岡市固有の植物群)

葵区慈悲尾から建穂へと抜ける標高 280m の山中の稜線の東面に群生している慈悲尾のテンダイウヤク群落(県)、植物形態学上全国でも珍しい雄木の石蔵院のお葉付き公孫樹(県)が挙げられる。



チャ樹(やぶきた母種樹)

(巨木)

市内には樹齢 1,000 を超えると伝わる但沼神社のクス (県) や、黒俣の大イチョウ(県)を代表として 23 件の 巨樹が指定を受けている。

(地質・鉱物)

代表的な地質としては、宝永 4年(1707)10月の宝永 地震で発生した大崩壊地の大谷崩が挙げられるほか、安政 元年(1854)12月の安政東海地震で山の中腹から崩れ落 ち川を流れた河内の大石(市)が挙げられる。

才 文化的景観

(市内の特徴的な景観)

静岡市には国選定の重要文化的景観はない。

市内では茶業や水わさび栽培サクラエビ漁などの生業が 営まれ、それらの活動によって生み出された特徴的な景観 が広がっている。



但沼神社のクス

力 伝統的建造物群

(宿場の建造物群)

静岡市には国選定の重要伝統的建造物群はない。

東海道の蒲原宿、由比宿、由比の倉沢地区、興津宿、宇津ノ谷に宿場の様相を示す建造物 群が残されている。

2 文化財に関する調査の現況

静岡市は、複数の市町の合併により成り立っており、旧市町単位で文化財の把握のための 調査が実施されてきた。そのほかに、国や県の他、大学や民間等の研究機関、研究者個人が 行った調査においても、本市の文化財が対象となっているものがある。調査の内訳として、 総合的な調査と(一定のエリアや特定の寺社等を対象に複数の文化財類型にわたる調査)、種 別ごとの調査(特定の文化財類型あるいは個々の文化財を対象とした調査)がある。

本節では、ア 総合的な調査成果と、イ種別ごとの調査成果に分けて、一覧を示す。

(1) 既往の調査の一覧(主な成果)

ア 総合的な調査

	文献名・書名	発 行	発行年月日
IB	静岡市史 第 巻~第5巻	静岡市	昭和6年
市 町	静岡市史 古代~近代	静岡市役所	昭和 44~57 年
史	清水市史 第 1 ~ 3 巻	株式会社 吉川弘文館	昭和 56~61 年
	清水市史資料	株式会社 吉川弘文館	昭和 47~48 年
	蒲原町史	蒲原町史編纂委員会	昭和 43 年 10 月
	蒲原町史 第2巻	蒲原町	平成 10年11月3日
	由比町史	由比町	平成 20 年 10 月 20 日
	由比町史 補遺	静岡県由比町教育委員会	平成 20 年 10 月 20 日
	静岡県史 第 巻	静岡県	昭和5年3月25日
	静岡県史 第2巻	静岡県	昭和6年3月25日
	静岡県史料 第1輯	静岡県	昭和7年3月25日
県史	静岡県史料 第2輯	静岡県	昭和8年3月25日
史	静岡県史料 第3輯	静岡県	昭和9年9月5日
	静岡県史 通史編 ~ 7	静岡県	平成6年~平成10年
	静岡県史 資料編 I ~25	静岡県	平成元~8年
	静岡県史 別編 ~ 4	静岡県	平成3~8年
	ふるさと蒲原の歴史	蒲原町教育委員会	昭和 62 年 4 月
	ふるさと由比-文化財編-	由比町教育委員会	昭和 59 年 3 月 30 日
	ふるさと由比-歴史散歩編-	由比町教育委員会	昭和 56 年 3 月 30 日
	西奈 わがまち	西奈誌編集委員会	平成 2年 月3日
	ふるさと瀬名川	瀬名川二丁目自治会	平成 25 年 11 月 1 日
地域史	上土誌	静岡市上土町内会、上土誌編集 委員会	平成 16 年 3 月 30 日
史	麻機誌	麻機誌をつくる編集委員会	昭和54年11月3日
	史料編年 井川村史 第一・二巻	株式会社 名著出版	昭和 50 年・53 年
	静岡市伝馬町誌	社団法人 静岡市伝馬町報徳社	昭和 52 年 月 5 日
	美和郷土誌	美和郷土誌刊行委員会	昭和60年3月2日
	玉川村誌	玉川村教育委員会	昭和 39 年 4 月
	安倍郡南藁科村誌		

	一番町学区誌	一番町学区誌編集委員会	昭和51年12月5日
	静岡市 歴史の町 井宮町誌	井宮町町内会	平成 5 年 月
	中藁科誌	中藁科郷土史編集委員会	昭和 44 年 5 月 3 日
	下川原の歴史	下川原歴史研究会	平成 4 年 3 月 5 日
	大谷の里	伊東稔浩	平成2年11月12日
	千代田誌	千代田誌をつくる編集委員会	昭和 59 年 10 月 1 日
	長田村誌(復刻本)上・下巻	長田村誌を復刻する会	昭和 49 年 月 0 日
	東豊田郷土誌	東豊田郷土史編纂委員会	昭和55年3月9日
	藁科物語	静岡市立藁科図書館	平成2年7月1日
	翻刻版解説付庵原村誌 上・下	庵原地区まちづくり推進委員会 文化部会いはら文化伝承の会	平成 29 年
	大谷誌	大谷誌編集委員会	昭和 49 年 2 月 24 日
	郷土國吉田史 前編	山道やす江	平成 15 年 7 月 31 日
	用宗町誌	用宗町誌編集委員会	昭和 46 年 8 月 24 日
	復刻増補 麻機村誌	文化洞	昭和 51 年 12 月 25 日
	有度歴史散策	有度地区まちづくり推進委員会	平成 17年3月
	両河内村誌	清水市両河内自治振興会	昭和 39 年 10 月 3 日
	有度郷土誌	安倍郡有度村教育委員会	昭和 30 年 3 月 3 1 日
	不二見の百年	不二見地区まちづくり推進委員 会	平成2年3月10日
	ふるさと三保	三保地区まちづくり推進委員会	令和3年3月31日
	静岡市の百年 明治	山内政三	昭和61年
	静岡市の百年 大正	山内政三	昭和 63 年 1 月 25 日
	静岡市の百年 昭和	山内政三	平成元年4月1日
	目で見る清水 100 年史	静岡郷土出版社	平成2年
	ふるさと船越	船越地区まちづくり推進委員会	昭和 63 年
•	わがまち清水	清水市教育委員会	平成 3年4月 日
	安倍郡清沢村誌	安倍郡清沢村役場	昭和 54 年
	蒲原の名所旧跡	渡邊俊介	令和5年12月
	清見潟 ~29	清水郷土史研究会	平成3年~令和4年
	教敬山 耀海寺の歴史	教敬山 耀海寺	平成 22 年 11 月6日
	 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	組朝鮮通信使文化事業会、静岡 市	平成 8 年 2 月
	清見寺綜合資料調査報告書 —清見寺史料調査報 告—	静岡県教育委員会	平成9年3月31日
	│ 鉄舟寺展目録 ├────────────────────────────────────	フェルケール博物館	平成 13 年
	社寺調査報告 22 	京都国立博物館	平成 13 年
	久能山東照宮傳世の文化財	久能山東照宮博物館	昭和 56 年 11 月 20 日
	久能山誌	静岡市	平成 28 年
	鷲峰山霊山寺誌	霊山寺	昭和53年2月3日
	久能山叢書 第一~五編	久能山東照宮社務所	昭和 47~56
-	久能山の歴史図録	久能山東照宮博物館	昭和 49 年
	龍華寺所蔵宝物目録	龍華寺	平成 28 年
	瑞龍寺史	瑞龍寺護持会	令和4年
	大龍山臨済寺の歴史	臨済寺史研究会	平成 12 年
	慈悲尾 増善寺への誘い	駿州増善寺誌編纂所	平成 22 年 9 月 1 1 日
	 一乗寺史	 佐野明生	平成5年

イ 種別ごとの主な調査

	文献名・書名	発 行	発行年月日
	静岡県の民家 静岡県文化財調査報告書	静岡県教育委員会	昭和 48 年 3 月
	静岡県文化財調査報告書 近世社寺建築	静岡県教育委員会	昭和 54 年
	静岡県文化財調査報告書 近代化遺産	静岡県教育委員会	平成 12 年
	静岡県文化財調査報告書 近代和風建築	静岡県教育委員会	平成 4 年
	清水市石造文化財調査報告書	清水市教育委員会	平成 15 年 2 月
建	文化碑に見る清水~郷土資料集 第 2 集~	清水市教育委員会	平成 4年 月
建造物	登録文化財「遍界山不去来庵」本堂の建築 財団法人 伊豆屋伝八文化振興財団文化財調査報告書第2集	財団法人伊豆屋伝八文化振興財団	平成 4 年 0 月
	神部神社 浅間神社 造營史料並同解説 大歳御祖神社	神部神社 浅間神社 社務所 大歳御祖神社	昭和41年12月1日
	旧五十嵐邸物語	蒲原町教育委員会	平成 13年8月
	静岡県の歴史的建造物・歴史的町並み	静岡県都市住宅部建築課	平成2年
	財団法人 伊豆屋伝八文化振興財団 文化財調査報告書 第 I 集 静岡浅間神社美術工芸品調査報告書 (I)	財団法人 伊豆屋伝八文化振興財団	平成 2 年 3 月 3 日
	龍華寺 所蔵宝物目録	龍華寺	平成 28 年 4 月 24 日
	霊山寺文化財調査報告書	大内霊山寺仁王門保存顕彰会	平成 28 年 3 月 15 日
	臨済寺文書調査報告書	静岡市教育委員会	令和2年3月31日
	駿河の古文書	駿河古文書会	平成 10年 10月 10日
	続 駿河の古文書	駿河古文書会	平成 年
	静岡県立中央図書館葵文庫 久能文庫目録	静岡県立中央図書館葵文庫	昭和 44 年 3 月 25 日
美術工芸品	增善寺今川文書集(2)「今川家由来」(駿州増善寺本)	増善寺今川文書刊行会	昭和 49 年 7 月 20 日
工 芸	駿河国安倍郡門屋村 白鳥家文書目録	静岡市立中央図書館	昭和 51 年
品	白鳥家文書抄	静岡市立中央図書館	平成元年3月31日
	駿河国安倍郡門屋村白鳥家文書目録<改訂増補版>	静岡市立図書館	昭和51年3月31日
	清水市所蔵古文書目録 第 集~第6集	清水市役所	平成2年~6年
	江戸時代の蒲原宿の記録 木屋江戸日記	渡邉和子	平成 26 年 4 月
	静岡市指定有形文化財 松野阿弥陀堂仏像群 木造阿弥 陀如来坐像保存修理報告書	静岡市教育委員会、松野町内会	平成 14年3月31日
	建穂寺編年 現代文訳	石川幸喜	平成 年
	静岡・建穂寺の彫刻	建穂寺を知る会	平成 21 年 5 月 31 日
	東海道広重美術館館蔵品総合図録	東海道広重美術館	平成6年9月20日
	食文化の無形の文化財登録等に向けた調査(手揉み製 茶)報告書	文化庁	令和3年
	するが産業工芸史	静岡特産工芸史	平成7年6月9日
形文	静岡市の地場産業「事始」	静岡市	平成 20 年 10 月
無形文化財	静岡県文化財調査報告書第 4 号 静岡県の諸職 - 静岡 県諸職関係民俗文化財調査報告書 -	静岡県教育委員会	平成元年3月31日
	静岡市産業百年物語	鈴木文雄	昭和43年11月18日
	蒲原古代塗	蒲原町(教育委員会)	平成 11 年7月
民	無形の民俗文化財 記録 第 34 集 盆行事Ⅱ 静岡県	文化庁文化財保護部	平成3年
俗文	静岡県の民俗芸能	静岡県教育委員会	平成8年3月31日
民俗文化財	静岡県史民俗調査報告書第十七集 町屋原・今宿の民 俗-庵原郡由比町-	静岡県教育委員会	平成4年3月31日

	静岡県文化財調査報告書 民俗文化財分布調査	静岡県教育委員会	昭和 52 年
	静岡県文化財調査報告書 民俗芸能	静岡県教育委員会	平成8年
	静岡県文化財調査報告書 祭り・行事	静岡県教育委員会	平成 12 年
	静岡県芸能史	静岡県郷土芸能保存会	昭和36年9月1日
	静岡県史民俗調査報告書第二十集 静岡浅間神社界隈 の民俗-静岡市-	静岡県教育委員会	平成5年3月30日
	安倍・藁科の神楽-清沢神楽・梅ヶ島新田神楽・有東 木神楽調査報告書-	清沢神楽保存会・梅ヶ島新田神 楽保存会・有東木芸能保存会	平成 6 年 3 月 3 日
	するが神楽調査報告書 ふるさと文化再興事業「地域 伝統文化伝承事業」	駿河神楽連絡協議会	平成 15 年 3 月 28 日
	国記録選択無形民俗文化財調査報告書 静岡浅間神社 廿日会祭の稚児舞	静岡市教育委員会	平成 29 年 3 月 3 1 日
	静岡県史民俗調査報告書第二十集 静岡浅間神社界隈 の民俗-静岡市-	静岡県教育委員会	平成5年3月30日
	安倍・藁科の神楽-清沢神楽・梅ヶ島新田神楽・有東 木神楽調査報告書-	清沢神楽保存会・梅ヶ島新田神 楽保存会・有東木芸能保存会	平成 6 年 3 月 3 日
	するが神楽調査報告書 ふるさと文化再興事業「地域 伝統文化伝承事業」	駿河神楽連絡協議会	平成 15 年 3 月 28 日
	国記録選択無形民俗文化財調査報告書 静岡浅間神社 廿日会祭の稚児舞	静岡市教育委員会	平成 29 年 3 月 3 1 日
	静岡県選択無形民俗文化財 草薙神社の龍勢花火調査 報告書	清水市教育委員会	昭和60年3月31日
	静岡県指定無形民俗文化財 由比のお太鼓祭	静岡市	平成 25 年 3 月 3 1 日
	静岡市の伝統文化ガイドブック No.5「マメタクと水神祭り」	静岡市教育委員会	平成 4 年 3 月 3 日
	静岡市の伝統文化ガイドブック No.I「小河内のヒョンドリ」	静岡市教育委員会	平成 年3月3 日
	ふるさと民俗芸能ビデオガイド No.12 静岡県指定無 形民俗文化財 「静岡浅間神社廿日会祭の稚児舞」	静岡市教育委員会	平成6年8月31日
	静岡市の伝統文化ガイドブック No.2「有東木のギリッカケ」	静岡市教育委員会	平成 年3月3 日
	静岡市の伝統文化ガイドブック No.6「安倍奥の神楽 - 有東木・梅ケ島新田-」	静岡市教育委員会	平成 6年3月3 日
	ふるさと民俗芸能ビデオガイド No.39 静岡県指定無 形民俗文化財 「平野の盆踊」	静岡市教育委員会	平成 10年3月31日
	平野・有東木の盆踊り	静岡市教育委員会	昭和 56 年 3 月 3 1 日
	井川の里ばなし	海野和絋	昭和 55 年 月 6 日
	井川雑穀文化調査報告書	井川雑穀文化調査委員会	平成 6年3月3 日
遺 跡	静岡県文化財調査報告書 第 23 集 静岡県の中世城館 跡	静岡県教育委員会	昭和 56 年
	静岡県の城跡 - 中世城郭縄張図集成 - (中部・駿河国版)	静岡古城研究会会長 水野 茂	平成 24 年 7 月 15 日
	静岡県文化財調査報告書 第 23 集 静岡県の中世城館 跡	静岡県教育委員会	昭和 56 年
	静岡県文化財調査報告書 重要遺跡	静岡県教育委員会	平成 10 年
	静岡県文化財調査報告書 前方後円墳	静岡県教育委員会	平成 13年
	静岡県文化財調査報告書 横穴群	静岡県教育委員会	昭和 61 年
	静岡県文化財調査報告書 窯業遺跡	静岡県教育委員会	昭和 64 年
	静岡県文化財調査報告書 古代寺院・官衙遺跡	静岡県教育委員会	平成 15 年
	静岡県文化財調査報告書 中近世墓	静岡県教育委員会	平成 31 年
	〈登呂遺跡基礎資料 I〉登呂遺跡第 I 次調査の記録 昭和 I 8 年(I 943 年)調査	静岡市立登呂博物館	平成2年3月31日

	〈登呂遺跡基礎資料 4〉登呂遺跡出土資料目録 写真編	静岡市立登呂博物館	平成元年3月31日
	駿河国蒲原城址発掘調査報告書	蒲原町教育委員会	平成3年5月1日
	近代の庭園・公園等に関する調査報告書	文化庁文化財部記念物課	平成 24 年
名 勝 地	名勝に関する総合調査-全国的な調査(所在調査)の 結果-報告書	文化庁文化財部記念物課	平成 25 年
_	名勝 清見寺庭園保存修理報告書	清見興国禅寺	平成8年3月31日
動	静岡県の巨木	静岡植物研究会	平成3年10月15日
物·植物·地質鉱	静岡県文化財報告書 第 58 集 静岡県の天然記念物 (地質鉱物)	静岡県教育委員会文化課	平成 16 年 9 月 30 日
地	静岡県の巨樹・名木	静岡新聞社	平成 13 年 4 月 7 日
質 鉱 物	静岡市西部植物誌(宇津ノ谷、高草山、大崩附近)	大村敏朗	昭和 8年 月5日
文化的景観	静岡の棚田研究~その恵みと営み~	静岡県農林技術研究所	平成 21 年 3 月 25 日
人口叫が配	静岡県の文化的景観総合調査報告書	静岡県	令和4年
伝統的建造物 群	蒲原宿まちなみづくり検討業務報告書		平成9年3月
	静岡県文化財報告書第 52 集 静岡県歴史の道整備活用 推進総合計画報告書	静岡県教育委員会	平成 年 3 月 3 日
	静岡県文化財報告書第 25 集 静岡県歴史の道調査報告書-秋葉道-	静岡県教育委員会	昭和58年3月31日
	静岡県歴史の道 東海道	静岡県教育委員会	平成6年3月31日
	歴史の道 宇津ノ谷峠整備活用事業報告書	静岡市教育委員会	平成 17 年 3 月 30 日
	静岡県文化財調査報告書第二十集 静岡県歴史の道調 査報告書 - 東海道 -	静岡県教育委員会	昭和 55 年 3 月 3 日
	静岡県文化財調査報告書第二十一・二十二集 静岡県 歴史の道調査報告書-身延道・本坂通(姫街道)-	静岡県教育委員会	昭和 55 年 3 月 3 日
	静岡の人びと	静岡市教育委員会	昭和 49 年 3 月 25 日
そ	静岡県芸能史	静岡県郷土芸能保存会	昭和36年9月1日
の他	人物が彩る清水~郷土資料集 第3集~	清水市教育委員会	平成 4 年 2 月
他	町名の由来	静岡新聞社	昭和 54 年
	清水市 地名の変遷	清水市(都市部 都市計画課)	平成9年3月
	静岡市火災誌	静岡県	昭和 17年
	静岡県文化財調査報告書 第三十四集 静岡県の民謡	静岡県教育委員会	昭和61年3月31日
	安倍川治水史	建設省静岡河川工事事務所	平成4年7月
	城濠用水沿革誌	城濠用水土地改良区	昭和 55 年 5 月 25 日
	大谷川史	静岡県静岡土木事務所	昭和 57 年 12 月
	静岡県の方言調査報告書	静岡県教育委員会	昭和 59 年 3 月
	静岡県方言風土記	静岡新聞社	平成元年7月1日
	ふるさと 大川の方言	大川クラブ創立 80 周年記念事 業実行委員会	平成 17年4月3日

(2) 把握調査状況のまとめ

合併前までは、それぞれの旧市町で調査が行われており、調査状況がそれぞれ異なっている。以下に地域別に把握調査の状況をまとめる。

2					清水区		
				駿河区	清水地区	由比地区	蒲原地区
有形	有形 建造物		Δ	Δ	Δ	Δ	Δ
文化財		絵画	Δ	Δ	Δ	×	×
		彫刻	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ
	美術	工芸品	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ
	美術工芸品	書跡・典籍	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ
	云品	古文書	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ
		考古資料	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ
		歴史資料	Δ	Δ	Δ	Δ	Δ
無形文化	無形文化財		Δ	Δ	×	Δ	Δ
民俗	有形の民俗文化財		Δ	Δ	×	×	×
文化財	無形の民俗文化財		0	0	Δ	Δ	×
	遺跡 名勝地		0	0	0	0	0
記念物			Δ	Δ	Δ	×	×
	動物·植物·地質鉱物		Δ	Δ	×	Δ	Δ
文化的景観		Δ	×	Δ	Δ	×	
伝統的建造物群		Δ	Δ	Δ	Δ	Δ	

○:調査済み、△:調査不足、×:調査未実施、-:該当なし

3 文化財を対象とした現在の取組の現況

(1) 文化財部局がこれまで行ってきた保存活用事業の主な取組

ア 地域で継承されてきた文化財の持つ価値を、歴史文化と共に共有し、次世代に継承していく調査・研究に係る既存の取組

(ア) 古文書調査事業

静岡市内に所在する古文書・古記録類の散逸を防止し、文化財としての保護と活用を図るため、市内全域を対象に古文書の所在を調査し、網羅的な目録の作成を進める。加えて、点在する古文書の所在調査と内容調査・記録を行うことを目的として、昭和 61 年度から静岡大学と共同で事業を行っている。

イ 文化財が、現在の人々の暮らし、地域社会の中に根付き、確実に保存されるための現状 の取組

(ア) 静岡市文化財保護補助金

静岡市は、将来にわたり文化財を守るため、市内に所在する文化財を保存し、又は活用する事業に対して、文化財保護法(昭和 25 年法律第 214 号)第 182 条第 1 項の規定に基づき、予算の範囲内において補助金を交付する。

(イ) マッケンジー住宅再生化事業

静岡市名誉市民第1号のエミリー・M・マッケンジー夫人の居宅で、著名なヴォーリズ建築の一つであり、当時の意匠をそのまま残している貴重な建物である旧マッケンジー住宅の修理及び耐震化対策を行っている。

(ウ) 三保松原保全活用事業

『三保松原』は、大正 II 年(1922)3月8日に日本国で最初の「名勝」に 指定され、平成 25 年(2013)6月には、その顕著な普遍的価値が評価され、富士山世界文化遺産の構成資産として登録された。静岡市は三保松原の管理団体として保存活用事業に取組んでいる。

主な事業内容としては、マツ材線虫病対策や老齢大木の倒伏防止等のリスク軽減と、松原の全てのマツのデータベース運用や圃場でのマツ苗の育苗等の松原再生の2つを実施している。また、三保松原の価値や魅力、松原保全の大切さをわかりやすくガイダンスし、後世に継承する役割を担った静岡市三保松原文化創造センター、通称「みほしるべ」を拠点に、松原保全の啓発事業を行っている。

(エ) 特別史跡「登呂遺跡」整備事業・重要文化財「登呂遺跡出土品」保存修理事業

登呂遺跡・出土品の保存については、平成 II 年度から平成 23 年度まで行われた再整備事業 に基づき、市(観光交流文化局文化財課登呂博物館)が管理している。平成 28 年に重要文化財

に指定された「登呂遺跡出土品」については、平成 30 年から継続して修理事業を実施しており、 令和5年度末時点で 775 点の内 187 点の保存修理を完了している。

(オ) 史跡小島陣屋跡の整備

小島藩御殿建物(以下「御殿の書院」)は、御殿建物が現存する例は全国的にも少なく、 貴重な存在であるとして平成 | 3 年(2001) | 月 | 10 日に市指定文化財に指定された。また、小島陣屋跡は平成 | 8 年7月 28 日に国指定史跡に指定された。市ではその後指定地の 公有地化事業に取り組んできた。平成 28 年からは整備事業を行っている。

御殿の書院は、史跡小島陣屋跡整備事業の一環として、令和 4 年度から6 年度にかけて、 解体をして、小島陣屋跡内に移築復原を行った。

(カ) 名勝及び天然記念物の保全

静岡県文化財保護条例及び静岡市文化財保護条例に基づき静岡県、静岡市に指定された名勝及び天然記念物の維持については、静岡市文化財維持報奨金交付要綱に基づき、文化財の維持を | 年間を通して行う所有者又は管理責任者に対して年額 | 10,000 円を上限に報奨金を支払っている。

ウ 文化財に関わる人材を育て、文化財を活かした活動を育み、文化財を磨き上げる人材 育成に係る取組

(ア) 文化財サポーター制度

本市の文化財を通じて、地域における文化財の素晴らしさや問題点を発見し、行政と連携しながら主体的に文化財の保存活用に取り組むための枠組みを文化財サポーター制度という。 現在 183 人が登録しており、史跡賤機山古墳のガイドや、駿府城跡発掘現場「きゃっしるガイド」、家康手植えのミカンの収穫のなどのメニューを実施している。



賤機山古墳ボランティアガイド



巴川まちあるき

エ 文化財を通して人々がつながり、にぎわい溢れるまちづくりを実現する、情報 発信に係る取組

(ア) 大神楽祭

静岡市の山間地には各地に特色のある神楽があり、「静岡県中部地方の神楽」として、平成 26 年3月に「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択された。地元の方々の努力により、受け継がれてきた神楽が「芸能の聖地 静岡浅間神社」に一堂に会し、それぞれ個性のある舞を披露する祭典が大神楽祭である。大神楽祭は平成 28 年度から令和元年度まで毎年開催された後、新型コロナウイルス感染症の影響で中断を経て、令和4年度に4年ぶりに再開した。

(イ) 文化財展

静岡市では、文化財に対する理解の促進を図るために、静岡市文化財展として埋蔵文化財 発掘調査や新指定文化財を紹介する展示を毎年行っている。期間中には、遺跡についてより 深く知ってもらうために静岡市埋蔵文化財センター等で、ギャラリートーク・発掘調査報告 会を行っている。

(ウ) 文化財特別公開

静岡市では、平成 29 年度から、国の定める「文化財保護強調週間」(II 月 I 日 ~ II 月 7 日) に合わせ、市民に向けて市内の文化財について周知を行い、市民が文化財を身近に親しむ機会の提供を目的として、修理した文化財や普段は非公開の文化財を公開する、文化財特別公開事業を実施している。

(エ) 国指定史跡賤機山古墳の公開

国指定史跡賤機山古墳の団体見学(小学校の社会科見学等)の際に、職員や文化財サポーター(ボランティアガイド)による見学ガイドを実施している。説明は古墳の概要、石室内部の構造、家形石棺や歴史的背景などについて、小学生にもわかりやすく行っている。また、見学に際しては、静岡浅間神社とも連携し、本市の歴史・文化を幅広く伝えている。令和4年度には44団体、3,302名が賤機山古墳を見学した。

(オ) 文化財年報 ふちゅ~るの刊行

前年度に実施した、文化財保護行政の成果を記録保存し、公表するために、文化財年報を 作成・刊行している。

(カ)「駿府九十六ヶ町」町名碑の設置事業

本市では、平成5年度から令和4年度にかけて、「駿府九十六ヶ町」の町名碑を設置した。 駿府九十六ヶ町は、江戸時代の駿府(静岡市街地)の街を総称したもので、市内に残る駿府 九十六ヶ町の町名を顕彰し、町に暮らす人々の誇りを高めると同時に、町を訪れる人々にも 「駿府」に対する理解を深めてもらえるよう、この事業に取り組んでいる。

(キ) 家康手植のミカン活用事業

毎年 12 月上旬になると、駿府城公園内の家康手植のミカンの樹木には、5,000 個~6,000 個程度の果実がなる。本市では家康にゆかりがある蜜柑を通して、静岡市の歴史文化を学ぶきっかけを提供することを目的として、市内の親子や小学校を対象に、収穫作業の手伝いをお願いしている。また、文化財を保護・発信していく人材としての文化財サポーターも収穫作業に参加し、1日をかけて収穫を実施している。収穫したミカンは、市民に配布するほか、活用する事業者を募集し、一部を商品化している。

(2) 文化財と連携して行っている、もしくは、連携の可能性がある保存活用事業の一覧

※タイトルの順番: 事業名 開始年度 所管課

ア 伝統文化ワークショップ 平成 18年度~ 文化振興課

親子が気軽に伝統文化に触れる機会を創出するため、茶道や筝、日本舞踊や能楽、落語などの日本古来の伝統芸能について、入門編のワークショップを開催する。

会場は静岡市民文化会館を中心に開催し、2日間午前・午後の計4回行う。

イ 静岡型小中一貫教育(しずおか学)平成29年~ 学校教育課

地域や静岡市に愛着と誇りをもつ静岡市民を育てるとともに、広く社会や世界に目を向けて、その発展に寄与する人材の育成を目指す。

「お茶」「しずまえ」「オクシズ」「海洋文化」「防災」「歴史文化」の6分野について、平成29年度から企画検討部会及び執筆部会を立ち上げ冊子を作成し、平成31年度から毎年各小中学校へ配付している。

ウ 文化芸術アウトリーチ事業 令和3年度~ 文化振興課

こども園や放課後児童クラブ、適応指導教室などを対象に文化芸術を届けるアウトリーチ事業を開催する。

箏や和太鼓などの伝統的な和楽器等を用いたコンサートを通じ、伝統芸能に興味関心を 抱く人材を育成する。

工 駿府城公園内 3 施設管理運営事業 平成 28 年度 ~ 歴史文化課

5 大重点施策「城下町の歴史文化を守り抜くまちの推進」に関する施策に資する駿府 城公園内3施設の管理運営をする。

本市の歴史、伝統文化及び日本茶等の各種産業を広く PR し、それらを将来に継承させていくことを目的とする。

オ 東海道歴史街道まち歩き推進事業(蒲原宿情報発信)平成27年度~ 観光政策課

蒲原宿を訪れる観光客に対し、国登録有形文化財である志田邸及び街道文化等を発信し、 東海道歴史街道への興味関心を高め、街道観光の推進を図る。

カ 道の駅整備事業 トライアルパーク蒲原 令和 4 年~令和 6 年 道路計画課

道の駅の手法を用いて蒲原地区への周遊を促進する仕組みづくりを検討。 自転車を活用した町巡りを民間事業者と連携して実施し、蒲原地区の宿場町であった蒲原・由比の街並みを PR していく。

キ 食文化・自然等を活用した街道観光プロモーション事業 令和3年度~ 観光政策課

東海道の起点である東京日本橋において食を活用したプロモーションを通じて、東海道を軸にした街道観光を推進する。

日本橋しずおか食堂:「しずおか中部連携中枢都市圏」事業。各市町の特産品を用いたメニューを東京日本橋の老舗飲食店が開発し、期間限定で販売する。(R5実績:II/IO~12/IO、参加店舗 I5)

「しずおか中部連携中枢都市圏」事業:各市町の特産品を用いたメニューを東京日本橋の 老舗飲食店が開発し、期間限定で販売する。(R5実績:II/IO~I2/IO、参加店舗 I5) 東海道を軸とした街道観光モニターツアーの実施:首都圏の旅行業者・出版業者に向け 「食」や「体験」を楽しむ街道観光モデルツアーを実施する。

ク さった峠ハイキングコースマップ 令和4年~ スポーツ振興課 興津駅または由比駅から、さった峠までのハイキングコースマップ

ケ みどりの道 令和2年~ スポーツ振興課

静岡市内のハイキングコース 33 か所を図と写真付きで紹介する冊子。宇津ノ谷峠や 日本平などがコースに含まれる。

コ 静岡市ウォーキングコースマップ 令和5年~ スポーツ振興課 駿府城公園周辺の神社等の紹介を含めたウォーキングコースマップ

サ 日本平公園整備事業 平成 22 年~ 公園建設管理課

名勝日本平において、観光文化交流拠点となる日本平公園を「風景美術館=日本平」 を基本テーマに日本一の観富公園を目指し整備する事業である

シ 駿府城公園修景整備事業 令和4年度~令和 | | 年度 公園建設管理課

公園内の樹木の育成状況等を踏まえ、貴重な歴史資源としての駿府城公園にふさわしい修景整備の在り方や、文化財保護に配慮した整備方法を検討し、野外展示施設の供用と併せた当面の景観づくりを行う。

ス オクシズ漆の構想事業 平成31年~ 中山間地振興課(オクシズ「漆の里」協議会) 市内中山間地域でウルシを育て、市内の文化財修繕や地場産業の漆器等で消費する 「漆の地産地消」体制の構築を目指すため、平成30年度末公民連携の「オクシズ「漆の 里」協議会」を設立。オクシズでの漆の試験植樹やウルシへの理解を深めるための啓 発・情報発信事業、付加価値を高めるための商品開発等実施している。

セ 東海道広重美術館管理運営事業 平成6年~ 観光政策課

「江戸時代を感じさせるまちあるきの拠点」として「東海道歴史街道」を推進するため、浮世絵に特化した美術館としての特性や、美術や芸術文化を活かした事業を実施することにより、集客と満足度の向上を図る。

ソ 由比本陣記念館等管理運営事業 平成4年度~ 観光政策課

江戸時代の由比宿本陣跡に整備した施設の運営管理を行うものであり、由比地区の地域振興及び観光流の中心施設として、江戸時代の由比宿本陣跡に整備した交流館、本陣記念館(御幸亭)等の運営管理を通じ、情報の発信や文化交流の提供場所となることを目指す。

タ 朝鮮通信使発信事業 平成31年度~ 歴史文化課

朝鮮通信使と静岡市、家康公との関係やその価値を後世に継承するとともに、広く情報発信しシビックプライドの醸成につなげるため、講座事業(委託による3講座)を実施する。

チ 国際文化交流・発信事業(朝鮮通信使文化交流事業)平成25年~ まちは劇場推進課

5月に韓国・釜山市で開催される「朝鮮通信使祭り」に静岡市から芸能団体の派遣を行い、文化団体間での交流を促し本市の文化のPRを行う。

10月に釜山市から芸能団体を招聘し、静岡市で文化交流公演を開催する。朝鮮通信使への理解を深めるとともに韓国の文化や本市の文化に触れることで地域の歴史を再認識する機会を提供する。

ツ 重点地区内景観形成行為助成金制度 平成 14年~ 景観まちづくり課

重点地区内における良好な景観の形成に寄与する と認められる活動を行う個人又は 団体に対し て、予算の範囲内において 助成金を交付する。(現在、宇津ノ谷地区に限 る)

テ 静岡市景観計画に基づく景観重点地区の指定 平成 20 年~ 景観まちづくり課 特に重点的に景観形成に取組むべき地区を「重点地区」に位置付け、地区独自の景観形成の目標や方針、景観形成基準などを定め、地区の景観資源や個性を活かした景観形成に取り組む。

図 重点地区及び重点地区候補地区の位置



静岡市景観計画より抜粋

ト 静岡市景観計画に基づく地域景観資源の保全・活用 平成 20 年~ 景観まちづくり課 歴史を感じさせる建築物等やシンボル的な樹木といった良好な景観を形成する重要な 資源を、法に基づく「景観重要建造物・樹木」や条例に基づく「地域景観資源」に位置 付け、その保全と活用を図る。

ナ 伝統工芸技術アーカイブス事業 令和元年~ 産業振興課

市内の伝統工芸業界で後継者不在で存続の危機にある高い技術を映像や工程品完成品 の買上げ等でアーカイブする。

二 生涯学習施設における歴史講座実施 生涯学習推進課(指定管理者)

生涯学習施設において、静岡市の地域歴史や文化財、地域特産物などを題材にした講 座を実施する。

ヌ 清水みなとまつり 昭和 22 年~ まちは劇場推進課

さつき通りにて行う港かっぽれ総おどりや、日の出埠頭の海上で行う海上花火大会な どを実施することで、港町の魅力を発信することを目的としている。

ネ 料理教室 令和5年度~ 静岡市中央卸売市場協力会

旬の食材を使った料理教室を、中学生以上の一般講座及び小学生とその保護者による 親子講座を設け、静岡中央卸売市場内で実施する。市場の専門家が講師となり、旬の食 材の産地・選び方・美味しい食べ方・保存の仕方を紹介し、調理・食べ比べを実施す る。

ノ 駿府本山お茶まつり事業補助金 農業政策課 駿府本山お茶まつり委員会

静岡本山茶をはじめとするお茶の振興と消費拡大を図るため、大御所徳川家康が熟成 させたお茶の香り高い味を楽しんだという故事にならい、春から秋にかけてその故事を 再現する一連イベントを実施する。イベントを実施する事業主体に対し、事業費を助成 する。

マ 茶手揉保存事業補助金 農業政策課 JA 静岡市 JA しみず 静岡県茶手揉保存会 静岡市歴史博物館 静岡県無形民俗文化材に指定されている「手揉製茶技術」を用いてお茶を謹製し宮内庁 へ献上することで、「手揉製茶技術の保存及び向上」を推進し、併せて「お茶のまち静岡 市」の認知向上を図る。

ミ 議場見学 平成 22 年~ 調査法制課

見学者に対し静岡市議会議場を案内しながら、建物の歴史や議会制度について説明し、 市議会への興味、関心を高める。

ム フィルムコミッション 広報課 静岡を舞台とする、映画、テレビ、CM などのロケーション撮影支援。ロケ地には市内 の文化財建造物も使われており、文化財の活用の一つの手段である。

メ 文化財防火デー 予防課 各消防署

昭和 24年 | 月 26日に法隆寺の金堂が焼失したことから、毎年 | 月 26日を文化財 防火デーと定め、文化財を火災、震災その他の災害から守るとともに、文化財防火運動 を展開し、国民一般の文化財愛護に関する意識の高揚を図っている。静岡市内では、有 形文化財を中心に消火訓練などを行っている。

モ 葵区魅力づくり事業 葵区役所 葵区役所地域総務課

葵区魅力づくり事業は、日ごろから地域で活躍する皆さんと協働し、自然・文化・歴 史・特産品など、各地域の特性を活かした地域プロモーションイベントなどを実施す る。葵区は、地域住民が実施する地域特性の PR 活動の機会を創出し、それぞれの課題 やニーズに見合うよう支援する立場で地域活動を活性化させ、住民主体のまちづくりを 目指す。

(3) 民間で行っている文化財の保存活用の取組

ア 静岡市内では、すでに文化財の保存活用を行っている民間団体があり、それらの 団体の活動の事例

(ア) 静岡浅間神社廿日会祭 静岡浅間神社

静岡浅間神社廿日会祭は、450年以上の歴史と伝統があり、駿河国の大祭とされた。 静岡浅間神社の例大祭である。

期間中は各種祭典のほか、山車・神輿の巡行、芸能奉納が行われる。

(イ) 静岡まつり 昭和 32 年~ 静岡まつり実行委員会 徳川家康の歴史故事にちなんだ「大御所花見行列」や「駿府登城行列、市民総踊り『夜桜 乱舞』など」を実施する

(ウ) 聖一国師顕彰事業 平成28年度~ 聖一国師顕彰会(静岡商工会議所)

郷土の偉人である聖一国師の功績を顕彰するとともに、聖一国師ゆかりの都市との交流、 聖一国師に由来する産業の振興及び聖一国師の生家を含む中山間地の振興に寄与することを 目的とした事業

主な事業としては、水汲み・水撒きの儀や博多祇園山笠への参画、法要への参加など。

(エ) 歴史めぐりまちばなし SBS テレビ (静岡放送)

静岡市内の史跡や建造物、農作物といった様々なスポットを巡り、そのスポットにまつわるお話を紹介するテレビ番組。

(オ) 三池平古墳まつり 三池平古墳まつり実行委員会

三池平古墳まつりは、三池平古墳で行われる地域住民による祭りで、地域の歴史を伝えるために平成 27 年(2015)からはじまった。三池平古墳を舞台に古代からの使者に扮した住民を迎え音楽やダンスを披露する宴を開く。

祭りの参加者と近隣の文化財を巡る「歴史探求ウォーク」も行うことがあり、郷土の歴史 を多くの人に知ってもらうための機会となっている。

(カ) 登呂まつり

登呂まつりは、登呂遺跡で行われる地域住民による祭りで、登呂の地で栄えた祖先たちに収穫を感謝し、古代の文化に親しみを持ち続けることを目的として始まった。昭和 35 年 (1960) に行われた第 I 回登呂まつりでは、登呂遺跡公園で新穀感謝祭や登呂ばやし舞踊大会、登呂劇、古代神楽など、古代文化の普及を趣旨とした催しを行った。また、駿府公園にて舞踊大会やパレードなども実施していた。新穀感謝祭と登呂ばやしの舞踊は令和 5 年の第 6 I 回開催まで続く恒例行事となっているほか、登呂遺跡の水田で育てた古代米おむすびの配布や火起こし体験などの弥生体験、地域の学校や有志よる太鼓、吹奏楽の演奏、踊りの披露などが行われており、登呂遺跡の P R や地域活性化、観光の振興を図っている。これらの内容は、令和 4 年度以降、主催である登呂まつり実行委員会と登呂博物館、芹沢銈介美術館、駿河区 地域総務課、地元大学生などが連携しワークショップを行いながらブラッシュアップを図っている。

(キ) 蒲原宿場まつり 平成 18 年度~ 蒲原宿場まつり & 産業フェア実行委員会

蒲原宿は十五番目の宿場町。風情ある街並みが残る旧東海道で、蒲原古代塗展をはじめ、 国登録有形文化財の「志田邸」「本陣跡」「旧五十嵐邸」や旅籠「旧和泉屋」などを会場に、 地元の自治会や有志が主体となって、様々な催しを繰り広げる。街道イベントでは、蒲原太 鼓、大道芸、和太鼓などが披露され、産業フェアでは桜えびや削り節などの地場産品の販売 がある。

- (ク) 丸子宿場まつり 平成24年度~ 丸子宿場まつり実行委員会 丸子宿は二十番目の宿場町。丸子地区の特産品の販売をはじめ、街道を生かしたパフォーマンス等が開催される。
- (ケ) お堀の水辺(葵舟)活用事業 令和2年度~ TOKAI ケーブルネットワーク

歴史文化の拠点づくり事業として実施。駿府城公園周辺エリアにおける新たな歴史観光 コンテンツとして運航中。

(コ) おねり保存事業

おねりとは、天下泰平、五穀豊穣を祈願し、建穂寺の「稚児舞楽」を浅間神社に奉納する途上、安西河原(葵区安西)で稚児を迎え、山車屋台を組み、木遣り、お囃子、地踊り

を伴って巡行したことが起源である。400年以上の歴史を持つ廿日会祭への参加や、地域に根ざした伝統行事であるおねり巡行の実施など、伝統芸能の歴史に触れ、体験することのできる機会を守ることで、次世代へのおねり文化の継承を図る。

(サ)やじきたウォーク 令和3年~ 株式会社 天神屋

道の駅宇津ノ谷峠を活用した健康ウォーキングを実施。宇津ノ谷の集落や国の有形文化 財である宇津ノ谷トンネル(明治トンネル)をガイド案内し、宇津ノ谷峠の歴史を市民に PR している。

(シ) 日本平ウォーク 日本平ウォーク実行委員会

富士山が最も美しく見える季節に、世界文化遺産「富士山」を臨む景勝地・日本平を中心に、静岡市内の名所・旧跡を巡りながら楽しめるウォーキングイベント。

(ス) 安倍川花火大会 昭和 28 年~ 安倍川花火大会本部

昭和 28 年 8 月、静岡西部発展会により企画され、安倍川橋と東海道線鉄橋の間の安倍 川河原にて、東海道花火大会として行われたことがはじまり。

安倍川の河川敷で花火大会を実施することで、地域の魅力を発信することとともに来訪 者の増加を図ることを目的としている。

(セ) 東海道歴史街道まち歩き推進事業 平成 28 年度~ 東海道歴史街道観光推進協議会 しずおか東海道の宿場ならではの歴史文化を活用した市内周遊を促進する。

駿河東海道おんぱく(H27~):市内2峠6宿の文化・歴史・食などの地域資源を体験プログラムとするイベントの開催。(R5 実績: I0/I4~II/26、5I プログラム) 宿場探訪動画の制作:東海道二峠六宿の周遊促進に向けたプロモーション動画を制作する。 二峠六宿プロモーション: SNS、交通広告を活用した東海道二峠六宿のプロモーションを実施する。

第3章

静岡市の歴史文化の特徴

- ・静岡市は、北に南アルプス、南アルプスから注ぐ安倍川などの河川、南に駿河湾などという特有の自然環境に影響を受けながら、人々の社会形成のなかで特色ある歴史文化が育まれ、数多くの文化財が現在まで受け継がれてきた。その歴史や文化の特徴は以下の6つの視点でまとめることができる。
 - I 川がつくりだした静岡・清水平野に広がる豊かな暮らし
 - 2 連綿と続く政治文化の中心地
 - 3 街道の往来と人々の交流
 - 4 平野部と丘陵部で育まれた信仰と文化
 - 5 オクシズに息づく伝統文化
 - 6 海と共存する歴史文化

本章では、それぞれの歴史文化の特徴を時代に沿った形で紹介する。

[歴史文化の特徴に基づく6つのテーマ]



[歴史文化の特徴 | に係る主要文化財の位置図]



歴史文化の特徴 1 川が作り出した静岡・清水平野に広がる豊かな暮らし

安倍川をはじめとする河川によって作られた静岡・清水平野は、洪水と治水を繰り返しながら川と人とが共存し、静岡市民の多くが暮らす活動拠点となっている。

静岡平野は、静岡市の北側に位置する標高 2,000 mの大谷嶺から流れる安倍川の作用によって作られた。安倍川は、流域に崩壊地が多いため、氾濫を繰り返すたびに大量の礫や砂、泥を下流に運び、静岡平野が形成された。静岡平野の北部には麻機湿地があり、そこから東流する巴川は、氾濫を繰り返すことで砂や泥を運び、清水平野を形成した。

旧石器時代から縄文時代は、人々は丘陵部に住み、狩猟採集を中心とした生活を送っていたが、弥生時代からは平野部での暮らしを始める。弥生時代の人々は、豊富な水と発達した 農耕技術によって平野部に水田を開発していった。

特に、登呂遺跡の集落は、住居のほかに祭殿が建ち、そこでは稲作に関わる豊穣の祈りや祝いの祭りが行われるなど、豊かな文化を育んでいた。登呂遺跡の他にも、有東遺跡や瀬名遺跡、一丁田遺跡など弥生時代から続く集落や水田の跡が平野の各地で見つかっている。

こうした平野部での暮らしは、一方で洪水リスクもあわせもつ。登呂遺跡は複数回の洪水に襲われて、居住域の移転や復興が行われた。農耕や土木技術の発達によって、次第に平野部は大規模に開発され、奈良時代には大きさや方向といった規格をそろえた条里水田が整えられた。それでも河川の氾濫は度々起こり、江戸時代初め頃には、後に薩摩土手と呼ばれる堤防を築いて駿府城下町や村を守ることのほか、駿府城の堀も含めて平野には用水路が整えられて、平野部へ田畑を広く開発することが可能になった。昭和 49 年の七夕豪雨の被害を受けて大谷川放水路を整備するなど、河川氾濫と治水は現代まで続いている。

静岡・清水平野は、弥生時代の稲作を契機として開発が進み、洪水と治水を繰り返しながら、現在でも静岡市民の主要な居住地としての役割を果たしている。

[歴史文化の特徴 | に係る主要文化財 ※歴史文化の特徴を象徴するもの]

・安倍川 ・麻機沼

· 藁科川 · 巴川

・有東遺跡・瀬名遺跡

・川合遺跡・鷹ノ道遺跡

・ 飯田遺跡 ・ 曲 金北遺跡

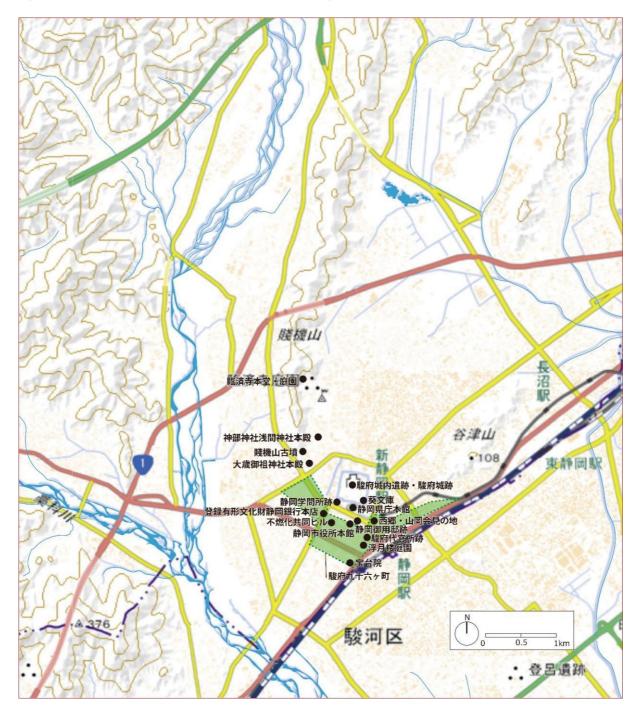
· 長沼遺跡 · 上土遺跡

・一丁田遺跡 ・長崎遺跡

・登呂遺跡 ・薩摩土手



[歴史文化の特徴2に係る主要文化財の位置図]



歴史文化の特徴2 連綿と続く政治と文化の中心地

静岡市は静岡県の県庁所在地であり、特に市役所・県庁の所在する駿府城下町と呼ばれた 地域は、古くから周辺地域の中心的な場所であった。

古墳時代には、賤機山の南端に賤機山古墳が造られた。この古墳は、大和政権との強いつながりを持ち駿河など一帯を支配した首長の墓であったことがうかがえる。

飛鳥時代に律令制が整備されると、安倍郡(現在の葵区)に駿河国府が置かれた。駿河国府は、出土遺物や遺構から駿府城内遺跡が有力な候補地となっている。また、付近では安倍の市が開かれ、大いににぎわっていた。

室町時代には駿河国守護今川氏が駿府を本拠地とし、現在の駿府城周辺に居館を構えた。 大きな勢力を誇った今川氏は公家や僧侶と活発に交流を行い、京都の文化が駿河へともたら された。葵区大岩には今川氏の菩提寺である臨済寺が所在する。

戦国時代から江戸時代初期には、徳川家康が三度にわたり居住しており、江戸幕府を開いた後に駿府城を大改修し大御所政治を行ったことはよく知られている。家康は城下町も整備し、職業や身分によって住む場所をまとめた。この町は、後に駿府九十六ヶ町と呼ばれる。城下には東海道の宿場であった府中宿も含まれており、十返舎一九の『東海道中膝栗毛』では名物の安倍川餅が描かれた。また、江戸城無血開城の会談を行った西郷・山岡会見の地の碑が残されている。

明治維新を迎えると、徳川家達が静岡藩藩主として静岡に入る。これに伴い、江戸幕府所 蔵の貴重書の一部が静岡学問所に収められ、葵文庫として現在まで引き継がれている。

江戸幕府最後の将軍である徳川慶喜は、明治維新期に宝台院で蟄居したのち、駿府代官所へ移り、明治 30 年(1897)まで静岡で暮らした。その際に改修した庭園は、浮月楼という料亭の庭として今に伝わる。

近代化のなかで、明治 22 年(1889) に市制が施行された。静岡市は、当時、静岡県内で唯一の「市」であった。昭和5年(1930) には昭和天皇の行幸に合わせて御幸通りが整備され、近代化を象徴する建造物が建設される。

昭和 15 年(1940)に発生した静岡大火や、昭和 20 年(1945)の静岡大空襲等により、大きな被害を受けるが、戦後は鉄筋コンクリートの共同建築である防火帯の機能を備えた 建造物群をつくり現在も現役で利用されている。

[歴史文化の特徴2に係る主要文化財 ※歴史文化の特徴を象徴するもの]

- ・賤機山古墳
- 神部神社浅間神社
- ・駿府城跡
- ・臨済寺庭園
- ・西郷・山岡会見の地
- ・葵文庫
- ・駿府代官所跡
- ·静岡御用邸跡
- ·静岡県庁本館
- ・不燃化共同ビル

- ·駿府城内遺跡
- ・大歳御祖神社
- ・臨済寺本堂
- ・駿府九十六ヶ町
- ·静岡学問所跡
- ・宝台院
- ・浮月楼庭園
- ·静岡市役所本館
- ·静岡銀行本店



[歴史文化の特徴に3係る主要文化財の位置図]



歴史文化の特徴3 街道の往来と人々の交流

静岡市は、今も昔も東西、南北の交通の要衝であり、街道が整備されるはるか以前から、 人々の交流が盛んだった。

縄文時代の天王山遺跡などから、静岡市域では取れない黒曜石をはじめとする石器の石材や土器が見つかり、長野県や山梨県など他地域との交流が盛んだったことがうかがえる。

奈良時代には、市域の東西を貫く古代東海道が整備され、多くの人や物が都と行き来した。 清見潟(清水区興津)に関が置かれたことがきっかけで、清見寺が建立される。東海道の 難所の一つの薩埵峠は、古戦場として知られ、室町幕府初代将軍足利尊氏と弟の直義の間で 起こった争いの舞台となっている。室町幕府3代将軍義満、6代将軍義教は、遠戚の今川氏 を頼って富士遊覧に訪れ、義教は途中、三保松原や清見寺を遊覧している。三保松原の風景 は、歌川広重など江戸時代の浮世絵にも取り上げられ、今も昔も人々を魅了している

江戸時代には、東海道に宿場が整えられ、静岡市域には、蒲原宿、由比宿、興津宿、江尻 宿、府中宿、丸子宿の6宿が整備された。清見寺は外交の舞台となり、琉球使節団や朝鮮通 信使が度々訪れた。

静岡市域には、南北にも街道が通っている。興津から北に向かい甲斐国を結ぶ身延街道があり、宝永元年(1704)小島藩瀧脇松平氏はこの街道近くに陣屋を構えた。

久能街道は、府中宿と江尻宿から南へ向かい久能山東照宮に至る2本の街道である。この街道は、中世には行基が彫ったとされる観音像を安置する久能寺への参詣者が利用したと考えられる。元和2年(1616)徳川家康が死去し、久能山に東照大権現として祀られ、神廟と東照宮が建立されると、2代将軍秀忠や3代将軍家光、御三家の当主が参詣道とした。また、駿府城代や加番の大名・旗本が命日の4月 17 日には、神廟に参るためにこの街道を利用した。この街道は、久能の浜でつくった塩や採った魚貝を駿府や江尻の市場へ売りに出る生活道でもあった。

明治時代になると東海道に鉄道が開通し、東京からの交通の便が良くなったことから、駿河湾に面した蒲原から興津には華族が別荘を構えた。安倍川橋は、来る車社会を見越して大正 12年 (1923) に建設された。

列島の東西を繋ぐ大動脈として東海道新幹線と東名高速道路、本州中部を南北に結ぶ幹線 として中部横断道が通っており、静岡市は歴史を通して交通の要衝の役割を果たしている。

「歴史文化の特徴3に係る主要文化財 ※歴史文化の特徴を象徴するもの〕

- ・天王山遺跡
- ・曲金北遺跡
- ・薩埵峠
- ・三保松原
- ・清見寺の文化財
- ・東海道宇津ノ谷峠越
- ・各宿場の文化財
- · 史跡小鳥陣屋跡
- ・久能山東照宮
- ・安倍川橋



[歴史文化の特徴に4係る主要文化財の位置図]



歴史文化の特徴4 平野部と丘陵部で育まれた信仰と文化

静岡市域では、伝説の舞台となった日本平や三保松原、清見が関の風景が古くから絵画に 描かれたり歌に詠まれたりしており、それらの地域は現在でも観光名所となっている。また、 それらの多くの作品には、富士山が描かれている。

奈良時代に諸国に建立された国分寺は、駿河では、駿河区大谷の片山廃寺跡であることが ほぼ確実であり、有度丘陵西側のふもとが古代の信仰の中心地となった。平安時代には、賤 機丘陵南端に、富士宮市の大宮浅間神社本宮から分祀されて葵区宮ヶ崎町に浅間神社が勧請 され、富士山信仰の場となった。また、有度丘陵上には駿河湾で網にかかった観音像を本尊 として、南側の久能山を霊場とする久能寺が創建された。その後、中世に武田信玄が久能寺 を丘陵部の東側に移し、代わりに久能城を物見の場所として築造した。近世以降は徳川家康 が祀られ、久能山東照宮となっている。久能寺は近代以降に山岡鉄舟が鉄舟寺として再興し

有度丘陵上の斜面地を利用して作られた龍華寺庭園からは、清水港と富士山を望むことが できる。

有度山以外の丘陵も信仰の場であった。古くから信仰の場として、藁科川沿いの山の斜面 には、建穂寺が建立されたほか、清水平野を見下ろす山の中腹には、霊山寺が建立される。

傾斜地を利用して造営された庭園には、今川氏が創建した臨済寺や、再興した清見寺も挙 げられる。宗長が創建した柴屋寺も、背面にそびえる吐月峰と呼ばれる山を借景としている。 江戸時代になると、歌川広重や葛飾北斎が浮世絵に薩埵峠と富士山などの景色を描いた。 近代になると、海外からキリスト教の普及や茶の貿易などを通じて外国人が静岡市に居住

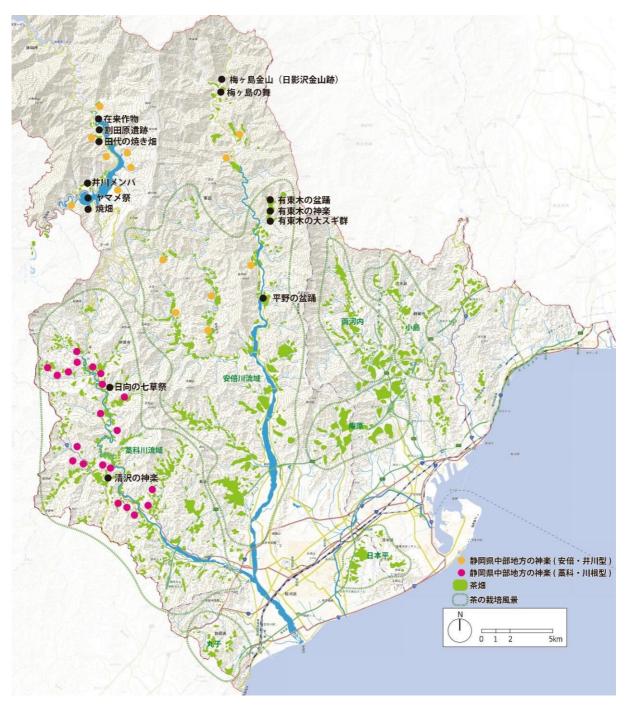
[歴史文化の特徴4に係る主要文化財 ※歴史文化の特徴を象徴するもの]

- ・三保松原
- ・日本平 ・片山廃寺跡
- ・尾羽廃寺跡
- ·神部神社浅間神社本殿
- ・久能寺縁起
- ・霊山寺仁王門
- ・建穂寺仏像群
- ・龍華寺庭園
- ・鉄舟禅寺
- ・久能山東照宮

- ・駿河七観音
- ・清見寺庭園
- ・臨済寺庭園
- ・柴屋寺庭園
- ・薩埵峠
- ・旧エンバーソン住宅
- ・旧静岡英和女学院院長住宅母屋
- ・御穂神社
- ・富士山(富士市、富士宮市、小山町、山梨県)



[歴史文化の特徴5に係る主要文化財の位置図]



歴史文化の特徴5 オクシズに息づく伝統文化

静岡市では、市内の中山間地域を「奥静岡」という意味で、オクシズという愛称で呼んでいる。オクシズに伝わる文化の多くは、そこに住む人々の生活と共に育まれてきた。

市域の 75%を占めている山林が広がる中山間地域では、南アルプスをはじめとする豊かな自然環境と人の営みが共存してきた歴史文化が息づいている。

田代(葵区井川)の南では、縄文時代の住居跡である割田原遺跡が発見されており、この 地域における人々の暮らしの歴史の長さが分かる。

オクシズには、平野部とは違う農業がある。田代や小河内で行われている焼畑は、一度畑を焼いたのち、3~4年間作物を栽培した後、地力が回復するまで 20~30 年待ってからまた作物を栽培する、植生回復まで見込んだ循環的な方法で行われている。田代では貴重なたんぱく源であるヤマメを使ったヤマメずしの材料となる粟をはじめとする在来作物は、今も焼畑によって栽培される。

水わさびの栽培は、斜面地に自生していたものを湧水源付近に植えたことから始まり、現在も、急峻な地形に3~4%の傾斜があるわさび田を利用した栽培が行われている。同じく斜面地では茶の栽培も行われている。茶の栽培は、鎌倉時代に正一国師が宋から茶の種を持ち帰ったことが始まりとされている。

産業の面では、戦国時代の金山がオクシズの特徴として挙げられる。安倍川上流、大井川 流域には、金鉱脈があり、金の採掘がおこなわれてきた。砂金を採取する際に使用した道具 を作る技術は、曲物として現在に受け継がれている。

また、金鉱脈に沿って温泉が分布する。

オクシズでは、人々の手によって神楽や盆踊りなどの無形の民俗文化財が現在まで継承されており、西隣の川根本町、島田市、藤枝市、焼津市を流れる大井川、瀬戸川流域の山間地に伝わる芸能と共通性をもつ。

山間地では、スギやヒノキが植林され、林業が盛んであるが、最近では、文化財建造物や 美術工芸品等に使用する漆を栽培しようと、市内に漆の苗を植林する取組が進められている。

[歴史文化の特徴5に係る主要文化財 ※歴史文化の特徴を象徴するもの]

- · 割田原遺跡
- ・在来作物
- ・茶の栽培風景
- ・梅ヶ島金山(日影沢金山跡)
- ・有東木の盆踊
- 静岡県中部地方の神楽
- ヤマメ祭り(ヤマメずし)
- ・漆の生産技術
- ・林業

- ・焼畑
- ・わさび
- ・採金に関わる道具類
- ・井川メンパ
- ・平野の盆踊
- ・日向の七草祭
- ・有東木の大スギ群
- ・農耕具等の民具



[歴史文化の特徴6に係る主要文化財の位置図]



歴史文化の特徴6 海と共存する歴史文化

静岡市の人々は、古くから広大な海とともに暮らしてきた。時には食料を獲得するため漁に出て、また、時には交易をして材を獲得するため海に出た。その後、海は政治外交路として利用されたほか、近代になると缶詰製造などの産業も加わり、より遠方との交易利用が行われた。その一方で、海沿いの地域は保養地として利用され続けており、静岡市はその歴史を通して多様な側面をもつ海と共存する歴史文化の特徴をもっている。

静岡市域では、縄文時代や弥生時代の遺跡から石製のおもり、古墳時代の遺跡から釣針や 堅魚を煮たと考えられる鍋が出土しており、当時から漁撈が盛んであった様子がわかる。ま た縄文時代は、矢じりに使う黒曜石を伊豆の神津島から獲得していた。

縄文時代早期から鎌倉時代にかけて砂嘴が成長し三保半島が形成され、天然の巨大な防波堤となり、港が発展する土壌となった。かつて半島全域に広がる松林であった三保松原のうち、内陸部は近代以降伐採されたが、海沿いの松原は美しく機能的な防災林として現在も保全されている。

奈良時代になると、『駿河国正 税 帳 』やケイセイ遺跡出土木簡などから、駿河国から塩や堅魚が税として納められたことが記録に残る。

室町時代に駿河国を治めた今川氏は、清水湊を海上交通や交流の拠点としていた。甲斐国から駿河へ侵攻した武田氏は、駿河支配の拠点として巴川の流れを利用した江尻城を築いた。 家康が駿府に在城していた頃には、土肥金山(現・伊豆市)から清水湊に、弁財船で金を輸送していた。

江戸時代になると、清水湊は駿府の外港として、江戸・大坂の両市場と駿府を結ぶ交通の中継地となった。また、富士川舟運を通して甲州・信州と江戸・大阪を結ぶ重要な湊であった。この時期、清水湊から出荷された主要な商品は茶であった。江戸時代を通して拡大した静岡市内の茶生産は、幕末の横浜開港を経て更に増大した。

明治時代、清水次郎長が清水湊を整備し、清水と横浜を結ぶ蒸気船定期航路を開いた。

また、東海道に鉄道が開通したことで、東京からの交通の便が良くなり、興津や蒲原には、 田中光顕ら華族が別荘地を構えるようになる。

昭和4年(1929)になると、日本最初の輸出用まぐろ缶詰会社が清水市に創設された。 蒲原町、由比町にも缶詰工場が作られた。

現在まで続く漁業も特徴である。駿河湾で取れる魚介類を「しずまえ鮮魚」という。静岡市 における代表的な「しずまえ鮮魚」にはサクラエビとシラスがある。

「歴史文化の特徴6に係る主要文化財 ※歴史文化の特徴を象徴するもの〕

・三保松原

・漁撈に関わる遺物(白浜遺跡・宮道遺跡・石川Ⅱ遺跡ほか)

海と共存する 歴史文化

・江尻城跡

・旧高木家住宅(次郎長生家)

・清水灯台

・市内の製茶産業(手揉製茶技術)

・清水港テルファー

・由比のお太鼓祭り

・缶詰製造技術

・サクラエビ漁

・シラス漁

・旧マッケンジー住宅

コラム ~静岡市の伝統工芸~

静岡市の伝統工芸は、3代将軍徳川家光が静岡浅間神社を造営する時に、全国の優れた名 エたちを集めたことが始まりと言われている。その名工たちが、駿府に定住して、現在まで 続く伝統産業の基礎を作ったとされている。

静岡市の主要産業の一つであるプラモデルは、昭和7年に青島飛行機研究所(葵区)から 木製模型飛行機が販売され、模型産業が生まれるきっかけとなった。戦前、模型飛行機が学 校の指定教材となり、全国に静岡の木製模型が広がっていく。1950 年代に海外から輸入さ れたプラスチックを素材としたプラモデルの登場により、静岡の木製模型は売れなくなった が、各模型メーカーは苦難を乗り越えて、プラスチックの模型に転換し、現在のプラスチッ クモデルメーカーの誕生につながった。現在でも、各模型会社には、初期の木製模型やプラ スチックモデルの金型が保管されている。

■伝統工芸ワークショップの実施概要

[日 時]第1回 令和5年9月10日(日) 駿府の工房 匠宿(駿河区丸子) 職人の指導のもとお茶染めの体験を行い、静岡市の伝統工芸を学び、匠宿の 取組や職人の話しを聞くことで、伝統工芸への理解を深めた。

第2回 令和5年10月22日(日) 静岡市役所

参加者それぞれ身近にあった伝統工芸を発表し、これまでの関わりを改めて 確認した後、職人や関係者と一緒に具体的なアイディアについて意見交換を行った。

[参加者] 第 | 回 | | 名 (サポーター 9、職人等 2) 第 2 回 | 0 名 (サポーター 9、職人等 4)



